

平成二十六年(二〇一四年)

博物館教育普及活動

沖縄県立博物館・美術館

平成26年度
(2014年度)

博物館教育普及活動



沖縄県立博物館・美術館

はじめに

博物館は様々な資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としています。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中軸施設であることも求められています。近年博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者はそれぞれが様々な目的を持って来館します。このような来館者の要求に、より高い満足度をもってこたえていくため、当館では今年度もいろいろな博物館事業を実施してまいりました。

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分け推進してきました。1つ目に、学校連携事業では、学校団体支援体制の強化を推進し、学校団体受入の充実を図ってきました。「出前授業等」では、学芸員と教師が連携した授業を9回実施することができました。

2つ目に、博物館が企画運営する事業として、平成26年度は、博物館ボランティアの募集と養成をおこない、総勢72名の博物館ボランティアを確保し、学校団体支援体制の強化を推進しサービスの向上に繋げることができました。また、総合展示部門解説ガイドボランティアを開始し、一般来館者へのサービス向上を図ることができました。

文化講座及び展示会関連講座は、「琉球の染織物再考・そしてこれから」を皮切りに全12回実施し、県民の皆様にも多くの参加をいただき好評を得ることができました。その他にも、「海に沈んだ先史人の足跡を探せ！」をはじめとする2種の体験学習教室の開催と、常設展展示解説会12回、学芸員講座とバックヤードツアーをそれぞれ12回、夏休み企画として「博物館学芸員教室」を全10教室、開催してまいりました。

当博物館としては、学校連携事業、文化講座、体験学習教室等に参加された皆様をとおして、沖縄の自然や歴史及び文化に触れ親しむ、知的文化的な好奇心の輪が広がることを願っております。そして、新しい時代に対応した、規模、目的、事業等をより広く、より深く、より大きく展開させ、県民と共に知的財産を創造していく博物館をめざしていきたいと考えております。

今年度の博物館教育普及事業の実施にあたり、ご講演、ご指導いただきました講師の方々をはじめ、ご協力いただきました博物館ボランティアの皆様、ならびに関係者各位に厚くお礼を申し上げます。

平成27年3月

沖縄県立博物館・美術館

館長 安里 進

博物館教育普及活動

目次

はじめに

I 博物館活動について…………… 1

- 1 はじめに
- 2 博物館活動（四つの車輪）
調査活動 展示活動 教育普及活動
保存管理
- 3 博物館の機能
- 4 博物館の施設
- 5 博物館教育普及活動の概要

II 学校連携…………… 7

- 学校団体受入要項
- 先生方へのお願いと確認
- 博物館を利用した学習（例）・プログラム例
- 県内学校団体受入一覧
- 博物館「出前授業等」実施要項
- 「出前授業」実施校

III 体験学習教室……………27

- 1 博物館体験学習実施要項
体験学習教室 活動状況・資料

IV 博物館文化講座……………42

- 1 博物館文化講座実施要項
- 2 文化講座の実施状況

V 博物館学芸員講座……………52

- 1 博物館学芸員講座実施要項
- 2 学芸員講座の実施状況

VI 展示解説会……………62

- 1 博物館展示解説会実施要項
- 2 実施状況

VII バックヤードツアー……………64

- 1 バックヤードツアー実施要項

VIII 夏休み！博物館学芸員教室…65

- 1 夏休み！学芸員教室実施要項
- 2 実施状況

IX ふれあい体験室……………71

- 1 ふれあい体験室の概要
- 2 体験キットの種類
- 3 スタッフの配置状況
- 4 利用者状況
- 5 ふれあい体験室の取組み

X ボランティア養成事業……………76

- 1 沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア活動実施要項
博物館ボランティア各種講座関連資料
博物館ボランティア登録申請書
ボランティア登録証交付式関連資料
博物館ボランティアのてびき
ボランティア通信

XI その他……………119

- 1 移動展
- 2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス
- 3 職場体験
- 4 けんぱくキット貸出
- 5 ボランティアによる展示ガイド
- 6 特別展・企画展付帯事業
- 7 常設展に関する取組み
- 8 共催事業
- 9 新聞・雑誌等掲載一覧
- 10 印刷物一覧

I 博物館活動について

1 はじめに

博物館は、調査研究、展示、教育普及、保存管理の四つを館活動の車輪としています。それら車輪を機能させるために館は次の4つのスタンスに基づいた活動を構築していきます。

- ・琉球王国時代の文化(王朝文化)を体系化し、現在につなげる視点からの活動。
- ・人類学に代表されるような、沖縄の特性を生かし、沖縄の優位性を発信する調査研究の推進。
- ・沖縄の自然、歴史、文化の独自性を発信。
- ・博物館が動き、観覧者が動く博物館活動の展開。

2 博物館活動(四つの車輪)

◎調査活動

沖縄に関する資料や関連資料は、本県の海洋性・島嶼性の地理的要因により日本や中国、東南アジア諸国までその範囲を広げています。そこで本県の豊かな自然や独自の歴史・文化に関する資料を自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の6分野で探求し、体系的に調査研究し、資料の充実を図ります。

また、各研究機関や大学と共同で調査研究を行い、沖縄が持つ特性や優位性を発揮できるよう努めます。

◎展示活動

展示は資料を公開することですが、その資料が持っている背景や意味も重要になります。学芸員の展示活動は、この資料が持つ意味をできるだけ詳細に分析し、得られた成果を展示等に活かすことです。

展示の形は、郷土を紹介する基本的な展示である常設展、ある特定のテーマで開催される特別展・企画展、そして各島々で開催される移動展は、島嶼県である本県の特徴的な展示活動です。

◎教育普及活動

博物館が持つ知的財産を一般に提供する手段として普及活動があります。学校などの教育機関や関連施設と連携協力を行うネットワーク化を推進し、教育的配慮のもと様々な方法をもって県民共有の財産としていきます。また、博物館活動を活性化するためには、県民の積極的な参画が必要です。そのため「友の会」と連携したボランティア活動を推進していきます。

博物館では、県内の文化講座で卓分け的存在である「博物館文化講座」や「体験学習教室」等を実施、遊びながら学べる「ふれあい体験室」も普及事業を担っています。

◎保存管理

博物館資料は、産地、用途、製作年、材質、大きさ等の違いにより、その種類は多岐に涉っています。これら博物館資料は、材質別・性質別に区分され、適切な温度・湿度や虫害などの対応ができるような環境で保存・管理され良好な状態で次世代へ引き継ぎます。また、資料の管理状況が把握できるようなデータベース化を進めています。

3 博物館の機能

博物館はその名の通り、様々な資料を収蔵している施設です。資料は収蔵されるだけでなく、できるだけ長くきれいな状態を維持するために整理・保存していきます。しかし、保管しているだけではなく、調査研究により、いつ・だれが・どこで・なんのためにつくったかを解明し、皆様へ紹介していきます。資料は、展示や講座、論文、インターネットなどにいろいろな媒体を通して、県民の知的財産として蓄積されていきます。

いつでも誰でもが利用できるようにするために、博物館にはいろいろな機能があります。

◎資料を保存する収蔵庫

博物館には、自然史・化石・特別（歴史・美工・民俗）・考古陶磁器・民俗・大型収蔵庫が設置され、それぞれの収蔵庫で、温度や湿度そして害虫などから資料を保護します。

◎資料を公開する展示室

博物館には、総合展示室・部門展示室・屋外展示・ふれあい体験室が配され、常設の展示を行っており、特別・企画展示室では、期間を限定して沖縄をはじめ、国内外の自然・歴史・文化に関する展示会が開催されます。

◎学習する場としての展示室、講座室

博物館は、「沖縄」について知り、そして将来の沖縄像を考える場所です。郷土学習に利用できる資料が分かりやすく展示されています。また、講演や体験とおした学習を行う講座室等があります。

◎資料を研究する学芸員研究室

博物館資料に関するあらゆる調査・研究は、この学芸員研究室を中心に行われます。7分野の学芸員が共同で、様々なテーマに取り組みます。ここで蓄積された研究成果は、研究資料室や情報センターに保管され、展示会や講演会などで公開されます。

◎博物館を管理する諸室

博物館の電気、空調施設などを管理するための機械室や、館を運営している職員が事務を行うための部屋があります。

4 博物館の施設

(1) 常設展示

常設展示のメインテーマは、「海と島に生きる-豊かさ、美しさ、平和を求めて-」です。沖縄は、立地・環境的に「海洋性」と「島嶼性」という特性を持ち、そこに住む人々は絶えず「豊かさ」と「平穏」を求め続けてきた歴史があります。その風土、自然のなかで育んできた歴史、文化を人類史・自然史の流れの中で位置付け、普遍的に海と島に生きていくことをメインテーマとしています。

その展示構成は、沖縄の歴史を時間で追いながら自由動線で観覧することのできる「総合展示」と自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの「部門展示」に分かれます。

総合展示は、次の10のテーマによって、琉球列島の生い立ちから現代までの約2万年に亘る沖縄の歴史をたどります。中国や日本の文化を取り入れながら、独特の文化を創造してきた琉球王国の時代、王国解体後の近代化する沖縄、現在の沖縄までを紹介します。

「ニライカナイの彼方から」「シマの自然とくらし」「海で結ばれた人々」「貝塚のムラから琉球王国へ」「王国の繁栄」「薩摩侵攻と琉球王国」「王国の衰亡」「沖縄の近代」「戦後の沖縄」「沖縄の今、そして未来へ」の順に展示を観ることができます。中央に配した「シマの自然とくらし」のエリアでは、沖縄の「海洋性」「島嶼性」を大型地形模型によって実感することができます。また、情報端末機で島ごとに異なる表情を持った自然やくらしなどを調べることができます。

部門展示は、総合展示を取り巻く展示です。自然史・考古・美術工芸・歴史・民俗の5つの部門展示室では、収蔵資料を活用しながら、各分野のテーマをより深め、展示替えの頻度を高める展示を目指します。

自然史部門展示

「生物が語る沖縄2億年」をテーマに。島の成り立ちや、島々で独特の進化をとげた生き物の世界を展示します。自然観察コーナーでは、顕微鏡で化石や昆虫、岩石の破片、植物標本などを見ることができます。

考古部門展示

「沖縄考古学の世界」と題し、沖縄考古学のこれまでの成果と課題を示しながら、「沖縄考古学」を体系的に学び、古の人々の生活を追体験することができます。

美術工芸部門展示

美術工芸部門展示では、「琉球の美」を求めます。琉球王国時代、それ以降の染織品、焼物、漆芸品などの工芸品や絵画、彫刻、書跡などの逸品をゆったり鑑賞することができます。1年に数回テーマを変え、様々な美術工芸の世界を通し、「琉球の美」を追求します。

歴史部門展示

「モノから読む沖縄の歴史」とし、歴史の中で産出された様々な「モノ」資料を通して、その資料のもつ時代的な意味を解き明かしていきます。展示室内の一角では「那覇港」をテーマに、近世に製作された屏風絵の世界から、そこで暮らした人々の息づかい、ひいては歴史的、文化的意味を紐解いていきます。

民俗部門展示

民俗部門展示は「沖縄の伝統と暮らし」です。民俗の宝庫といわれる沖縄の様々な生活シーンの中で創造されてきた民具や信仰などを通して、戦前から伝わる沖縄の民俗世界を追体験することができます。また、現代に息づく民俗の変容した姿を紹介します。

(2) 屋外展示

高倉

高倉は、穀物を貯蔵する倉庫です。床を上げて風通しを良くし、湿気やネズミの害を防ぐ工夫がなされています。構造の違いにより、沖縄式と奄美式に分かれます。この高倉は、昭和初期に建てられたものを、1976年に奄美から移築しました。

民家

沖縄の伝統的な民家は、高温多湿の気候風土に適した構造をしています。門扉が無く、母屋も雨戸を全開にして風を通します。また、母屋の正面にあるヒンプン（中垣）は、外部への目隠しとなります。この建物は、資料としてのみならず、講座や多種イベントの際にも会場の一部として活用されており、平時も靴を脱いでいただいたの内覧も可能となっています。

湧田窯

湧田窯は17世紀頃の窯跡で、平窯の構造が特徴です。主に、屋根瓦を焼いた窯です。琉球・沖縄の焼き物の歴史を考える上で貴重な資料です。

(3) ふれあい体験室

博物館常設展示室の手前にある「ふれあい体験室」には、27種類の体験キットが準備されています。これらは展示と関連しており、展示資料を深く理解できるように工夫されています。キットは、パズルのように組み立てるものなど、操作することによって、より理解が深まる仕組みとなっており、体験することで五感を通して沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」にふれることができます。

(詳細については「IX ふれあい体験室」を参照)

(4) 情報センター

情報センターは博物館・美術館の共用施設として、閲覧・検索用の座席を38席設けた情報提供のための部屋です。博物館の収蔵資料の検索や、DVDやビデオの視聴ができます。また、沖縄の自然、歴史、文化、美術等に関する専門図書、地方出版図書も配架され、来館者の調べ学習に対応できます。

(5) 講堂・講座室等

講堂

講演会、シンポジウム、映画上演などを行うことができます。212 席(車いす 2 人含む)を収容することができます。

講座室

100 名規模の講演会や会議などを開催できます。机、椅子を撤去すると、小学生 150 名程度の集会が可能です。

実習室

体験学習や実技講習会などを開催できます。40 名程度の収容が可能です。

(6) 救護室

来館中における、軽度の気分不良の際には、休憩をとることが可能です。(ベット数 1 台)

(7) 駐車場

一般車両 140 台(身障者用 4 台含)、バス 10 台が駐車可能です。
特別支援学校などの大型車両を横付けできるように、庇付きの玄関を用意してあります。
また、盲導犬のトイレを駐車場側と公園側に整備してあります。

(8) コインロッカー

百円コインが返還される、無料のロッカーが 204 本準備されています。大きな荷物を持参の際は、他の観覧者に迷惑にならないよう、お手荷物を預けてからの入館をお願いします。

(9) バリアフリー

博物館・美術館は、不特定多数の人々が利用するため、誰でも安全に利用しやすい施設にする必要があることから、以下のような整備を行っています。

- ・観覧者が利用するトイレには、車イス使用者や乳児連れ、オストメイトに対応した機能を設けています。
- ・講堂や講座室に磁気誘導ループを設置して難聴者をサポートしています。
- ・館入口に音声誘導装置を設置して視覚障害者をサポートしています。
- ・車イスや使用者駐車スペースには、雨天時の乗降に考慮して雨よけを設置しています。
- ・道路や公園からの主な敷地通路に誘導ブロックを設け、総合案内まで連続して敷設しています。
- ・高齢者や体の弱い人がゆっくり観賞できるように、展示室内に休憩室や椅子を準備しています。
- ・案内表示は日本語と英語の 2ヶ国語表示としています。

(10) 環境への配慮

太陽光発電システムの導入

環境負担の低減と電気量の節約を図るため、10kw 程度の太陽光発電装置を設置しています。

雨水及び再生水の有効利用

地下に雨水タンクを設けて、トイレ洗浄水や灌水に利用しています。

夜間電力を利用した氷蓄熱方式空調設備の導入

夜間の安価な電力で作った氷を館内の冷房に利用することにより、割高な昼間電力の増加を抑えています。

総合的有害虫管理 (IPM) 施設 IPM (Integrated Pest Management)

博物館・美術館では、病害虫を管理するために総合的有害虫管理 (IPM) を行っています。この管理方法は、施設を取り巻く環境状況と対象となる害虫の繁殖などの動きを考慮して、生物的防除、科学的・物理的防除を組み合わせることで、虫害菌を抑える管理方法です。

博物館を利用する方には、館内への飲み物、食べ物の持ち込みをご遠慮いただいています。遠足等の行事の際にも、荷物を車で管理する等の配慮をお願いしています。

5 博物館教育普及活動の概要

博物館の教育普及活動は、大きく二つの事業に分けることができます。一つめに、学校の計画する授業・行事等で博物館を活用する際に支援する学校連携事業があります。二つめに、博物館が企画運営する、文化講座、体験学習教室、ボランティア養成等のそれぞれの事業があります。それ以外にも、博物館を通しての教育普及に関する全般的な活動にも取り組みました。

(1) 学校連携事業

学校連携事業では、各学校の計画による団体観覧の支援で、教育課程の一環として博物館を利用する際に、館として支援することのできる学習内容の調整を行いました。学校の規模や授業の進度、生徒の実態等を含めた学校からの要望と博物館の施設・職員・ボランティアの支援体制を考慮して、学校と博物館が連携していく学習プログラムを作成しました。

今年度は、「博物館の見学のでびき」、「博物館が教室になる！（博学連携について）」、「見る・聞く・触る・匂う（貸出学習教材について）」を一冊にまとめた『博物館学校団体利用マニュアル』及び「出前授業等」実施要項を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布しました。

今後、県内外の多くの子どもたちに対し、博物館を利用した学習が幅広くおこなわれ、沖縄の自然、歴史、文化を伝え、学びの拠点になれるように一層の努力で取り組みます。

(2) 博物館文化講座

博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野についての講演、シンポジウム、実演、回によっては講演後には関連した展示場所での担当学芸員による展示解説を行う等、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。

(3) 学芸員講座

博物館の学芸員が、研究成果や収蔵品の成果等の講演や展示解説などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施しました。各分野の学芸員の充実した講話は、博物館をより身近に捉え、観覧者の層を拡大する大切な役割を担いました。

(4) 展示解説会

博物館の展示内容に関する資料などの解説を、学芸員の広い視点からわかり易く解説しました。当館における展示資料がどのようなねらいのもと、それぞれの展示室に設置されているかを理解し、総合博物館ならではの資料のつながりを知る機会としました。

(5) 体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵などを学ぶ機会としました。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示や企画展等と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供しました。

(6) バックヤードツアー

博物館のもつ、調査・研究・保存の各機能を担う諸室の見学を実施しました。普段は、入ることのできない収蔵庫やトラックヤードなどの機能を理解し、博物館についてより知ってもらう機会としました。

(7) 夏休み！ 博物館学芸員教室

学芸員が、夏休み休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究の導入となる内容を検討し、体験型の教室を開催しました。可能な限り博物館の情報を提供するなど郷土への興味・関心を高める場を提供しました。

(8) ボランティア養成講座

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入しています。

平成 26 年度は、多様化する来館者のニーズに対応し、よりきめ細かなサービスの寄与を目的として、第 6 期新規のボランティアを募集し、半年間にわたる養成講座をおこない、16 名のボランティア員の登録ができました。また、土・日・祝日のみ活動できる、ふれあい体験室専属ボランティアも併せて募集し、6 名のボランティア員の登録ができました。

(9) その他

フリーパス

県内の各小中学校に、施設を身近に感じてもらい、より多く来館してもらうために、フリーパスの制度を取り入れています。「ふれあい体験室」や博物館・美術館双方の常設展や特別展、企画展などに訪れた時に総合案内に提示すると、スタンプを押してもらうことができます。30 ポイント貯まると県立博物館・美術館オリジナルの景品をプレゼントします。

移動展

ふだん当館に足を運ぶことのできない離島や遠隔地の方々に移動展の展示を見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、博物館資料や美術作品を觀賞する機会を提供しました。今年度は、竹富町西表島で開催しました。

教育普及資料貸出

今年度は、博物館の教育普及資料の「むかしむん」4 件「洗濯ゴシゴシ」1 件「シンメーナービ」1 件「紅型のスディナ、絹赤地格子子供着、絹桃色地緋着物（大人用）」1 件を貸出しました。

II 学校連携

平成 26 年度 沖縄県立博物館・美術館—博物館利用学校団体受け入れ要項

1 ねらい

- (1) 博物館への学校団体をはじめとする入館者の増加を図る。
- (2) 博物館における団体受入を計画的に準備し、運営を行う。
- (3) 博物館を利用する学校団体に、博物館来館を年間計画の中に位置づけてもらうことにより、計画的な学習支援を行う。

2 対象・受け入れ内容等

	対 象	学習領域	受け入れ内容 *内容は、学校と博物館が調整して決める。	見学方法
1	【県内】 小学校 中学校 高等学校 特別支援学校 (各学年)	各教科の学習や総合的な学習の時間など	展示資料を、郷土について知るための教材として活用し、博物館や沖縄を知るための教室として利用してもらう。	○自由見学 (下見打合せ/無) ○ボランティアサポート (下見打合せ/有) ○夏季課題学習(主に高等学校) (下見打合せ/有)
2	【県内】 小学校 (3年)	社会科「昔の道具を体験しよう」など	民具体験学習(博物館収蔵の民具を活用した体験学習を行う)	ボランティアサポート (下見打合せ/有)
3	県内の教職員 (全校種)	校内研修など	博物館利用解説やバックヤードツアー等	(下見打合せ/有)

3 方法 (1)は館内情報センター(指定管理者) (2)は博物館(県担当学芸員)が対応します。

- (1) 必要事項を別紙『団体受付申込』に記入の上、沖縄県立博物館・美術館内の情報センターにFAXで申込む。

※学習プログラム希望の場合は、11月末までに申込むこと。

※希望日の受け入れについては、先着順。

- (2) 学習プログラム希望の場合について

※情報センターに『団体受付申込書』を提出後、博物館教育普及担当職員との下見の日程調整が必要です。

① 見学の2ヶ月前までに、当日引率する教師全員来館による、下見を行う。 * 博物館教育普及担当職員が対応。

② 見学の1カ月前までに、学習計画書を提出する。

11月末までに	見学の2ヶ月前までに(～11月末)	見学の1ヶ月前までに	来館当日
『団体受付申込』の提出 * 情報センターにFAXで申込	下見 * 博物館担当者対応 * 引率教員全員参加	学習計プログラムの完成 * ボランティアへの支援 依頼開始	

夏季・秋季休業等を利用されることをおすすめします。

学年会、教科会として利用することも可。

- (3) 自由見学の場合、下見の実施と学習計画書の提出は必要ありません。

4 その他

下見の受け入れ 期間:4～11月末 時間:9:00～17:00 所要時間:1～2時間程度

問合せ先:

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 沖縄県立博物館・美術館

『団体受付申込書』の提出→【情報センター】 Tel 098-941-1187 Fax098-941-3530

下見・学習計画書の提出→【博物館班 教育普及担当(金城久枝)】

Tel 098-851-5401 Fax098-941-3650

●博物館を利用して学ぶ

1 はじめに

博物館では、子どもから大人まで、生涯学習の一環として楽しく学ぶことができます。また、学校としての利用では“モノ”を通して、総合的で広がりのある学習内容を構成することが可能です。

博物館の各展示室では、沖縄の自然・歴史・文化について理解を深めることができます。さらに地域について理解を深めることは、県民にとって、将来について考える場ともなり、郷土に対する自信と誇りを持つことへ結びつけることもできるでしょう。

2 学校が利用する場合

(1) 日程の調整

- ① 施設の予約・日程調整等は情報センターで行います。
- ② 施設の下見から学習内容の調整を、博物館教育普及担当とともに行います。
- ③ 沖縄県立博物館・美術館は、指定管理者（文化の杜共同企業体）が館の管理運営を行います。
観覧当日の対応は、指定管理者がボランティア員を活用し対応します。

—指定管理者—

指定管理者とは「公の施設」の管理運営を、地方公共団体の指定した民間企業やNPO法人などでも包括的に委託できるという制度です。（地方自治法第244条の2）
博物館・美術館においては、文化の杜（共同企業体）が、施設全体の維持管理や利用料金の設定など、これまで自治体が行っていた業務を行うこととなります。

(2) 博物館下見、打合せ

【下見の前半】情報センター円卓にて

- ① 来館日、来館時間、クラス(生徒)数、当日の日程、引率者など申請書の確認
- ② 博物館利用にあたってのマナー確認

○観覧マナーについて

「博物館での見学マナー」を児童生徒に、事前に指導しておいて下さい。 *コピー可

- ③ 学習のねらい（めあて）の確認（なぜ博物館を利用するのか？）
- ④ 学習の展開方法（学習形態等）の確認（体験内容・学習方法・ボランティア活用・保護者協力など）
- ⑤ 筆記の際の支え（探検バッグ・ファイル）や持ち物（水筒・カメラなど）の確認
- ⑥ 博物館への飲食物持込みは禁止されています。〈IPMの考え方により〉

*博物館では、IPMの考え方から、環境にやさしい施設を目指しております。

飲み物や食べ物の館内持込みはご遠慮ください。

遠足時の行事の際にも、荷物を車で管理するなど配慮をお願いします。

—IPM(Integrated Pest Management)とは—

耕種的、生物的、科学的、物理的な防除法をうまく組み合わせ、経済的被害を生じるレベル以下に害虫個体群を減滅させ、かつその低いレベルを維持させるための害虫個体群管理のシステムです。

(3) 博物館を利用した授業の、学習計画を考えます

* 授業の導入での活用、 展開で活用、 まとめで活用するのか？

- ・ 博物館からの情報提供をもとに、学校主体で学習計画案を作成します。
- ・ 見学の順路や学習時間の配分は、博物館からも案を提供します。
- ・ 学習形態によっては、グループや個人の調べ学習への対応も考慮します。
- ・ 博物館利用のマナーについて、授業計画に入れて下さい。
- ・ 保護者引率の場合、事前に学習内容と役目等の説明を、学校側で行って下さい。
- ・ ボランティア員への協力要請は、学習プログラム決定後に行います。

(ボランティア員に連絡を入れます。急な変更には対応できません)

☆引率の先生が校外で行う授業です。免許を持たないボランティアは授業を行えません。

先生が、見学者やカメラマンにならないようにお願いします！

—ボランティア員—

博物館では、学校からの団体観覧をよりきめ細かに支援するために、ボランティア員を養成しています。現在は①誘導ボランティア ②展示ガイドボランティア ③体験サポートボランティア があります。

博物館ボランティアによる支援

① 誘導ボランティア

博物館の展示では、総合展示と、総合展示の周りに配置された部門展示室があります。広くて他の観覧者の多い展示室の中で、児童生徒を学級別に集団を保ちながら行動する場合に、案内人が必要となります。誘導ボランティア員は、学級の前後で学級担任の補助をする支援活動です。

② 展示ガイドボランティア

展示室における資料の解説は、ボランティアが行っており、解説ポイントをふまえ、学校側から依頼することができます。ただし、全ての要望には応じられないことをご了承下さい。

*ワークシートの活用について(答え合わせの為の展示ガイドにならないようにお願いします)。

③ 体験サポートボランティア

博物館での民具体験学習では、社会科の学習内容に対応した内容を推進しています。

体験内容には、運搬に関する体験、洗濯体験、着衣等の昔の暮らしの体験があります。

この体験では、各体験のサポートを博物館ボランティアが中心に行います(教員や保護者の引率者の参加協力をお願いします)。

【下見の後半】常設展示室、屋外体験実施場にて

- ・ 学習に必要な展示資料や以下の施設を確認します。
トイレ、集合場所、展示室、実習室、講座室、屋外等

3 当日の学習プログラムの流れ

☆入館した際、トイレを先に使用してから、オリエンテーション会場に入ります。

☆チケットは、主任の先生が「チケット売場」で、まとめて受取っておいて下さい。(欠席分は引く)

(1) オリエンテーション(児童向けのオリエンテーション約20分)＝先生とボランティア員とのミーティング *学習プログラムの確認、生徒の様子など申し送りなどを行います。

★博物館紹介(映像)―運営担当の職員(指定管理者)が行います。

ア マナーを含めた映像を準備しています。『みゆ一爺』と『アム』というキャラクターにより、博物館内における基本的なマナーや施設の紹介、展示品の紹介を、掛け合い言葉により行います。

イ 本時の「ねらい」の確認

*事前の下見調整において確認された内容の「めあて」を司会が読み上げます。

*博物館での約束(マナー)を、児童・生徒といっしょに声に出して読み合わせて確認をします。

ウ ボランティア紹介 (当日の対応は指定管理者が行います)

*当日の学習プログラムの、ボランティア員(誘導ボランティア員)を紹介します。

*展示室や屋外(民具体験)では(展示ガイドボランティア/体験サポートボランティア)の紹介があります。

(2) 博物館において学習活動を展開する

- ・児童生徒に、充実した活動内容が提供できるように、博物館、指定管理者、ボランティア、教師、保護者が連携して、博物館での学習を支援します。(安心安全な学習環境、主体的な学習を展開)
- ・体験では、実物に触れることで、子どもたちに感動の場を提供します。

(3) 体験学習(観覧体験のサイクル)

- ・観覧や体験ができる場所には、収容人数に限界があります。児童生徒全員に同じ体験をしてもらうために、サイクルで展示観覧と体験を行うようにしています。クラスが複数になると屋外での体験を先に行うクラスと、館内での観覧学習を先に進めるクラスを設定しています。
- ・体験資料(用具)や解説場所の関係上、少人数のグループ編成をしていただきます。

(4) まとめ

- ・一日の観覧・体験が終了した際に、博物館のホールや屋外の広場でまとめを行っています。基本的に学校の先生に司会をしてもらいながら進行します。博物館側からは、当日の観覧に協力したボランティアのスタッフも一緒に参加します。

(5) 博物館における学習活動を、次の学習に生かす

- ・博物館での活動を通して、わかったこと疑問点を確認。
- ・疑問点を見出して、自分なりに調査。
- ・博物館等の社会教育施設の利用を促進。
- ・新聞を作成する事などにより、学習の発表の機会の設定。

*博物館には、情報センターがあり、学習内容の研究を行うことができます。

発展 ★生徒用フリーパスの活用を呼び掛けて下さい

4 学習プログラムの組み立てについて

学習プログラム・・・学校が団体で博物館を利用する際に、学習内容等を組立てた計画

- (1) 学習プログラムは、博物館来館に際しての目標、順路、学習の展開などを、学校の実態に合わせて編制します。
- (2) 学習プログラムの企画調整は、県職員が行い、当日の運営は、指定管理者が行います。
- (3) プログラムに必要な施設利用の申請は、学校から指定管理者に対して行います。
⇒申し込みの際に、情報センターとの調整になります。
- (4) 学習プログラムの作成は、学校が主体となり、博物館はそれを補助します。
- (5) 実施計画は、当日の天候や渋滞等により、遅れなどといった学校の状況の変化によって、又は博物館ボランティアスタッフの状況によっては、変更される場合もあります。
- (6) 学校が博物館を教科単元の時間に活用する場合や、学校行事、サークル活動などさまざまなニーズに応じた学習内容を、学校の職員とともに作成します。
- (7) 教育普及担当との調整では、過去の計画案や展示資料の紹介などを行います。
- (8) 教員・保護者(協力者)の博物館での役割配置は、協議しながら決めていきます。
- (9) 先生方と行う下見調整は、プログラムの作成のために実施します。

5 ワークシートについて

- (1) 学習のねらいをはっきりとさせましょう！

*本時のねらいは？ ・授業の導入、展開、まとめとしての見学なのか？

*博物館のホームページを確認して下さい「博物館学習ノート」がダウンロードできます

- (2) 「博物館学習ノート」を活用し、生徒の実態に合わせた問題構成を考えましょう。
- (3) ワークシートは1コーナーにつき1・2問にし、あとは、感想・気づいたことや気に入ったものが記入できるようにしておくといいでしょう。1問につき回答時間はおよそ15~30分前後かかります。
- (4) ワークシートは記入欄を多くすると、生徒が説明を聞かず、記入することに集中してしまいます。
***博物館では収蔵品を観ること、ガイドの話聞くことが大切です。**
***当日は見学に専念し、学校で振り返り学習することも考えられます。**



○小学校3年生社会科 「昔の道具を体験しよう」「きょうどしりょう館をたずねて」

・地域に残る古い道具について～ 知る・ふれる(感じる)・考える・調べる

・昔の道具の使われ方(当時の暮らしの様子、生活の変化)～ 考える、調べる

* 児童の実態に合わせて選択、授業を組立てる
～引率の先生が(博物館で)行う授業です!

★博物館が提供できるメニュー

オリエンテーションとA:映像の視聴=(日本民藝館制作。昭和14年頃的那覇の市場などの風景。モノクロ映像)

* 博物館利用のオリエンテーションに合わせて 20分間

* 先生はこの時間、ボランティアとのミーティングを行ないます。

* 70年程前の沖縄の風景や生活の様子が出てきます。くらしの変容を考えさせます。

B:民具解説 (民具の名前や素材、使用方法を子どもたちとのやり取りで学ばせます)

15分間

C:民具体験

* **ペア**で行動。グループ単位で、ローテーションで体験学習をする

1) 運搬に関する道具＝ バーキ↓

(魚や作物の
運搬等で使用)



ガンシナ↓



ティール↓



2) 運搬に関する道具＝ オーダー↓

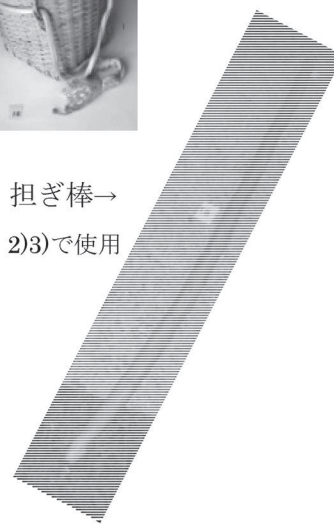
(薪の運搬等で使用)



3) 運搬に関する道具＝ ターグ →

(井戸水の運搬で使用)

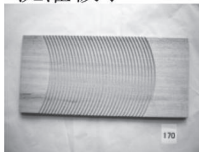
担ぎ棒→
2)3)で使用



4) 洗濯に関する道具＝ ターレー↓



洗濯板↓



5) 着衣に関する道具＝ アダン葉サバ↓

(畑仕事等で使用)



クバンヌー↓



クバガサ↓



D:民俗展示室での展示品解説 ① 畑の道具 ② 田んぼの道具 ③ 海の道具 ④ 台所周辺道具 →2か所選択

* 1か所およそ7分×2か所+移動=15分間



民具体験学習のポイント〈子どもからの視点〉



A映像解説

昔の沖縄の風景を観る・昔の人を観る

…映像を流しっぱなしにするのではなく、見せたい箇所で発問します！

B民具解説

民具にふれる・素材を考える・先人の技を考える

…体験する民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

C民具体験

道具(民具)にふれる 感じる・使い方を考える・使ってみる

…体験する民具の名前や使用方法を覚えるのが目的ではありません！

D民俗展示品解説

昔の道具を観る・使用方法を考える

今の生活との違いを考える・知る

…単なる民具の解説(名前/使用方法…知識)ではありません！

A・Bは指定管理者が **C・D**はボランティアが 担当します
発問によって子どもに考えさせる—子どもの興味を引き付けるようにします

***Cの着衣体験**に、保護者の参加をお願いします

誘導ボランティアさんの 役目 1クラスに1~2名配置します

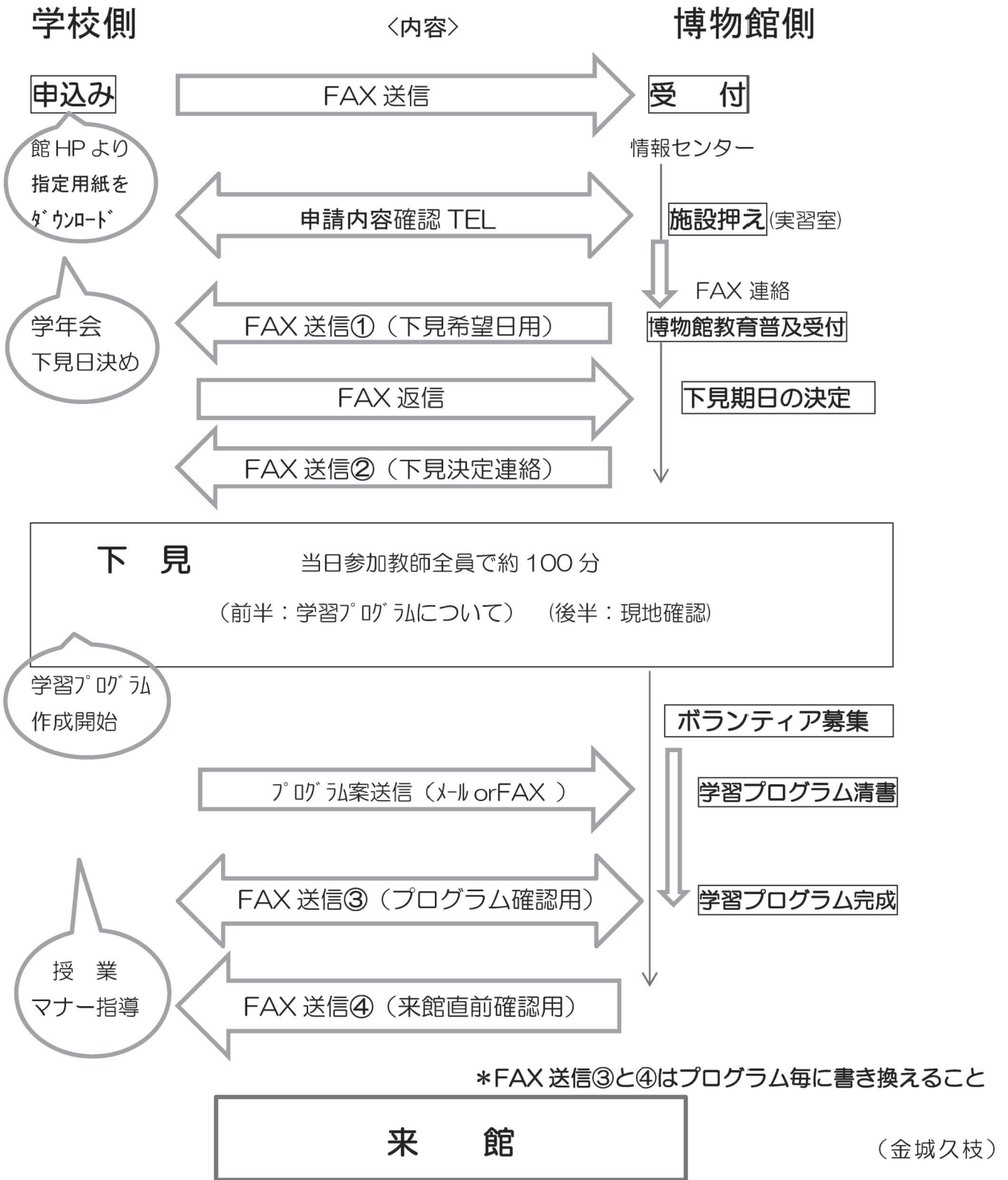
全体(流れ)を観る 時間を把握する

時間どおりに進める・時間調整をする

先生と連携する—相談し提案もする

子どもの安全を図る！

学校団体受入のキャッチボール (博物館を活用した授業)



博物館を利用した学習（例）

6 観覧の展開（例）

時	内容	教師	博物館	児童生徒
	オリエンテーション(実習室にて)	児童着席指示		トイレをすませ入室
	マナー&施設案内映像放映	※児童映像視聴時に担任と誘導ボランティアの観合せ	職員あいさつ 観覧順等確認	着席 施設利用の学習
	本時の目標の確認		博物館学習の目標	めあての確認
	ボランティア紹介(誘導)	学級担任のリード	誘導ボランティア紹介(誘導ボランティアは、担任と連携した動きを行う)	出発準備
	【学級別観覧】			
	1組	•授業の進行(ボランティアを活用した授業展開)	•「オリエンテーション」、A、Bの解説は文化の杜が行う。 •観覧順序に合わせ て誘導(誘導ボランティアは、タイムキーパー)	【博物館学習】 •体験(ふれる) •聴講(知る・考える) •観覧(調べる) •メモ(記録)
	2組			
	3組			
	選択する民具体験 □1) 運搬に関する道具(魚など) □2) 運搬に関する道具(薪など) □3) 運搬に関する道具(水) □4) 洗濯に関する道具 □5) 着衣に関する道具(畑仕事)	•ワークシートの有無(学習内容に合わせたワークシートの準備)-博物館学習ノート参照 有・無	•展示物解説はボランティアが行う(教師の進行に合わせてガイド、質問への回答)	※教師やガイドに従ってすみやかに
	ボランティアの配置			
	A画像解説 B民具体験 C民具体験 D展示物解説 ☆誘導ボランティア	文化の杜対応 (名) (名) (名)		
	まとめ：感想・お礼の挨拶(全体)	•司会進行(学校対応)		•整列 •あいさつ

社会科 へ博物館を利用した学習へ

市立 小学校 学年 小学 児童名
2014/ / () :00~ :00
教師名・MIA - 名・保護者名

A)オリエンテーション:実習室にて
B)民具体験:実習室にて
C)民具体験:屋外(民家回廊)にて
D)展示物解説:民俗部門展示室にて

1 単元名

2 単元目標

3 本時の指導目標

4 目標行動(本時のねらい)

5 博物館学習のポイント

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

2014/ () :00 ~ :00 市立 小学校 学年 クラス 名

1組担任: 2組担任:
3組担任: 教 師:

単元名

《ねらい》

1クラス= 名	名
C:1グループあたり= 名	名
D:1グループあたり= 名	名
ボランティア	
	名

★確認事項

- ①ワークシート:
- ②持ち物:
- ③名札の準備:
- ④支援の必要な児童の有無:
- ⑤来館方法:
- ⑥その他:

本日の実施団体名	時間/人数	名	名	名	11時	名	名	名	教師	ヘルパー	保護者
9時	9:30	50	55		10時						
1組	移動										
	A	オ									
	画	像									
	観	影									
	解	説									
	講	義									
	室										
	(実)										
	習										
	室										
2組	移動										
	55										
3組	移動										

☆清掃ボランティア...各1~2名

1組	2組	3組
----	----	----

オリエンテーション	文化の社	ボランティアサポート
A:画像解説	B:民具解説	文化の社

C:民具体験サポート...各1~2名 各クラス、グループに分かれ、分て交代

1)運搬に関する道具
=パーキ、ガンシナ、ティール
2)運搬に関する道具
=オーダー、かつぎ棒
3)運搬に関する道具
=ターグ、かつぎ棒
4)洗濯に関する道具
=洗濯板、ターレー(たらい)
5)着衣に関する道具
=カハガサ、クハンヌ、クタンハガサ

D:展示物解説...各2名 ※2グループに分かれ、0-10分を2か所を回る 分て交代

(畑の道具・田の道具・海の道具)
民家台所周辺道具

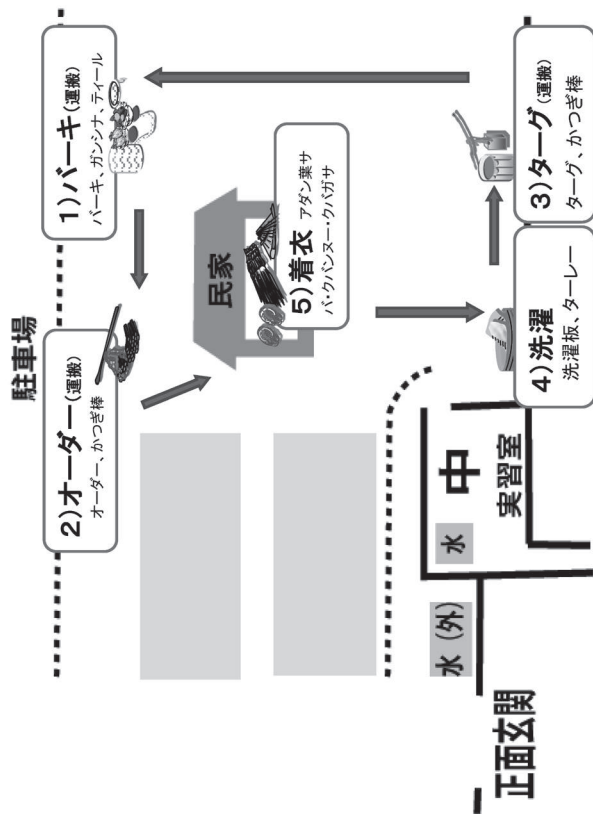
[C:民具体験配置図]

民具体験5種類選択

各コーナー 分間+移動分

(計 分)

- 1グループ約 人
- 5グループの0-10分
- 1 → 2 → 5 → 4 → 3
- 児童1人に付き(5)分の体験



- ☆移動の合図〔電子ホイッスル〕
- ・スタート・・・ホイッスル1回
- ・2分前・・・ホイッスル2回
- ・終了(移動)・・・ホイッスル3回

◆民具体験=Aグループ 1)→2)→5)→4)→3)
Bグループ 2)→5)→4)→3)→1)
Cグループ 5)→4)→3)→1)→2)
Dグループ 4)→3)→1)→2)→5)
Eグループ 3)→1)→2)→5)→4)
(1グループ約 人)
◆展示解説=2グループ (1グループ約 人)

プログラム例

■ 1クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時							
9:30		50		5 10		30		40		15 20		30	
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具 解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所	質問タイム	トイ(移動・水 レ関・休)	C 民具体験 1・2・5・4・3				移動	まとめ・お礼 (実習室)	

9時		10時				11時							
9:30		50		5 10		25 30		45 55		25 30		40	
1組	オリエンテーション A画像解説 (実習室)	B 民具 解説 (実習室)	移動	D 展示物 解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	トイ(移動・水 レ関・休)	C 民具体験 1・2・5・4・3				移動	まとめ・お礼 (実習室)

■ 2クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時							
9:30		50 55		25		40		55		15 20		30	
1組	A オリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・5・3			トイ(移動・水 レ関・休)	D 展示物 解説 ()・台所	質問タイム	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)	
2組		移動	D 展示物 解説 ()・台所	質問タイム	移動	B 民具 解説 (実習室)	トイ(移動・水 レ関・休)	C 民具体験 1・5・3				移動	まとめ・お礼 (実習室)

9時		10時				11時							
9:30		50 55		35		45		5		20 25		35	
1組	A オリエンテーション 画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3				トイ(移動・水 レ関・休)	D 展示物 解説 ()・台所	移動	B 民具 解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)	
2組		移動	D 展示物 解説 ()・台所	トイ(移動・水 レ関・休)	B 民具 解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・2・5・4・3				移動	まとめ・お礼 (実習室)	

■ 3クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時						
9:30		50	55	20	30	45	50	5	20	25	35	
1組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・5・3		移動・水 (玄関・トイレ)	B 民具解説 (実習室)	移動	〇〇タイム	移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	10	15	25	30	55	5	20	25	35	
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動	C 民具体験 1・5・3		移動・水 (玄関・トイレ)	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)
55	10	30	35	45	55	20	25	35				
2組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動・水 (玄関・トイレ)	C 民具体験 1・5・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	10	30	35	45	55	20	25	35		
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動	C 民具体験 1・5・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)		
55	10	30	35	45	55	20	25	35				
3組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動・水 (玄関・トイレ)	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	15	30	35	10	25	45	50			
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動・水 (玄関・トイレ)	〇〇タイム	移動	まとめ・お礼 (実習室)
55	10	15	30	35	55	10	45	50				

9時		10時				11時				12時まで			
9:30		50	55	30	45	5	25	30	45	50			
1組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動・水 (玄関・トイレ)	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)	
		55	15	30	35	10	25	45	50				
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動・水 (玄関・トイレ)	〇〇タイム	移動	まとめ・お礼 (実習室)	
55	10	15	30	35	55	10	45	50					
2組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動・水 (玄関・トイレ)	C 民具体験 1・5・4・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)	
		55	10	15	30	35	55	10	45	50			
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)			
55	10	15	30	35	55	10	45	50					
3組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動・水 (玄関・トイレ)	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)	
		55	15	30	35	10	25	45	50				
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	C 民具体験 1・5・4・3		移動	まとめ・お礼 (実習室)			
55	10	15	30	35	55	10	45	50					

■ 4クラスの組み合わせ例

9時		10時				11時						
9:30		50	55	15	25	40	45	5	20	25	35	
1組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動・水 (中)	B 民具解説 (実習室)	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	10	20	40	45	5	20	25	35		
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	(玄関・水)	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ・お礼 (実習室)
55	10	15	30	40	5	20	25	35				
2組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動・水 (玄関)	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	10	15	30	40	5	20	25	35		
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	(玄関・水)	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ・お礼 (実習室)
55	10	15	30	35	50	20	25	35				
3組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	10	15	30	35	50	20	25	35		
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	(玄関・水)	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ・お礼 (実習室)
55	10	15	30	35	50	20	25	35				
4組	オリエンテーション A画像解説(実習室)	移動	C 民具体験 1⇔4 3⇔5		移動・水 (玄関)	D 展示物解説 ()・台所	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	まとめ・お礼 (実習室)
		55	10	15	30	35	50	20	25	35		
		移動	D 展示物解説 ()・台所	移動	(玄関・水)	C 民具体験 1⇔4 3⇔5	移動	B 民具解説 (実習室)	移動	〇〇タイム トイレ休	移動	まとめ・お礼 (実習室)
55	10	15	30	35	50	20	25	35				

平成 26 年度 県内学校団体受入一覧

〔学習プログラム対応校〕

	学校名	月	日	曜日	観覧時間	学年	クラス	生徒数	保護者数	ボランティア数
1	阿波連小学校	6月	19日	木	14:00-16:00	小3	1	1	0	9
2	豊崎小学校	9月	24日	水	9:30-11:35	小3	4	125	11	16
3	兼城小学校	10月	8日	水	9:30-12:00	小3	4	116	10	17
4	米須小学校		9日	木	9:30-12:00	小3	1	31	0	11
5	宜野湾小学校		10日	金	9:30-11:30	小5	4	136	0	9
6	座安小学校		21日	火	9:30-11:45	小3	2	59	1	12
7	玉城小学校		11月	5日	水	9:30-12:00	小3	2	41	0
8	天妃小学校	11日		火	9:30-11:30	小3	2	70	7	12
9	真壁小学校	12月	2日	火	9:30-11:35	小3・4	2	35	8	12
10	石嶺小学校A		3日	水	9:30-11:35	小3	2	70	0	15
11	石嶺小学校B		4日	木	9:30-11:35	小3	2	68	0	15
12	那覇小学校		11日	木	9:30-11:30	小3	2	56	9	18
13	光洋小学校		16日	火	9:30-12:00	小3	3	76	0	12
14	古蔵小学校A		2015年 1月	7日	水	9:30-11:35	小3	2	62	0
15	古蔵小学校B	8日		木	9:30-11:35	小3	2	62	0	11
16	銘苺小学校A	9日		金	9:30-11:35	小3	2	64	3	10
17	東風平小学校	14日		水	9:30-12:00	小3	5	152	6	14
18	銘苺小学校B	15日		木	9:30-11:35	小3	2	64	7	14
19	識名小学校	16日		金	9:30-11:35	小3	4	124	19	13
20	城北小学校	20日		火	9:30-11:35	小3	4	124	10	13
21	松島小学校	21日		水	9:30-11:35	小3	4	117	6	14
22	宮城小学校	22日		木	9:30-11:35	小3	4	109	3	14
23	安謝小学校	23日		金	9:30-11:35	小3	3	85	10	9
24	北谷小学校	28日		水	9:30-11:35	小3	3	79	5	14
25	城東小学校	29日		木	9:30-11:35	小3	4	133	10	14
26	上間小学校	30日		金	9:30-11:35	小3	3	84	10	10
27	真嘉比小学校	2月		3日	火	9:30-11:35	小3	2	65	8
28	上田小学校A		4日	水	9:30-11:35	小3	3	105	7	14
29	上田小学校B		5日	木	9:30-11:35	小3	2	71	8	10
30	具志頭小学校		6日	金	9:30-11:35	小3	2	62	9	14
31	城岳小学校		10日	火	9:30-12:00	小3	3	94	10	11
32	潮平小学校		12日	木	9:30-11:35	小3	4	137	7	14
33	若狭小学校		13日	金	9:30-11:35	小3	2	66	7	9
34	さつき小学校		17日	火	9:30-11:35	小3	4	109	8	11
35	開南小学校		18日	水	9:30-11:35	小3	3	72	9	15
36	金城小学校		26日	木	9:30-11:35	小3	4	126	12	15
37	大道小学校		27日	金	9:30-11:35	小3	2	42	3	14

〔解説補助対応校等〕

	学校名等	月	日	曜日	時間	種類	対象	人数
1	那覇教育事務所	7月	29日	(火)	13:30-16:45	教職10年経験者研修	教員	15名
2	千葉県立国府台高等学校	10月	31日	(金)	11:20-12:00	展示室解説(美工)	学生	8名
3	千葉県立国府台高等学校	10月	31日	(金)	12:30-13:30	展示室解説(地学)	学生	8名
4	千葉県立国府台高等学校	10月	31日	(金)	14:00-15:00	展示室解説(生物)	学生	8名
5	名古屋大学教育学部附属高等学校	11月	13日	(木)	10:00-11:30	展示室解説(歴史)	学生	12名
6	新潟市立高志中等教育学校	平成27年 2月	26日	(木)	9:00-11:00	展示室解説(民俗)	学生	5名

平成26年度 博物館「出前授業等」実施要項

1 趣 旨

博物館のもつ資源（もの、情報）を出前授業等を通じて学校教育の場で有効に活用する。

2 内 容

- (1) 学校での授業や教員の研修会などに学芸員を講師として派遣する。
- (2) 授業では、ティーム・ティーチングの手法により、学芸員は教員と共同し、博物館資料を活用するなどして児童・生徒の学習を支援する。

3 対 象

県内公立学校及び私立学校（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）
※クラス単位もしくは学年単位

4 実施時間

1～2時間程度（調整可）

5 実施場所

当該校

6 申し込み方法

※別紙参照

7 その他

各学校から依頼の「出前授業等」に係る学芸員の派遣旅費（交通費）は、博物館で負担する。

出前授業等の申し込み方法と連絡先

○申し込み方法

希望日の2ヶ月前までに、
教育普及担当者へ電話で申し込む

TEL 098-851-5401



電話、メール等で期日や申し込み内容の調整



希望日の1ヶ月前までに、
出前授業依頼書または講師派遣依頼書を提出

(Fax、E-mailも可)

○連絡先

沖縄県立博物館・美術館

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

TEL 098-851-5401 FAX 098-941-3650

E-mail kinjohse@pref.okinawa.lg.jp

教育普及担当：金城久枝

※事業等の関係からご希望の日時に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

学 芸 員 紹 介

所属	担当分野		氏 名
博 物 館 班	自 然 史	生 物	山 崎 仁 也
		地 学	仲 里 健
		人 類	藤 田 祐 樹
		人 類	山 崎 真 治
	美 術 ・ 工 芸	絵 画 ・ 漆 器 ・ 陶 器	園 原 謙
		書 跡 ・ 彫 刻 ・ 染 織	與 那 嶺 一 子
	歴 史	近 世 ・ 古 琉 球	崎 原 恭 子
		近 現 代	石 垣 忍
	考 古		片 桐 千 亜 紀
	民 俗		大 湾 ゆ かり

○ 沖縄県の自然、歴史、文化をはじめ、上記内容について、学芸員が博物館のもつ資源（もの、情報）を活用し、児童・生徒の学習を支援します。

出前授業依頼書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校長

印

次の授業のため、講師の派遣をお願いします。

授業の種類	出前授業（校内・校外）
希望する講師	
日 時	平成 年 月 日（ 曜日） 時 分 ～ 時 分（ 校時）
場 所	
学 年	第 学年
児童・生徒数	名
教科名・領域名	
単 元 名	
学習目標 (ねらい)	(1) (2) (3)
担当者	学校住所 〒 Tel Fax 担当教員名 [] 連絡先（携帯電話等） []
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。

講 師 派 遣 依 頼 書

沖縄県立博物館・美術館長 殿

学校名

校 長

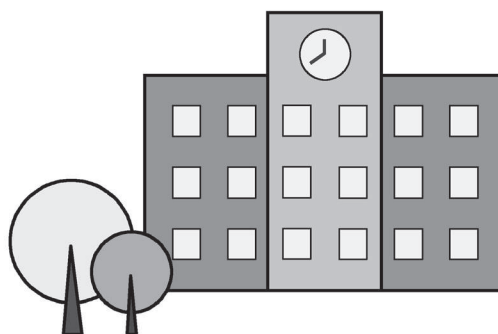
印

次のとおり、講師の派遣をお願いします。

行事名	
依頼内容	
希望する講師	
日 時	平成 年 月 日 (曜日) 時 分 ~ 時 分 (校時)
場 所	
対象者	
人 数	名
担当者	学校住所 〒 Tel Fax 担当教員名 [] 連絡先 (携帯電話等) []
その他	☆ご質問等があればお書き下さい。

平成 26 年度「出前授業等」実施校

- (1) 6月13日(金)
沖縄県立首里高等学校
染織デザイン科1年生～3年生 111名
- (2) 7月8日(火)
中城村立中城南小学校 6年生 61名
- (3) 7月10日(木)
那覇市立天久小学校 3年生 143名
- (4) 7月17日(木)
那覇市立泊小学校 3年生 121名
- (5) 7月25日(金)
恩納村立仲泊小中学校
校内研修 職員 25名
- (6) 10月8日(水)
沖縄県立北山高等学校 2年生 24名
- (7) 11月20日(木)
那覇市立天久小学校 3年生 49名
- (8) 11月26日(水)
沖縄県立向陽高等学校 1年生 240名
- (9) 12月4日(木)
那覇市立天久小学校 3年生 49名



(1) 首里高等学校 授業の様子



(2) 中城南小学校 授業の様子



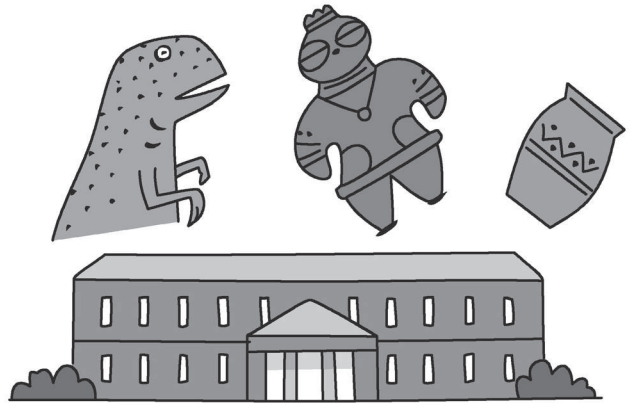
(3) 天久小学校 授業の様子



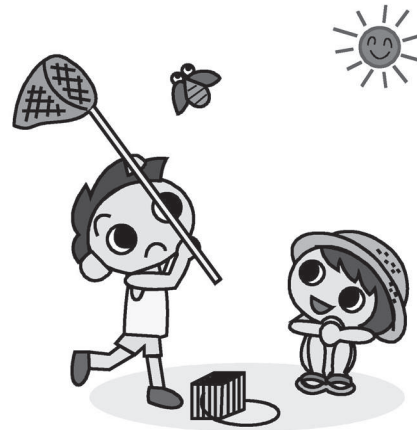
(4) 泊小学校 授業の様子



(5) 仲泊小中学校 校内研修の様子



(6) 北山高等学校 授業の様子



(9) 天久小学校 授業の様子



(9) 天久小学校 授業の様子

Ⅲ 体験学習教室

1 博物館体験学習教室実施要項

(1) 趣旨・目的

沖縄の歴史や文化および自然と結びついた体験的な活動をすることによって、郷土の文化や伝統に関心を持たせ、先人の知恵などを学ぶ。

(2) 内容

博物館の各分野(自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗)の展示内容と関連した体験的な活動を通して、県民が有意義に楽しく学ぶことが出来るよう企画する。

回	期日	題	講師名	内容	参加者
1	H26年 ①7月20日(日) [9:30~17:00] ②7月26日(土) [10:00~12:00]	カエルの解剖と骨格標本作り!	佐藤寛之氏 山崎仁也学芸員	2回連続講座として7/20、7/26の日程で、カエルの解剖と骨格標本作りを実施。1回目にカエルの解剖を行い、2回目に骨格の組み立てを行った。	20名
2	H26年 11月22日(土) [10:00~16:30]	海に沈んだ先史人の足跡を探せ!	崎原恒寿氏 片桐千亜紀学芸員	特別展関連催事で、子ども向けに実施。特別展の展示解説から始まり、恩納村貞栄田岬の石切場見学、南恩納北瀬高海岸遺物散布地にて土器探しを行った。	40名

(3) 実施日と場所

企画展や特別展、行事、博物館の展示等に関連したテーマに合わせて年間2回程度の実施。午前9時~12時までの3時間を基本とし、内容によって終了時間の調整(昼食時間を設ける等)を行った。場所は、基本として実習室。

(4) 受講方法

※1ヶ月前までに広報し、2週間前までに募集をかける。応募者多数の場合は抽選する。

(公平を期すため、館長もしくは副館長による抽選)

※抽選の場合、当選者には、すぐに当選の通知連絡を行う。

(5) 体験学習に係る役割

i 前日まで

①	事業起案及び講師依頼	博物館(教育普及担当)
②	マスコミ各社への取材依頼	指定管理者
③	受講生受け付け	指定管理者
④	講師事前打ち合わせ	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	説明資料作成	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑥	材料・道具等の諸準備	博物館(教育普及担当)、指定管理者、講師
⑦	ボランティア事前学習・準備作業調整	博物館(教育普及担当)、指定管理者

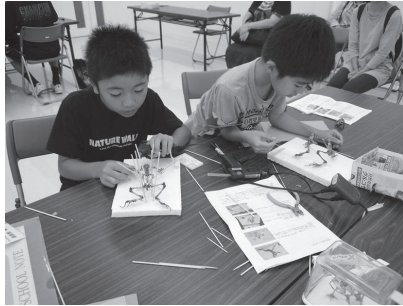
ii 当日運営

①	受け付け及び材料費の徴収	指定管理者
②	開講式 司会	指定管理者
③	講師紹介	博物館(教育普及担当)
④	講座の進行	博物館(教育普及担当)、指定管理者
⑤	材料等の準備及び配布	博物館(教育普及担当)、指定管理者、ボランティア
⑥	記念撮影	指定管理者
⑦	報償費支払い事務	指定管理者

☆カエルの解剖と骨格標本作り！



オオヒキガエルの解剖の様子



骨格標本の作製



完成したカエルの骨格標本を展示

☆海に沈んだ先史人の足跡を探せ！



特別展展示解説



真栄田岬の石切場見学



土器探しの様子

カエルの解剖と骨格標本づくり

おきなわけんりつはくぶくかん びじゅつかん はくぶつたけんけんきょうしつ
沖縄県立博物館・美術館 平成26年度 博物館体験教室

2回連続講座

1回目 **7月20日(日)**
 9:30～17:00(受付9:15)
 ※休講1期間

2回目 **7月26日(土)**
 10:00～12:00(受付9:45)

【内容・日程】

午前 9:30～12:00 **解剖**
 体の中はどんなつくりになっているのか？調べてみよう

午後 13:00～15:00 **骨格標本**
 ピンセットなどで、細かな筋肉などをキレイに取り除いて、骨だけを残して骨格標本を作ろう

【展示期間】
 7/26(土) 展示します(休講の日のみ)
 7/26(土)～8/22(金)

【博物館に展示しよう！】
 骨格標本の作りかたを、博物館に展示しよう！
 7/26(土) 展示します(休講の日のみ)
 7/26(土)～8/22(金)

対象：小学校4年生から中学校3年生まで20名
※20名の講師に申し込む方が対象となります。
 ※対象者以外、申し込みの受付はできません。
 ※対象者以外、申し込みの受付はできません。
 ※対象者以外、申し込みの受付はできません。

場所：沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室
 参加方法：事前申込制(来館、電話、郵送、FAX)
 受付期間：6/22(日)～7/11(金)まで
 ※応募者多数の場合、抽選の上、参加いただける方のみ7/16(木)までに1/1までご連絡いたします。

参加費：1人につき300円

講師：佐藤 寛之氏 (沖縄国際大学非常勤講師)
 山崎 仁也 (当館生物担当学芸員)

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)
 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、翌平日)、館内清掃期間(6/30日)～7/8(火) 担当：ぎば、わたべ

海に沈んだ先史人の足跡を探せ!

博物館特別展
 『水中文化遺産―海に沈んだ歴史のカケラ―』
 (2014.1/8(土)～2015.1/8(日)) 関連 H26年度 博物館体験学習教室

【体験】
 10:30～11:00
 とくづくんでんじ せいじつ
『特別展展示解説』
 「水中文化遺産」ってなんだろ？
 特別展の展示を見ながら学習しよう！
 ※無料から直接参加は受け付けておりません。

12:00～12:30
 せいじつ せいじつ
『真栄田の石切場跡』
 石をよく見てみるよ・・・？

13:00～14:30
 せいじつ せいじつ
『南恩納北勢高海洋遺物散布地』
 「歴史のカケラ」を拾って特別展に展示しよう！
 ※持ち帰りもできます。

11月22(土)
 10:00～16:00
 集合時間：10時～10時15分
 集合場所：沖縄県立博物館・美術館 3F 特別展示室前

対象：小学校3年生から中学校3年生まで40名
 ※バスの場合上、申込者以外の参加はご遠慮ください。
 ※現地から直接参加は受け付けておりません。
 参加費：300円/1人(保険料、特別展入場料)
 ※特別展入場券は、受付時にお渡しします。

【参加方法】事前申込(来館、電話、郵送、FAX)
 受付期間：10/23(木)から11/6(木)
 ※応募者多数の場合、抽選の上、ご参加いただける方のみ11/11(日)までに1/1までご連絡いたします。

講師
 崎原 恒寿氏 (総務課教育委員会文化財担当)
 片桐 千亜紀 (当館考古担当学芸員)

ご先組様が残してくれた、海に沈んだ歴史のカケラを探そう！
 私たちのご先組様たちは、大昔から豊かな海や山の自然を利用して暮らしてきました。恩納村南恩納の海の中には、約3500年前のご先組様たちが使っていた道具が人知れず沈んでいます。海に沈んだ歴史のカケラである昔の土器や石器などをみんなで一緒に探してみよう。ほかにも真栄田岬周辺にあるご先組様たちの知恵と努力の結晶である石を切った痕跡をたどろう。

16:00 当館駐車場にて、解散

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)
 休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合、翌平日) 担当：ぎば、わたべ

平成26年度 第1回講座

博物館体験学習教室

『カエルの解剖と骨格標本作り！！』



期日 平成26年7月20日(日) 9:30～17:00
時間 7月26日(土) 10:00～12:00

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

日程

7月 20日 (日)	受け付け	09:15	～	09:30
	開講式	09:30	～	09:35
	講座(実習)	09:35	～	16:15
	《解剖・標本作製》			
	後片付け	16:15	～	16:35
閉講式	16:35	～	17:00	

※昼食～各自館外にて 13:00～14:00

7月 26日 (土)	受け付け	09:45	～	10:00
	講座(実習)	10:00	～	12:00
	《標本作製・完成・展示》			

平成 26 年度 博物館 体験学習教室
「カエルの解剖と骨格標本作り！」実施計画

2014. 教育普及

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成 26 年 7 月 20 日(日) 9:30～17:00
7 月 26 日(土) 10:00～12:00

3 対象者

小学校4学年～中学生

4 募集人員

(20)名

5 場 所

博物館実習室

6 日 程

7 月 20 日(日)

担当、講師、ボランティア顔合わせ(流れ確認)	9:00～9:10
受 付	9:15～9:30
開講式 <実習室>	9:30～9:35
始めの言葉……司会 (文化の杜: 亘保)	
講師紹介……教育普及担当 (金城)	

講 座 <実習室>

《 解剖についての説明・オオヒキガエル解剖 》	9:35～11:00
《 標本作成 》	11:00～16:30

↓

お昼時間	12:00～13:00
------	-------------

《 標本作成 》	～16:30
----------	--------

後片づけ・連絡等	16:30～17:00
----------	-------------

7 月 26 日(土)

受 付	9:45～10:00
講 座 <実習室>	
《 標本作成 完成、展示 》	10:00～12:00

7 講師

佐藤寛之（沖縄国際大学非常勤講師）

山崎仁也（沖縄県立博物館・美術館 生物担当学芸員）

8 役割分担

(1)当日までの役割分担

① 事業起案及び講師依頼

金城、山崎

② マスコミ各社への取材依頼

文化の杜

③ 受講生受け付け

文化の杜

④ 講師打ち合わせ

山崎、金城、亘保、渡部、比嘉

⑤ 説明資料作成

山崎、佐藤

⑥ 報償費支払い事務

文化の杜

⑦ 材料・用具等の諸準備

文化の杜 博物館ボランティア

(5人)

(2)当日の役割分担

① 受け付け及び材料費の徴収

亘保、渡部、(大瀨)

② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介

司会

亘保

講師紹介

金城

③ 講座の進行

亘保

④ 材料等の準備及び配布

博物館ボランティア

⑤ 記念撮影

文化の杜

9 準備するもの(材料・用具等)

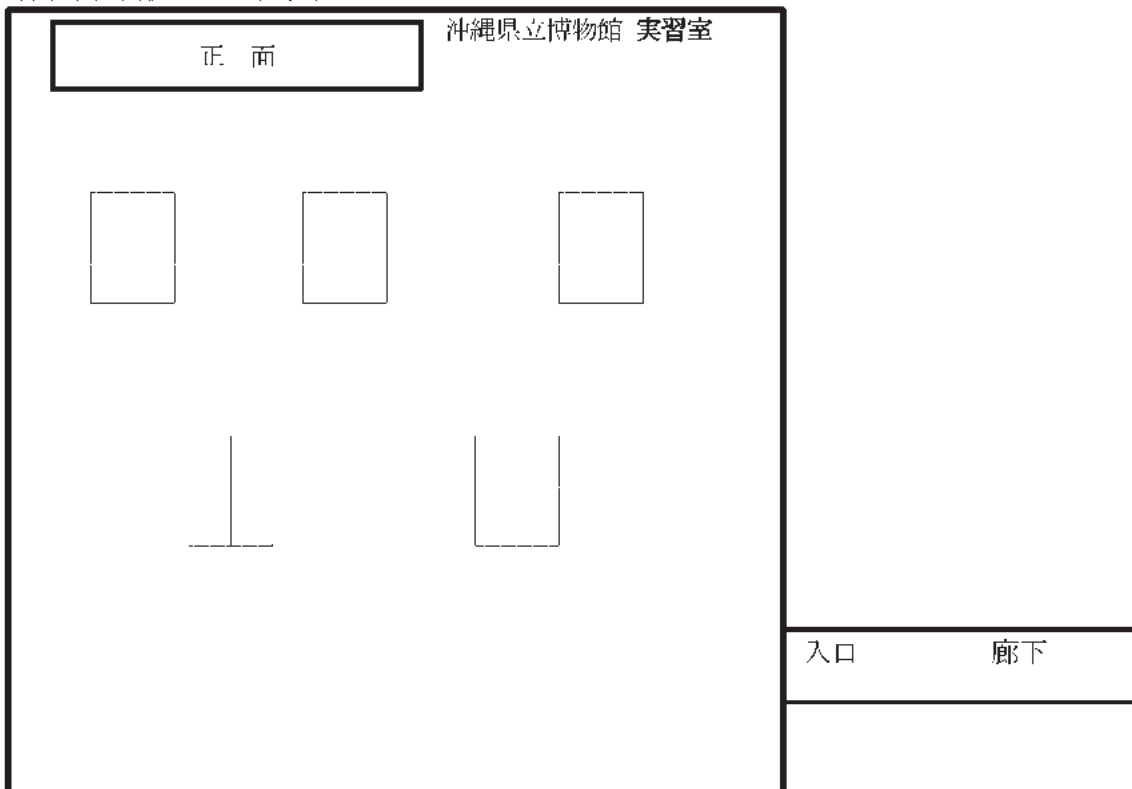
◎必要な材料・用具

○館側が準備するもの・・・別紙あり(渡部作成)

○受講生が準備するもの

・材料費 1人(300)円

10 体験会場(机・イスの配置)

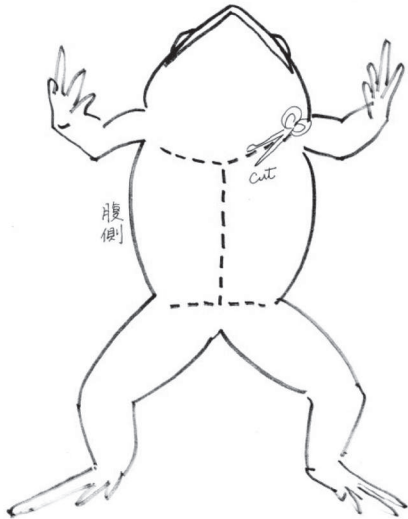


カエルの解剖と骨格標本作り レジュメ

【解剖】

(1) 材料 オオヒキガエル：南北アメリカ大陸の中央、熱帯雨林に生息する大型のカエル。耳腺から、白い毒を出す。今回使用する資料は、石垣島で駆除したものを送っていただいた。

(2) 解剖の手順



① 大きさを測る。(結果を下の表に記録)

② 図の腹部の点線位置を目安に、解剖ばさみで切り開く。切り始めは皮をひっぱり、ハサミの先で“ちょん”と穴を開ける。穴が開いたら皮をひっぱりながらハサミを入れるとやりやすい。

③ 内部形態をスケッチする。カメラをもっている人は撮影する。

④ 胃の上下を切って取り外し、切り開いてその容物を、水を張った容器に出す。

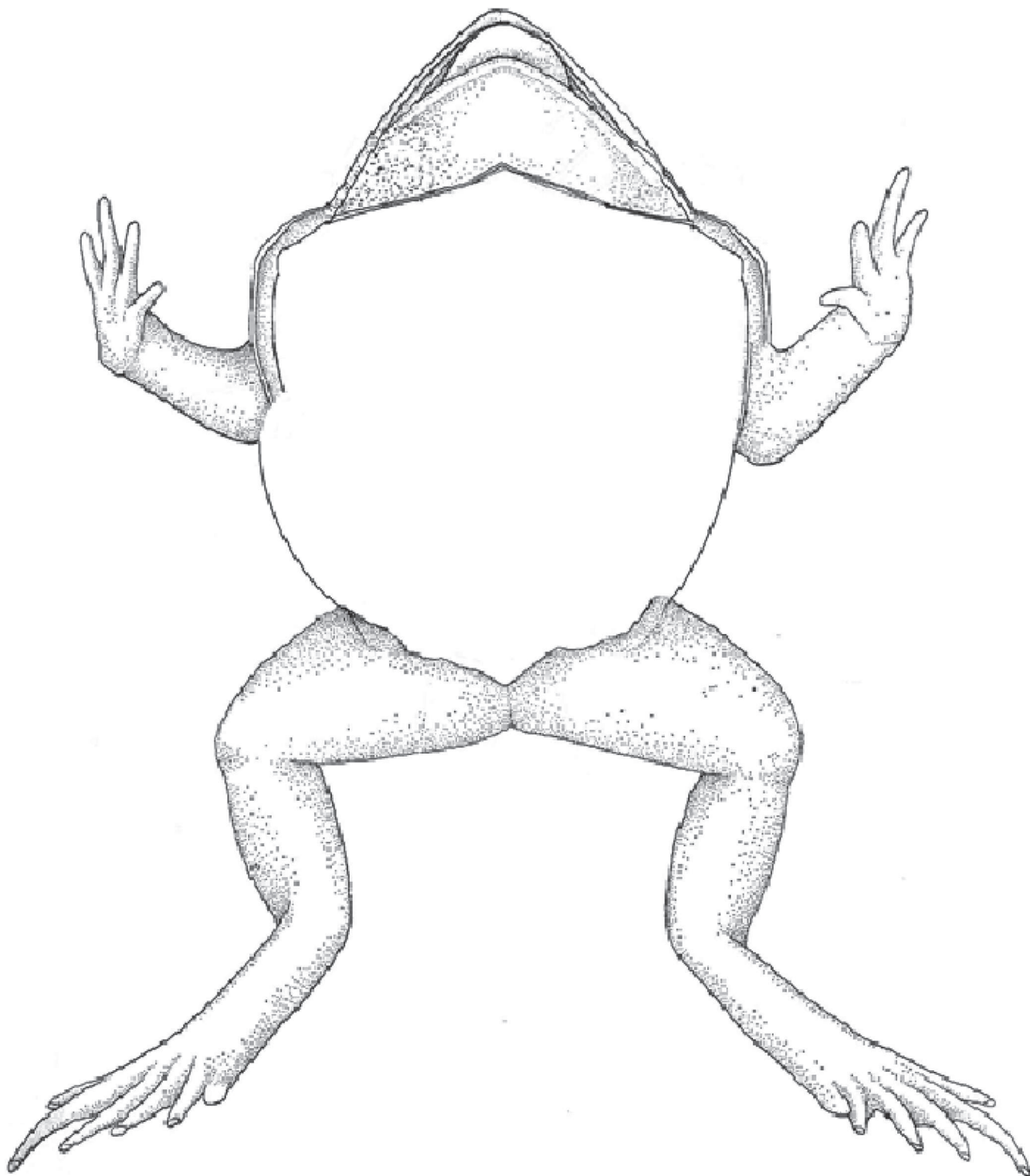
⑤ 解剖してわかったことや考えたことを、メモしておく

カエルの解剖 各部位測定値記録表

性別	オス	メス
頭胴長		cm
頭幅		cm
体重		g
卵の有無	有	無
胃内容		

《考えたこと》

下の図に解剖した内蔵のスケッチを書き入れよう！
また、胃、心臓、肺、腸、肝臓はどこか、矢印で示そう！



こっかくひょうほん 骨格標本の作り方

2014.07.20. 県立博物館・美術館
佐藤寛之

はじめに

生き物はどうなっているんだろう？身近な生き物に関する不思議がたくさんあります。そういった疑問を解明してくれるのが生き物そのものを保存した標本という存在です。標本にはいろいろな目的があって作られ、保存されます。いくつかの約束事を守れば皆さんの作った昆虫標本だって未来永劫その学術的価値を認められる事だってあるのです。標本を価値あるものにするために標本に必要な情報を忘れずに残しましょう。

- ・ その生き物の名前、採集日時・場所の記述
- ・ できれば採集した人の名前、標本にした日付

最低限これが記述されている標本は確実にその時間、その場所に、その生き物が生きていたという確実な証拠になるのです。そういった膨大な証拠をもとにして研究が進んでいくのです。

今回はその中でも動物の骨格を標本にする「骨格標本」を皆さんと作っていきたいと思います。骨格標本とは動物を骨格だけの状態にして保存した標本です。生き物の体の動きを決める骨格をじっくり観察する事が出来るのが特徴です。

◎ 骨格標本の作り方

1 使う道具を準備をする（標本の解凍、道具や薬品の準備）

解剖：解剖道具（メス、ハサミ、ピンセットなど）、バット、真鍮針金（最後に標本を固定する）、ディスプレイザブル手袋、（なめし革用：ミョウバン、ホウ酸、塩、ビニール袋）、デジカメ（記録用）除肉、漂白：ポリドント、ビニール袋（今回は使用しません）

成形：発泡スチロール板、竹串、楊枝、虫ピン、スーパーXクリア（ボンド）、ラッカープレー（クリア）

2 皮を剥ぐ、内臓を除去する → 剥いだ皮をなめす

この際、頭部を切断しておく。脊椎骨の継ぎ目に沿って刃物を入れていくと切り離せます。頭は頭でなるべくきれいに除肉しましょう。取り除いた肉や内臓は新聞紙などにまとめてからビニール袋に包むなどして燃えるゴミにだしましょう



3 筋肉を出来るだけ取り除く



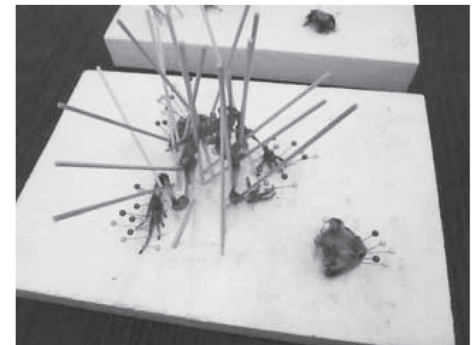
4 ポリデントにつけてほうち→ 数日後に水洗、除肉(繰り返す)
(※今回は省略します)

漂白と除菌、蛋白質の除去をしてくれる薬剤です。何度か液を変えてやる事で除肉が簡単に行なえ、きれいな標本になります。



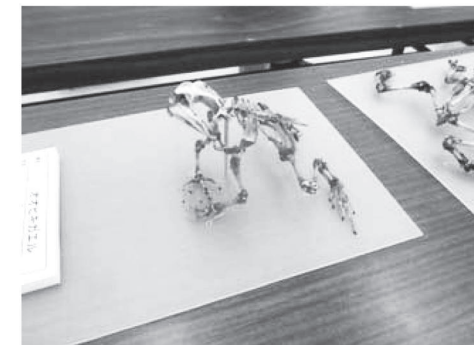
5 形を整えて乾燥、防腐処理

乾燥させると標本の形はもう変わりません。成形時点できちんとした形にしましょう。乾燥後は頭部を接着剤で胴体と接続し、スプレーラッカーなどを吹き付けてコーティングします。



6 ラベルを付けて完成

生き物の名前、標本にした日付、作成者など必要事項を記入した紙と共に保存します。



どうでしたか、実際に作ってみて難しかったですか？簡単でしたか？骨格標本作りはその生き物の体の仕組みを理解する一番基礎的な技術です。いくつか制作してみると生き物の体の仕組みが理解出来るようになります。今回は一日で作ってしまうのですが本来は数日から数週間かけてじっくり作っていき、特に除肉の行程を時間をかけて丁寧に行うと本当にきれいな標本になります。お家でも出来ない事は無いと思うので興味があれば挑戦してみてください。

是非とも「今回だけ」でなく、今後にもいろいろな生き物に興味を持ち、しっかり観察し、じっくり調べて、自分なりの不思議を見つけてみて下さい。

平成26年度

博物館体験学習教室

第2回講座

『海に沈んだ先史人の足跡を探せ！』



期日 平成26年11月22日（土）
時間 10：00～16：30

場所 沖縄県立博物館・美術館 ～ 恩納村

日程

11月22日（土）	受け付け	10:00 ～ 10:15
	開講式	10:15 ～ 10:25
	講座（特別展展示解説）	10:30 ～ 11:00
	移動（バス）	11:15 ～ 12:00
	現地実習	12:15 ～ 14:45
	真栄田岬、南恩納北瀬高海岸遺物散布地	
	閉講式	14:45 ～ 15:00
	移動（バス）	15:10 ～ 16:00
	片づけ・諸連絡	16:10 ～ 16:30

1 目 的

博物館体験学習教室は、子どもを中心とした県民に対し、体験を通して郷土の自然や歴史の中で育まれてきた知恵、伝統文化について理解を深めるための機会を提供する。

2 日 時

平成26年 11 月 22 日(土) 9:30～17:00

3 対象者

小学校(4)学年 ～ 中学生

4 募集人員

(40)名

5 場 所

沖縄県立博物館・美術館 ～ 恩納村

6 講 師

崎原 恒寿(恩納村教育委員会 文化財係)

片桐 千亜紀(沖縄県立博物館・美術館 考古担当学芸員)

7 準備するもの(用具等)

◎必要な用具

○館側が準備するもの(文化の杜)

救急箱、ユニパック、トイレトペーパー、水(キープ)

○参加者が準備するもの

・参加費用(特別展入場料 240円、保険料 50円)

・昼食用おにぎり(2コほど) ・帽子 ・タオル ・長靴又は靴(滑らないもの) ・酔い止め薬

・防寒用上着 ・飲み物 ・デジカメ(各自管理)

○服装 …… 濡れてもいい軽装 (必要な人は着替え持参)

8 日程

11月22日(土)

10:00～10:15

受付 <特別展展示室前>

講座開始

<p>10:15～10:25</p> <p>10:30～11:00 11:00～11:10</p> <p>11:15 (出発)</p> <p>12:00 (到着) 12:15～12:40 12:50 (出発)</p> <p>13:10 (到着)</p> <p>13:15～13:30 13:35～14:35</p> <p>14:45</p>	<p>開講式 始めの言葉……司会 (文化の杜:亓保) 講師紹介……教育普及担当 (金城)</p> <p><特別展展示室> 特別展展示解説 駐車場へ移動 (バス乗車)</p> <p>沖縄県立博物館・美術館 〈西原IC ～石川IC〉 ～ 車中にて軽食(各自) ～</p> <p>第1目的地 真栄田岬 ○真栄田岬海岸石切場見学 真栄田岬</p> <p>第2目的地 南恩納北勢高海岸遺物散布地 漁港前道路にて下車 ○講師による説明 ○2グループに分かれ海岸での遺物収集</p> <p>遺物収集終了後、ふれあいネット ONNA 駐市場集合</p>
<p>14:45～15:00</p> <p>15:10 (出発)</p> <p>16:00 (到着) 16:10</p>	<p>閉講式 始めの言葉……司会 (文化の杜:亓保) 参加者からの感想等 講師から講評など</p> <p>ふれあいネット ONNA 駐車場 〈石川IC ～西原IC〉</p> <p>沖縄県立博物館・美術館 到着後解散</p>

9 役割分担

(1)当日までの役割分担

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| ① 事業起案及び講師依頼 | 金城、片桐 |
| ② マスコミ各社への取材依頼 | 文化の杜 |
| ③ 受講生受け付け | 文化の杜 |
| ④ 講師打ち合わせ | 片桐、金城、亘保、渡部、比嘉 |
| ⑤ 説明資料作成・・・開催1週間前までをお願いしたい。 | 片桐、崎原 |
| ⑥ 交通費支払い事務 | 文化の杜 |
| ⑦ 持ち物・用具等の諸準備 | 文化の杜 |
| ⑧ ボランティア募集（5名程度） | 比嘉 |

(2)当日の役割分担

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ① 受け付け及び参加費の徴収 | 亘保、渡部 |
| ② 開講式・閉講式司会進行及び講師紹介 | |
| 司会 | 亘保 |
| 講師紹介 | 金城 |
| ③ 講座の進行 | 亘保 |
| ④ 参加者安全面管理手伝い | 比嘉、渡部、博物館ボランティア |
| ⑤ 記念撮影 | 文化の杜 |
| ⑥ 先導車(緊急時対応等) | 文化の杜 |

平成 26 年度 博物館体験学習教室

「海に沈んだ先史人の足跡を探せ！」

期 日：平成 26 年 11 月 22 日（土） 10:00 ～ 16:30

場 所：沖縄県立博物館・美術館 ～ 恩納村

日 程

10:00～10:15 受 付 <特別展展示室前>

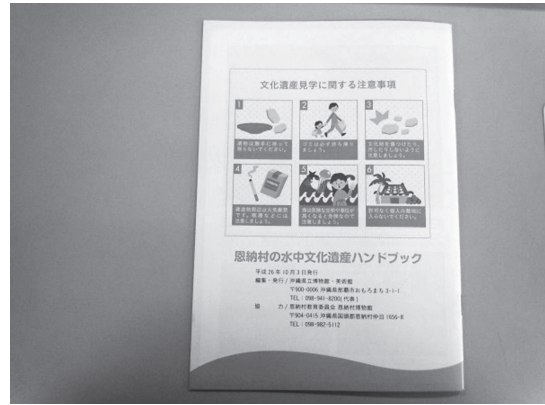
講 座 開 始

10:15～10:25	開講式 始めの言葉……司会（文化の杜:宜保） 講師紹介……教育普及担当（金城）
10:30～11:00 11:00～11:10	<特別展展示室> 特別展展示解説 駐車場へ移動（バス乗車）
11:15（出発）	沖縄県立博物館・美術館 <西原IC～石川IC> ～車中にて軽食(各自)～
12:00（到着） 12:15～12:40	第1目的地 真栄田岬（真栄田岬公園駐車場） ○真栄田岬海岸石切場見学
12:40～12:50 12:50（出発）	～トイレ休憩～ 真栄田岬（真栄田岬公園駐車場）
13:10（到着）	第2目的地 南恩納北勢高海岸遺物散布地 漁港前道路にて下車
13:15～13:30 13:35～14:35	○講師による説明 ○2グループに分かれ海岸での遺物収集 Aグループ・・・崎原先生、 Bグループ・・・片桐先生
14:45	遺物収集終了後、ふれあいネット ONNA 駐車場集合
14:45～15:00	閉講式 始めの言葉……司会（文化の杜:宜保） 参加者からの感想等 講師から講評など
15:00～15:10 15:10（出発）	～トイレ休憩～ ふれあいネット ONNA 駐車場 <石川IC～西原IC>
16:00（到着） 16:10	沖縄県立博物館・美術館 到着後解散

平成26年度博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」関連 体験学習教室ハンドブック



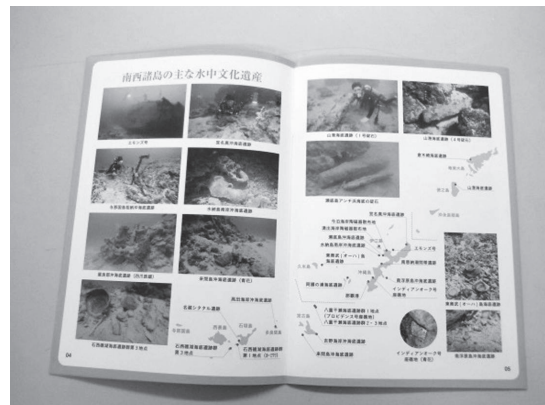
恩納村の水中文化遺産ハンドブック



編集・発行：沖縄県立博物館・美術館
協力：恩納村教育委員会 恩納村博物館



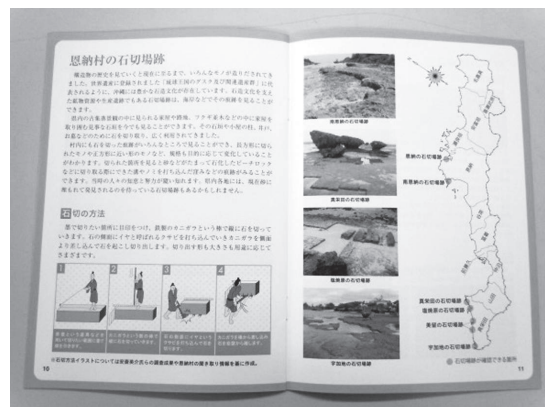
水中文化遺産とは



南西諸島の主な水中文化遺産



恩納村の水中文化遺産



恩納村の石切場跡

IV 博物館文化講座

1 博物館文化講座実施要項

(1) 趣旨

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、広い視点から分かりやすく楽しく、有意義な学習ができるよう、文化講座を開催する。これを開催することにより、沖縄の自然・歴史・文化に対する県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の展示内容と関連する自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野についての講演、展示品の解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が分かりやすく有意義に学習できるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：特に指定がない場合は、当館講堂（3F）

(3) 受講方法

当日先着200名（事前申込み不要）

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
443	4月19日	「琉球の染織物再考・そしてこれから」	宮城奈々 平田美奈子	200	150
444	5月17日	「明らかになる沖縄の大地震・大津波 ～これまでとこれから～」	中村衛	200	204
445	6月15日	「戦後69年目に考える沖縄戦－沖縄戦住民記録・ 日本軍史料から何が分かるか－」	吉浜忍	200	155
446	7月19日	「ウシオーラセーはおもしろい！ －闘牛の魅力と人々の思い－」	宮城邦治	200	84
447	8月16日	「円覚寺の仏さまたち」	長谷洋一	200	125
448	9月20日	クニダンチユ 「久米村人の家譜を読もう！」	田名真之	200	231
449	10月13日	「書に遊ぶ～能書家・鄭嘉訓～」	幸喜洋人	200	86
450	11月15日	「世界の海事・水中考古学から学ぶ」	ランドール・佐々木	200	83
451	12月20日	「海の文化遺産～水中考古学の魅力～」	野上建紀・吉崎伸 林原利明・藤島一巳	200	116
452	1月17日	「クニマスと人の共存－過去、現在、未来－」	中坊徹次	200	54
453	2月21日	「遺跡から出土する動物骨から読みとく イノシシとブタと私たちの歴史」	菅原広史	200	85
454	3月7日	シンポジウム「沖縄先史文化の起源を探る」	安斎正人 他	200	165

2 文化講座の実施状況

第443回 文化講座 「琉球の染織物再考・そしてこれから」

日時 2014年4月19日（土） 14:00～16:00 参加者150名

講師 宮城奈々（琉球の織物研究会代表） コメンテーター：與那嶺一子（美術工芸担当学芸員）
平田美奈子（沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

多彩で変化に富んでいる琉球の染織物について、「琉球の染織物再考・そしてこれから」と題し、前半は講演、後半はトークセッションが行われた。宮城奈々氏は、琉球王国時代の織物の透明感、光沢、質感、柔らかさについて、マイクロSCOPEを活用し見えてきた素材（糸）の役割を紹介した。縦糸横糸を別素材にすることで立体感や光沢が出てくことや琉球王国時代の織物は、絹を際立たせるための工夫がされているなど分かりやすい解説が行われた。平田美奈子氏は、紅型の型紙をつくる技法の中から糸掛けについて紹介した。戦前に鎌倉芳太郎によって収集された約2000点の型紙の調査等から糸掛け、紗張りの特徴など古い型紙から製作過程がわかることなどが解説された。糸掛けは、時間がかかる技法で、現在は行われていないとのこと。トークセッションでは、両氏の今後の研究展望、創作の方向性などが話された。



講演を行う宮城氏



講演を行う平田氏



トークセッションの様子

第444回 文化講座「明らかになる沖縄の大地震・大津波～これまでとこれから～」

日時 2014年5月17日（土） 14:00～16:00 参加者204名

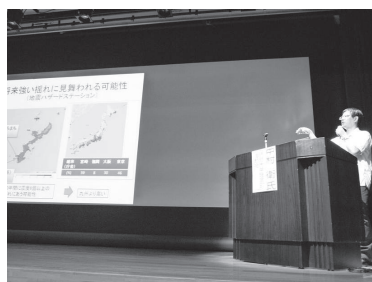
講師 中村衛（琉球大学理学部准教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

東日本大震災後、地震や津波に対する防災意識は高まったが、一方で沖縄には大きな地震は起こらないと思っている人は多いのではないかと。当講座は、沖縄の各地域で大地震、大津波が過去に何度か起きていたことを古文書や地層、海岸の石から読み取れるなど解説が行われた。沖縄付近のプレート運動や過去の地震活動が紹介され、100年に1回ぐらい大地震が起きていたことがわかった。また、現在日本で起こっている地震の16%が沖縄県で起きているとのデータ説明や今後30年間に震度6以上の揺れに及ぶ可能性が九州より高いという解説に参観者は、驚きを隠せない様子であった。地震による津波被害も解説され、八重山諸島における被害（明和津波）の大きさは予想以上であった。防災について、我が家の対策、地域の対策、地形や建築物等、講座を通しこれからの防災について様々な視点で考える重要性を痛感した。



会場いっぱいの参観者



データを解説する講師



質疑応答の様子

第445回 文化講座 「戦後69年目に考える沖縄戦－沖縄戦住民記録・日本軍史料から何が分かるか－」

日時 2014年6月15日（日） 14:00～16:00 参加者155名

講師 吉浜忍（沖縄国際大学総合文化学部教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座は、沖縄戦に関する県史、市町村史、日本軍史料を紐解き、新たな視点から、沖縄戦について解説がされた。1971年から2013年までに「巻」として発行されている県・市町村史から沖縄戦関連を一覧表で示し丁寧に分かりやすい解説が行われた。記録内容として県史では、住民からの聞き取り（証言）、アメリカ側からの視点、市町村史では、戦争とマラリア、島々の戦争体験、海軍とのからみ、陸軍特攻についての記録、追いつめられた人々の証言、米軍上陸までの様子を記録、収容所の担当官の記録など紹介された。その他に刊行されている資料集や研究書などもあり、戦後の節目となる年に市町村から刊行されており、数的にも他県より多い。これらから、沖縄戦を継承していく取組が市町村単位で行われている様子がうかがえた。戦争体験の風化が叫ばれている現在、次の世代に対しどのように沖縄戦を継承していけばよいのかを考えさせられた講座であった。



資料をもとに解説する講師



丁寧に解説する講師



多くの参観者

第446回文化講座 「ウシオーラセーはおもしろい！－闘牛の魅力と人々の思い－」

日時 2014年7月19日（土） 14:00～16:00 参加者84名

講師 宮城邦治（沖縄国際大学総合文化学部教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

沖縄では、闘牛というよりウシオーラセーの名称に馴染みがある。当講座では、闘牛の魅力について、闘牛を描いた文学作品の紹介や沖縄における闘牛の歴史、貴重なビデオ映像を交えて解説が行われた。沖縄では、明治の初め頃あたりから闘牛が行われるようになり、サトウキビ収穫後に集落対抗戦などが頻繁に行われていた。昭和10年の新聞には、「闘牛に熱中し働かぬ農村」という記事が掲載され、翌年闘牛は廃止された。人々の娯楽として闘牛がかなり盛んだったことがわかる。戦後、闘牛は復活し、なかでも41連勝した「ゆかり号」は、絶大な人気があり、闘牛好きが高じて当時子どもの名前にゆかりと付けた話や現在の闘牛名の紹介に会場は笑いに包まれた。外国の闘牛紹介、講師の牛が優勝した話などユーモアを交えた講座に、闘牛を見に行きたいと思った参観者も多かったのではないだろうか。講座演題の通りウシオーラセーは、とても面白かった。



闘牛の歴史を解説する講師



ウシオーラセーの様子



闘牛の魅力を紹介

第447回文化講座「円覚寺の仏さまたち」

日時 2014年8月16日（土） 14:00～16:00 参加者125名

講師 長谷洋一（関西大学文学部教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

円覚寺は、琉球における臨済宗の総本山の寺院で、尚真王が父王を祀るために建立したと伝えられている、第二尚氏王統の菩提寺であった。しかし、沖縄戦における首里攻防戦で跡形もなく破壊された。現在は放生池の石橋のみが残存し、戦後総門が復元されている。旧円覚寺木彫資料は、爆風で破壊されたが戦火を免れ、戦後関係者が仏像などの木彫片を収集保管し、のちに県指定文化財に指定された。当講座では、旧円覚寺木彫資料である白象座、釈迦如来坐像、文殊菩薩坐像、獅子座など、琉球の仏教文化の受容形態や美術史を解明する上で重要な資料について解説がされた。また、鎌倉芳太郎写真集に残る写真から戦禍で失われた部分の解明につながるなどが紹介された。仏像の内部構造から製作年代がわかることや、同寺には日本と中国伝承の仏像が混在しているなどに参観者は興味を惹かれた。



解説に聞き入る参観者



講演をする長谷氏



資料を解説をする講師

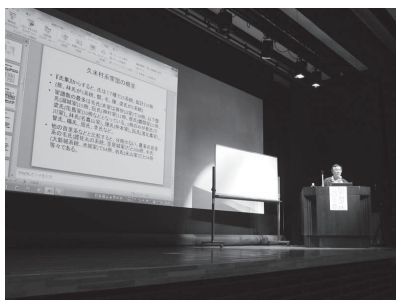
第448回文化講座「久米村人の家譜を読もう！」

日時 2014年9月20日（土） 14:00～16:00 参加者231名

講師 田名真之（沖縄国際大学総合文化学部教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

家譜とは、社会の支配層に属する人々の系譜を中心とした記録で、琉球では、1689年に王府が家臣団に対し、家譜の編集・提出を命じたことによって制度化された。士族は系持ち、百姓層は無系とした。系図は公文書とされ、正副2部を作成し、首里城内の系図座に提出され点検後首里の印が押された。宮古、八重山では、1729年から家譜編集が認められたが、首里の押印はない。久米村系家譜の書式の特徴として、中国族譜に近く首里などと異なる。久米村諸氏の家譜には、海外渡航記事などが記され、琉球王国時代を知る貴重な史料となっている。講話の充実した内容に参観者は興味を持ち話しに聞き入っていた。系図から200年前の戸籍関係は分かるが、現代の祖父や曾祖父の履歴は殆どの方が知らない。現在の記録をどう留めるか、系図の意義を考えさせられた講座だった。



久米村の解説をする田名氏



講演会場いっぱいの参観者



各氏の出自について解説

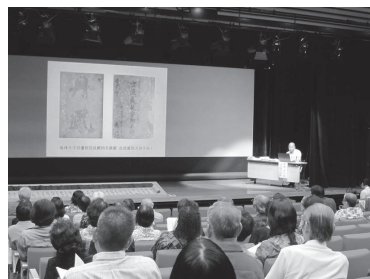
第449回文化講座「書に遊ぶ～能書家・鄭嘉訓の書を楽しむ」

日時 2014年10月13日(月) 14:00～16:00 参加者86名

講師 幸喜洋人(書家)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

鄭嘉訓は、19世紀初期の沖縄の代表的な書家で久米村に生まれ後に古波蔵親方の名で呼ばれる。島津侯の招聘を受け、鹿児島に滞在し藩士の書道指導も行った。書は、現在も沖縄ばかりでなく鹿児島にもたくさん残っており、行書や草書体のすぐれた書法を見ることができる。しかし、沖縄を代表する書家である鄭嘉訓が誰に指導を受け、どのような碑法帖を学んだか定かでない。講座では、当館収蔵の鄭嘉訓の書跡などを紹介するとともに、楷書及び行書・草書の面で鄭嘉訓の書法に影響を与えたとされる書跡との文字字形の比較検討が行われた。鄭嘉訓が影響を受けたと考えられる書家として、顔真卿が紹介された。鄭嘉訓の楷書には、顔真卿特有の顔法「蚕頭燕尾」が顕著に見られると筆法の特徴を提示しながら行われた。講座後半では、講師による揮毫が行われ参観者は見入っていた。鄭嘉訓は幕末の三筆以上の実力、教養を兼ね備えていたと考えられているが、それらを実証する書跡資料が残っていない。鄭嘉訓について、今後も研究が待たれる。



貴重な資料を展示しての解説



書の実演を行いながらの解説



第450回文化講座「世界の海事・水中考古学から学ぶ」

日時 2014年11月15日(土) 14:00～16:00 参加者83名

講師 ランディー佐々木(福岡市教育委員会)

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

水中(海事)考古学とは、「もの」から学ぶ考古学と基本は同じで、実は水中と陸の区別はない。講座は、あまり聞き慣れない用語の説明を加え、初めての参観者にも分かりやすい解説で進められた。水中考古学は、ジョージ・バス博士による紀元前1200年の沈没船ケーブ・ゲラドニア発掘が始まりである。発掘から、文献資料になかった貿易のメカニズムなどが解明された。講座では、各国で行われた調査事例の紹介や世界的な取組として、開発前の調査やデータベースでの管理について解説がされた。また、現在ではパソコンと磁気探査があれば、簡易に探査が出来ると紹介があった。国内には、500カ所以上の水中遺跡があるが、殆どは、一般の人によって発見されている。講座後半は、日本がユネスコ水中文化遺産保護条約に批准しない理由などが解説され、参観者は興味深く聞き入っていた。



講演会場の様子



海底の様子について解説するランディー氏



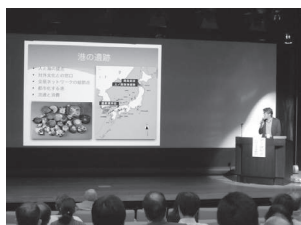
第451回文化講座「海の文化遺産～水中考古学の魅力～」

日時 2014年12月20日（土） 14:00～16:00 参加者116名

講師 野上建紀（長崎大学准教授）、林原利明（アジア水中考古学研究所理事・玉川文化財研究所）
藤島一巳（元江差町教育委員会学芸員）、吉崎伸（水中考古学研究所所長）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

4講師による連続講座の形式で、講座が開催された。野上氏は、長崎県小値賀島前方湾海底遺跡と海底遺跡見学会と題し、遺跡から見えてくる人と海との接点や交易について解説を行った。海底遺跡の公開事例として、イタリア・バイア海底遺跡が紹介された。国内で開催された海底遺跡見学会は、動画を用いて解説がなされた。林原氏は、熱海初島沖海底遺跡について解説を行った。沈没船から三葉葵文が描かれた瓦が発見され、江戸城修理瓦の可能性が高いことが分かってきた。現状を保った積荷から当時の海運の実態を知ることができる。藤島氏は、開陽丸発掘調査について解説を行った。開陽丸は、江戸幕府がオランダに作らせた当時最大級の軍艦であった。講話では、開陽丸の歴史、発掘の経緯、保存処理の難しさが解説された。吉崎氏は、水中の戦争遺跡と題し、沖縄県古宇利島沖のアメリカ軍艦エモンズを取り上げ、水中の戦争遺跡の意義や問題点について解説を行った。4氏の講話から、多くの参観者が水中考古学の魅力に引きつけられ、興味を抱いたのではないかと推察される。



講演する野上氏



講演する林原氏



講演する藤島氏



講演する吉崎氏

第452回文化講座「クニマスと人の共存—過去、現在、未来—」

日時 2015年1月17日（土） 14:00～16:00 参加者54名

講師 中坊徹次（京都大学総合博物館教授）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

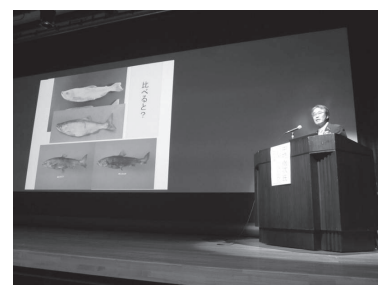
当講座では、田沢湖の人々のクニマスへの思い、なぜ絶滅したのか、発見までの経緯、保護するために何が必要なのかについて、貴重な画像を提示しながら解説がなされた。クニマスとは、秋田県田沢湖にしか生息していなかったサケの仲間、かつて田沢湖では、クニマス漁が盛んに行われていた。しかし、1940年発電と灌漑のため、近くを流れる玉川の酸性水を田沢湖に導入したのを契機にクニマスをはじめ多くの生物が消えてしまった。ところが、絶滅したと思われていたクニマスが、2010年山梨県西湖で生存が確認された。クニマス発見の経緯には、戦前クニマス漁師であった三浦久兵衛氏の貢献があった。三浦氏は三浦家文書から昭和初期にクニマスの卵をいくつかの湖に分譲していたという資料に着目し、クニマス探しを始めた。しかし、発見には至らず、「クニマス百科」本が作成された。その本に興味を持たれた中坊氏が、クニマスに関する緻密な調査を行い発見へと繋がった。講座から失ってしまった環境を戻すことの難しさ、保護する事の難しさ等改めて考えさせられた。



田沢湖での伝説



熱心に聞き入る参観者



解説をする中坊氏

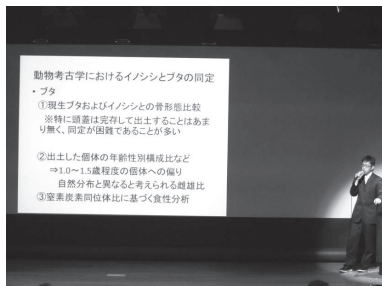
第453回文化講座「遺跡から出土する動物骨から読みとくイノシシとブタと私たちの歴史」

日時 2015年2月21日（土） 14:00～16:00 参加者85名

講師 菅原広史（浦添市教育委員会）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

当講座では、遺跡から出土する動物骨から先史時代動物資源として食されていたイノシシと、グスク時代から登場するブタについて、歴史の中でどのようにヒトと関わりがあったのかが解説された。イノシシとブタは何が違うのか。実は、生物学的な分類は同じで、家畜として飼われたのがブタで野生に存在するのがイノシシとのこと。動物骨研究から、グスク時代には、色々な家畜が入ってきたことや三山で食性に違いがあったことなどが明らかになっている。講座後半、首里城にみられる近世期の食性解説で、僅か1mmほどの骨からスクという小魚であることを突き止めた講師の探究に、会場から響めきがあった。首里城では、シイラ、鰹、マグロなど外洋でしか取れない魚骨も出土しており、漁労技術の発展が考えられると解説された。浦添市前田・経塚の近世墓群の1割にブタの頭骨埋葬が見られるが、多様な埋葬形態のため何のために埋葬されたのかなど、興味が尽きない講座であった。



講演する菅原氏



形態的な比較を解説



会場の参観者

第454回文化講座「シンポジウム「沖縄先史文化の起源を探る」

日時 2015年3月7日（土） 14:00～17:00 参加者165名

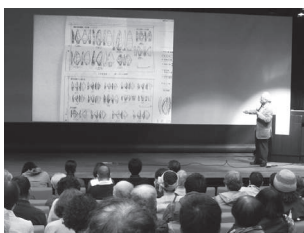
講師 安斎正人（東北芸術工科大学）

横尾昌樹（うるま市教育委員会）、宮城弘樹（名護市教育委員会）、

山崎真治（沖縄県立博物館・美術館）

場所 沖縄県立博物館・美術館 講堂

はじめに、安斎氏による基調講演が行われ、過去の気候変動が人類に及ぼした影響と、日本の旧石器縄文文化の成り立ちと変遷に気候変動がどのように作用したのか解説がされた。講話では、石器の形状から集団の移動や新たな集団の形成を読み取ることができると説明がされた。続いて報告では、山崎学芸員による、サキタリ洞遺跡の発掘調査報告があり、港川人が人類学的に南方起源と考えられていることや多様な貝器とごく少量の石器の製作・使用から九州以北の旧石器文化とは異質であること、沖縄には、島嶼環境に適応した個性的な貝器文化が形成されていたのではないかと解説がなされた。また、横尾氏からは、沖縄先史文化と九州縄文文化の交流について、沖縄における土器編年、型式の分布など解説が行われた。後半のシンポジウムでは、会場からの質疑に各講師が応える形で進められた。安斎氏から道具は、地域の生態系に合わせて変化したのではないかと解説があった。先史時代の人類が環境の変化に適応し文化を築いてきたことが感じられた。



安斎氏の基調講演



山崎学芸員による報告



横尾氏による報告



討論の様子

（金城久枝）

■ ■ ■ 沖縄県立博物館・美術館 ■ ■ ■
第443回 博物館文化講座

琉球の染織再考・そしてこれから



○キーワード
 繊維
 質感
 効果的
 主役と名脇役素材
 凸凹
 虹型
 型紙
 線と型

左「花織 40倍拡大」
 右「木綿染地露に松栞母文様衣装部分」

4/19 (土) 2014年
 14時～16時(開場13時半)
 当日先着200名(予約不要) **入場無料**
 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

「織物をクロスアップしてみると…」
 琉球王朝時代の織物には、透り感、柔らかなさ、かたさ、しなやかさ、滑らかさ、滑り、艶、等の様々な質感があります。これら染織品をマイクロスコプで見ると、素材が異なす役割が見えてきます。顕微鏡調査の結果を創作でどう活かすのかという視点でお話しします。

講師: **宮城 奈々** (琉球の染織物研究会 代表)

「虹型の型紙はこんなに面白い！」
 虹型糊染を布に表す道具である型紙ですが、一言では語れないほど多くの情報が秘めています。鎌倉資料を含まれた多くの虹型型紙約2000枚を調査した中に出会った型紙について、様々な視点から見方を当てて紹介します。

講師: **平田 美奈子** (沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員)

【プロフィール】
 1999年 沖縄県立芸術大学大学院修了 (文藝学、リレー大学「イギリス」へ留学)
 1999～2010年 沖縄県立芸術大学 職工職課程の授業講師
 2003年～ インドネシアにカボック織物の織物研究と製作工房を開設
 2010年～ 沖縄県立芸術センター 後援後援者
 2013年～ 琉球の織物研究会を設立、琉球王朝時代の織物を調査し、再現製作を通じてその研究を進める。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

■ ■ ■ 沖縄県立博物館・美術館 ■ ■ ■
第444回 博物館文化講座

明らかになる沖縄の大地震・大津波 ～これまでとこれから～



写真は「津波石 (石垣市大同) 帝國指定天然記念物 (2013年3月)」

5/17 (土) 2014年
 14時～16時(開場13時半)
 当日先着200名(予約不要) **入場無料**
 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

「沖縄は大地震が起りにくい地域である」という考えは、未だ沖縄社会の中に根付いています。しかし、このような考えに生み出されたのであって、過去の歴史を紐解くと、沖縄の各地域が大地震・大津波に何度も襲われてきた証拠が、古文書や地層、海岸の石にしっかりと残されています。東日本大震災そのままでの状況が古文書に残されていることを、私たちはどれほど真剣に受け止めているのでしょうか。また、沖縄には過去にどのような大地震・大津波に見舞われてきたのでしょうか。そして、今後起こる地震・津波災害に対し、私たちはどうすれば良いのでしょうか。地震・津波研究の最新線を含め、わかりやすく紹介します。

講師: **中村 衛氏** (琉球大学理学部 准教授)

【プロフィール】
 平成9年に京都大学大学院理学研究科修士(理学)、平成9年より琉球大学理学部に着任。平成20年から、琉球大学の島根県研究センターの専任教員。専門は地質学。沖縄から台湾にかけての地殻変動・地下線構造、陸上・海沿いの地質調査、最近では地質調査等による巨大津波履歴の研究を行っている。平成25年度沖縄県地質学振興基金調査委員会委員等を務める。現在は沖縄県津波歴史学振興委員会委員。

○キーワード: 琉球海溝、大地震、大津波、明和津波、津波石、球扇、津波堆積物、防災

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

■ ■ ■ 沖縄県立博物館・美術館 ■ ■ ■
第445回 博物館文化講座

戦後69年目に考える沖縄戦 —沖縄戦住民記録・日本軍史料から何が分かるか—



写真は左「沖縄戦史 資料編23 沖縄戦日本軍史料」の「口説」より作成

6/15 (日) 2014年
 14時～16時(開場13時半)
 当日先着200名(予約不要) **入場無料**
 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

○キーワード
 日本軍の沖縄入隊、軍隊と住民、軍民共同演習、防衛慰労券、国土、残虐殺部隊、沖縄戦の戦況と本土決戦

講師: **吉浜 忍** (沖縄国際大学 教授)

【プロフィール】
 1972年大阪府立大学卒業、専攻科を経て留學。沖縄戦記念史専攻、沖縄県史沖縄戦編纂委員会委員、那覇市戦時資料館常務委員、那覇市立平和歴史資料館委員、那覇市立平和歴史資料館委員、沖縄戦研究推進協議会常務委員、那覇市立平和歴史資料館委員、那覇市立平和歴史資料館委員、那覇市立平和歴史資料館委員、那覇市立平和歴史資料館委員。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

■ ■ ■ 沖縄県立博物館・美術館 ■ ■ ■
第446回 博物館文化講座

ウシオーラセーは おもしろい —闘牛の魅力と人々の思い—



写真は「闘牛の朝刊(豊後県)」

7/19 (土) 2014年
 14時～16時(開場13時半)
 当日先着200名(予約不要) **入場無料**
 沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

○キーワード
 ウシオーラセー、闘牛、ハリヤマスブ(原山勝負)、アプシハレー(闘牛)、ハリヤマスブ(原山勝負)、アプシハレー、闘牛、ウシオーラセー、ゆかり号、兵船号、金魚

講師: **宮城 邦治** (沖縄国際大学 教授)

略歴: 1949年(昭和24年)の生年、チーフ・水(水)で有名な那覇市立大学の島出身。琉球大学農学部卒業、琉球大学農学部農学助教授。1979年から沖縄県那覇市に転居。1980年から沖縄県那覇市に転居。1980年から沖縄県那覇市に転居。1980年から沖縄県那覇市に転居。1980年から沖縄県那覇市に転居。1980年から沖縄県那覇市に転居。1980年から沖縄県那覇市に転居。

主催: 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
 開館時間: 9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第447回 博物館文化講座

円覚寺の仏さまたち



16世紀像
文政初期像
文政初期像内首面にある作者を示す銘文

8/16 2014年 (土)
14時～16時(開場13時半)
当日先着200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くなる場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

○キーワード
「円覚寺」、「戦災文化財」、「仏像」、「新説三尊像」
「十六羅漢像」、「鎌倉方太郎写真資料」、「向象賢」、「仁三像」

講師：長谷 洋一 (関西大学 教授)
略歴：1985年関西大学文学部卒業。専攻博物館学。専攻中「近世彫刻をはじめとする仏彫彫刻。関西各地の文化財保護審議会委員を務めるほか、各地で仏像調査や資料展示に関する助言を行っている。主たる著書『日本仏像史』(共著)など。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第448回 博物館文化講座

家譜を讀もう！ 久米村人の



一世 二世 三世 四世 五世

9/20 2014年 (土)
14時～16時(開場13時半)
当日先着200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くなる場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

○キーワード
久米村、家譜、蘭人三十六姓、福建省、福州・北京
官生、勤学、通員、冊封、存節遺事、風水・墓

講師：田名 真之 (沖縄国際大学 教授)
略歴：専門は、琉球史、琉球・中国交流史。首里城公園整備検討委員会委員、沖縄県文化財審議会委員、歴代宝楽編纂委員会委員、徳島県、市町村史委員など。
主な論文に「王府の御安否文―『中山世譜』と『中山世譜』(島村第一『琉球史文』) 財団法人 2014、「近世琉球における滞留朝鮮人の返送について」(全南大学東洋文化研究所『海洋文化研究』2014年5月)など。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第449回 博物館文化講座

書に遊ぶ 能書家・鄭嘉訓



10/13 2014年 (月・祝)
14時～16時(開場13時半) 入場無料
当日先着200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くなる場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：「だれに習ったのか」、蘭文字、書道、朱書、破法帖、蘭法、蘭字、蘭学、蘭学、蘭学、蘭学

講師：幸喜 洋人 氏
略歴：【プロフィール】
新井光風に師事。2004年、大東文化大学書道学専攻卒業。読売書法会理事、講義書道会理事、沖縄県書道会、書道史学会、書道研究清水文会会員、琉球大学教育学部非常勤講師、沖縄大学文学部非常勤講師、琉球新報カルチャーセンター特別講座講師などを務める。
【主な展覧会活動】
日展、読売書法展、講義書道展、日本の書展、蘭書展、漢書展、月歩展、沖展など

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第450回 博物館文化講座

世界の海事・ 水中考古学から学ぶ



11/15 2014年 (土)
14時～16時(開場13時半) 入場無料
当日先着200名(予約不要)
沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くなる場合があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：水中文化遺産、UNESCO、海事考古学、開発と文化財の共存、現地保存

講師：ランディー 佐々木 氏 (福岡市文化財部)
略歴：【プロフィール】
1976年横浜生まれ。日系アメリカ人。高校まで日本で過ごし、アメリカの大学で考古学を知り、イェメンなどで発掘を経験する。その後、海事考古学のメッカであるキヤス ASM 大学で日本・アジアの海事考古学を専門で学ぶ。長崎県島海防史の調査に参加し、また、ベトナム白藤江戦艦遺跡では調査リーダーを務める。現在、福岡市の文化財部埋蔵文化財調査課で行政発掘調査を行う傍ら、水中考古学の普及活動を行っている。学術論文の他、一般図書『沈没船が語る世界史』など執筆。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第451回 博物館文化講座

平成26年度 博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」関連行事

海の文化遺産
水中考古学の魅力



12/20 2014年 (土)
14時～16時(開場13時半) 入場無料
当日先着 200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：五島列島小値賀島・前方海浜遺跡、海浜遺跡発見学、初島沖海浜遺跡、徳川三葉英文瓦、開陽丸、保存記録、WII、エモンズ

林原 利明氏 (アジア水中考古学研究所理事)
東京生まれ。東京大学・大学院で考古学を学ぶ。民間研究所に所属し、埋蔵文化財調査・研究に携わる。また、アジア水中考古学研究所理事を務め、日本の水中文化遺産の「開陽」と「理解」のために尽力している。

野上 建紀氏 (長崎大学多文化社会学部教授)
北九州生まれ。博士(文学)。1989年、金沢大学文学部卒業。専門は埋蔵文化財調査。水中考古学にも関与。現在は中央・カリブ海に運ばれた近世アジアの船殻について研究している。

吉崎 伸氏 (NPO法人水中考古学研究所理事)
岡山生まれ。京都府埋蔵文化財研究所の調査員として、平安京をはじめとする京都府内の埋蔵文化財の調査・研究に従事。その後、水中考古学研究所理事として、奄美列島の「ふるはれ」など瀬戸内海を中心に水中遺跡の調査・研究活動を行っている。

藤島 一巳氏 (元江津町教育委員会委員)
札幌生まれ。1975年、駒澤大学文学部歴史学科卒業。元北海道連立教育委員会委員。2013年、社会福祉法人北海道社会福祉協議会福祉政策推進部長となる。1978年より退職後の、江津沖で海浜遺跡化した縄文海浜遺跡「開陽丸」の日本では初めての本格的な発掘調査の発掘調査に携わる。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第452回 博物館文化講座

クニマスと人の共存
～過去、現在、未来～



1/17 2015年 (土)
14時～16時(開場13時半) 入場無料
当日先着 200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：クニマス、絶滅、復活、保全、里帰り

講師：中坊 徹次氏 (京都大学総合博物館教授・魚類学者)

略歴：【プロフィール】主に海産魚類の系統分類学的研究を行っている。著書に日本産魚類の名称を空解検索で可能にした『日本産魚類検索全種の訂定』がある。2010年山梨県山梨湖から秋田県田沢湖で絶滅したクニマスを発見。現在、魚類5億年の進化の歴史についての本を執筆中。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第453回 博物館文化講座

遺跡から出土する動物骨から読みとく
イノシシとブタと私たちの歴史



平成26年度 博物館企画展
「イノシシとブタと私たち」
(2015年2月3日(火)～3月15日(日))
関連行事

2/21 2015年 (土)
14時～16時(開場13時半) 入場無料
当日先着 200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：脊椎動物遺体(動物骨)、遺跡、生業史、イノシシ/ブタ、琉球列島

講師：菅原 広史氏 (浦添市教育委員会)

略歴：【プロフィール】早稲田大学大学院博士後期課程在学中の平成21年から現職。在学中より動物考古学を専門分野とし、主に沖縄県内の遺跡から出土する動物骨の分析・研究を行っている。近年は動物遺体の分析を従来よりも詳細に行うことで、琉球列島の歴史におけるヒトの動物利用や関わり方を、より具体的に描き出すことを試みている。

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

沖縄県立博物館・美術館
第454回 博物館文化講座

公開シンポジウム
「沖縄先史文化の起源を探る」



3/7 2015年 (土)
14時～17時(開場13時半) 入場無料
※通常の時間と異なります。

当日先着 200名(予約不要)

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂

※会場内は冷風が強くあたる場所があります。上着やひざ掛けをお持ちください。

キーワード：日本列島、沖縄、先史文化、起源、理論考古学、旧石器、縄文

I. 基調講演
「日本列島における先史文化の起源と変遷」
講師：安斎 正人氏 (東北芸術工科大学教授)

1945年中国(旧満州)生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。2003年学位論文「旧石器社会の構造変動」(早稲田大学、文学博士)。2008年から東北芸術工科大学東北文化研究センター教授。著書に『気象変動の考古学』(同文社、2012年)、『気象変動と縄文文化の変化』(同文社、2014年)など。

II. 調査報告
「南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査と沖縄先史文化の起源」
講師：山崎 真治 (当館人類担当学芸員)

III. 討論
「沖縄先史文化と九州縄文文化の交流について」
講師：横尾 昌樹氏 (うるま市教育委員会)

司会：宮城 弘樹氏 (名護市教育委員会学芸員)

今帰村教育委員会を経て、2012年から現職。専門は考古学。研究テーマは、琉球列島の縄文時代から古く時代の研究。著書に「中世の縄と琉球王国」(新沖縄県史 沖縄県 2010年)など。

パネリスト：安斎 正人、山崎

主催：沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号 TEL.098-941-8200
開館時間：9時～18時(金・土は20時まで)、毎週月曜日休館(月曜日が祝日の時は、翌平日)

V 博物館学芸員講座

1 博物館学芸員講座実施要項

(1) 主旨・目的

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説、実技指導などを通して、県民各層が楽しく、より深く沖縄について学べるよう企画されている。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、土曜日 午後2時～4時までの2時間

場 所：博物館講座室を基本とする

(4) 受講方法

当日の来館参加という形をとり、基本的に予約はしない。

回数	期日	演題	講師名	定員	参加者
1	4月12日	「港川人と沖縄の旧石器時代遺跡」	藤田祐樹	80	110
2	5月 3日	「三線のチカラ展」雑感観覧者の質疑に答える」	園原 謙	80	63
3	6月 7日	「貢納布のはなし～貢納布のゆくえ～」	與那嶺一子	80	117
4	7月12日	「水中文化遺産－海に沈んだ歴史のカケラー ネタバレ話」	片桐千亜紀	80	43
5	8月 2日	「学芸員のお仕事？&バックヤード探検！！」	金城久枝	15	15
6	9月 6日	「沖縄の先史人と貝」	山崎真治	80	67
7	10月4日	「久米村歴史散歩～博物館企画展「久米村」を もっと楽しむ！3つのポイント～」	崎原恭子	80	132
8	11月8日	「学校の先生のための博物館・生き物講座」	山崎仁也	80	32
9	12月6日	「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」	片桐千亜紀	80	103
10	1月10日	「嘉津宇岳ジオツアー」	仲里 健	15	15
11	2月 7日	「初心者のための琉球・沖縄史」	石垣 忍	80	100
12	3月14日	「沖縄の葬墓制について考えてみよう！」	大湾ゆかり	80	100

2 学芸員講座の実施状況

第1回 学芸員講座「港川人と沖縄の旧石器時代遺跡」

日時 2014年4月12日（土） 14:00～16:00 参加者110名

講師 藤田祐樹（人類）

場所 博物館講座室

日本の旧石器時代の遺跡は、1万カ所以上あるが人骨の発見に関しては、静岡県浜北人以外は沖縄県で多くが発見されている。講座では、宮古島白保竿根山原洞穴遺跡出土の人骨から採取されたタンパク質、コラーゲン、DNAの解析が進められ白保人復元が待たれていることや、最近の人骨の研究及びサキタリ洞遺跡調査からわかってきた港川人のルーツとその時代背景について解説が行われた。港川人は、これまで縄文人の祖先であると考えられていたが、近年、頭部CTや二次元スキャナーなど新技術を用いて港川人を縄文人、現代人と比較したところ、オーストラリア先住民に近いことがわかってきた。当館では、新たなデータに基づいて制作された新旧2体の港川人が展示されており、参観すると違いが分かる。参観者は、日本人のルーツについて、興味深く聞き入っていた。



多くの参観者



藤田学芸員の解説に興味津々の参観者



第2回 学芸員講座「三線のチカラ展」雑感－観覧者の質疑に答える－

日時 2014年5月3日（土） 14:00～16:00 参加者63名

講師 園原謙（美工）

場所 博物館講堂、企画展展示室

平成26年2月から5月まで開催した「三線のチカラ展」雑感－観覧者の質疑に答える－と題して講座が開催された。沖縄では、三線は家宝であるため、一般の方が観ることはなかなかできない。今回は、15年ぶりの三線展開催ということで、長期にわたり借用できた貴重な三線の展示でもあった。講座では、三線のチカラ展の目玉として、県指定の三線が15年ぶりに一堂に会したこと、8挺の三線をハワイより借用してきたこと、5開鐘+江戸与那の音色再現を実施したこと、ティーワジャコンテストで初めて三線の形と音の審査が行われたことなどが解説された。また、三線に関するQ&Aでは、三線の芯部分に江戸与那、久場春殿は3つ穴が空いているがその理由は、まだ解明されていないことなど質疑応答も行われた。後半は、三線展のチカラ展解説会が行われ関心の高さがうかがわれた。



最古の三線について解説する園原学芸員



関連催事を振り返る



三線展解説の様子

第3回 学芸員講座 「貢納布のはなし～貢納布のゆくえ～」

日時 2014年6月7日（土） 14:00～16:00 参加者117名

講師 與那嶺一子（美工）

場所 博物館講座室

琉球王国時代には、宮古、八重山、久米島では布が税の代わりに徴収されていた。これを貢納布（御用布・上納布・定納布）と呼ぶ。講座では、納められた貢納布のゆくえとして文献資料を紐解きながら解説が行われた。各地から集められた布は、国内分（中国・大和への献上品、中国との貿易品など）と薩摩分（薩摩家臣への贈答品、商品など）に分けられた。下賜された上布に染めた幕（久米島町）が、現在県指定重要文化財に指定されている。また、貢納された布で染めた紅型が献上品として北京には伝わっているが、大和には伝わっていないことや、琉球で作られた上布が薩摩上布として販売されていたなど解説がされた。浮世絵からは、江戸で流行った緋の図柄がわかり、薩摩から琉球への注文書の絵柄と一致することなど、文献資料の調査からわかってきた様々な内容の解説に参観者は釘付けであった。



会場いっぱいの参観者



下賜品について解説する與那嶺学芸員



質疑応答の様子

第4回 学芸員講座「水中文化遺産－海に沈んだ歴史のカケラーネタバレ話」

日時 2014年7月12日（土） 14:00～16:00 参加者43名

講師 片桐千亜紀（考古）

場所 博物館講座室

11月から開催する特別展「水中文化遺産－海に沈んだ歴史のカケラー」のネタバレ話と題して講座が行われた。水中文化遺産（水中遺跡）とは、海や河川など水底に存在する文化遺産（遺跡）のことをいう。UNESCO「水中文化遺産保護条約」では、水底で100年経ったモノを水中文化遺産としている。特別展は、琉球列島で海と共に生きた人類の歴史と文化を、水中文化遺産をとおして広く周知・啓発することを目的としている。海と人々の関わり合いの新たな認識と沖縄県の独自性を理解する一助になればとの思いが話された。展示内容として、琉球諸島を中心に日本の各海域から発見された沈没船や港に関する資料の展示、発見された様々な形態のイカリ（世爪鉄錨、西欧型鉄錨、碇石）、実物大に復元した進貢船の木碇など、迫力のある展示に期待が膨らんだ。



特別展について説明



海底遺跡についての解説に聞き入る参観者



第5回 学芸員講座「学芸員のお仕事？&バックヤード探検！！」

日時 2014年8月2日（土） 10:00～12:00 参加者15名

講師 金城久枝（教育普及）

場所 博物館実習室、博物館バックヤード

当講座は、夏休み子どもむけ特別企画として「学芸員のお仕事？&バックヤード探検！！」と題して、講座を子ども達の調べ学習の場とした。講座前半は、博物館の施設内容などの説明と、学芸員の仕事について紹介を行った。なかなか知られていない学芸員の仕事内容に、参加した子どもたちは、興味を持ったようだ。後半は、関係者以外の入室を制限しているバックヤードの探検を行った。自然史実験室では、なにこれ？と実験室に置かれているホネに見入ったり、液浸室では、容器に漬けられている蛇や蛙など小動物に興味津々であった。民俗収蔵庫や自然史収蔵庫、冷凍室など、子どもたちは撮影したりメモを取ったりと真剣な眼差しで情報収集に取り組んでいた。後半は、ポスターでの報告書作成を行い、各自工夫を凝らしまとめることができた。



熱心にメモをとる様子



これは何？興味を引く自然史実験室



アイデアを凝らし各自で報告書作成

第6回 学芸員講座「沖縄の先史人と貝」

日時 2014年9月6日（土） 14:00～16:00 参加者67名

講師 山崎真治（人類）

場所 博物館講座室、常設展示室

当講座は、沖縄の遺跡から発掘された貝を通して、古代の人々の暮らしについて解説が行われた。貝は、陸域、河川、マングローブ林など多様な環境に生息し多様な種類が分布している。県内の熱田原貝塚、古我地原貝塚出土の巻貝、二枚貝などの説明がなされた。道具としての貝については、貝のヤジリ、ヤコウガイの釣り針、象徴品としてのゴボウラの腕輪など例を提示しながら解説がされた。昨年、サキタリ洞では、沖縄の先史時代の空白をうめる発見として約40点の貝の道具（貝器）が出土した。旧石器時代の貝器の発見は、国内では初めてのことであった。本土には石の文化、沖縄には貝の文化があったのではないかと山崎学芸員の解説に参観者は興味深く聞き入っていた。講座後半は、常設展示室で、展示物を見ながら丁寧な解説が行われた。



講座室いっぱいの参観者



古我地原遺跡についての解説



解説に聞き入る参観者

第7回 学芸員講座「久米村歴史散歩～博物館企画展「久米村」をもっと楽しむ！3つのポイント～」

日時 2014年10月4日（土） 14:00～16:00 参加者132名

講師 崎原恭子（歴史）

場所 博物館講堂、企画展展示室

当講座は、久米村（クニンダ）歴史散歩、博物館企画展久米村（クニンダ）ー琉球と中国の架け橋ーをもっと楽しむ3つのポイントと題して、講座が開催された。琉球王国時代に形成された久米村（クニンダ）とは、中国からの渡来人を中心としたコミュニティで、久米村の人々が琉球王国の外交や文化へ貢献した功績は大きなものがある。企画展参観のポイントとして、琉球国図、琉球 国惣絵図（間切集成図）、久米村マップなど地図を参照しながら久米村の変遷や主な場所等が紹介された。次に江戸立（江戸上り）での久米村人ゆかりの地の例として、広島、愛知、静岡の3県に関する紹介がされた。3つめのポイントとして、福島（会津藩）出身の河原山盛美が久米村人から贈られた漢詩が138年ぶりに公開されるなど王国時代末期から近代にかけてのエピソードが紹介された。引き続き行われた展示解説会へは、約70名が参加し久米村展への関心の高さがうかがえた。



会場いっぱいの参観者



解説する崎原学芸員



久米村企画展で見所を解説

第8回 学芸員講座「学校の先生のための博物館・生き物講座」

日時 2014年11月8日（土） 14:00～16:00 参加者32名

講師 山崎仁也（生物）

場所 博物館講座室、常設展示室、バックヤード

「学校の先生のための博物館・生き物講座」と題して、生物担当山崎学芸員による講座が開催された。はじめに、博学連携について、生物分野としての取組が紹介された。沖縄の子どもたちは、沖縄の自然について知らない子が多く、自然の魅力に気づかせるきっかけとして、身近にある博物館活用の意義が説明された。続いて3カ所の見学が行われ、常設展示室では、サンゴと褐虫藻の説明や島嶼性や多様性といった言葉を子どもたちにわかりやすく説明する手立てについて解説がされた。ふれあい体験室ではハンズオン展示の意図について説明が行われた。バックヤードでは、博物館にあるモノをいかに授業に生かすかなど、授業で活用する場面のシミュレーションができたのではないかと。講座後半は、6グループに分かれ、博学連携へのアイディアや意見が交わされた。



博物館概要の説明



自然史展示室について解説する山崎学芸員



バックヤード解説の様子

第9回 学芸員講座「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」シンポジウム

日時 2014年12月6日（土） 14:00～16:00 参加者103名

講師 片桐千亜紀（考古）、宮城弘樹（名護市教育委員会）、渡辺美季（東京大学大学院准教授）

場所 博物館講座室

琉球列島では、水中文化遺産の分布調査が継続的に行われ、多種多様な水中文化遺産の存在が明らかになっている。しかし、発見された水中文化遺産に関して、ほとんど詳細な調査、研究は行われていない。当講座では、国頭村宜名真沖で発見された沈没船を詳細に調査（民俗学、考古学、歴史学）した3氏による講話が行われた。まず、陸上に残された遺品として国頭村のオランダ墓について解説がされた。国頭郡史には、座礁に関する記述が記載されており、沈没した英国船の遺物が墓石材として利用され現存している。海底調査では、紫檀で作られた木製滑車、船釘や皿などのヨーロッパ陶器、ナイフ、ワイン瓶、清朝陶磁器の碗や壺などが発見された。これらを結びつけたのが中国、イギリス沖縄に関する文献調査であった。3氏による詳細な調査から様々な史実が次々とわかってきた。



水中文化遺産について解説する宮城氏



沖縄の水中文化遺産について解説



古文書について解説する渡辺氏

第10回 学芸員講座「嘉津宇岳ジオツアー」

日時 2015年1月10日（土） 10:00～13:00 参加者15名

講師 仲里健（地学）

場所 嘉津宇岳

嘉津宇岳は、名護市の西方に位置する標高452mの古期石灰岩で形成されている。隣接する八重岳、安和岳とともに、カルスト地形を形成し、貴重な動植物が多く生息していることから、県指定の天然保護区域に指定されている。登頂前にカルスト地形を形成する古期石灰岩と本島中・南部に分布する琉球石灰岩について解説が行われた。途中休憩場所では、鍾乳洞（洞窟）を見学しながら形成の説明がされた。頂上では、眼下に広がる円錐カルスト地形を前に、本部半島から辺戸岬を結ぶ「仏像構造線」と呼ばれる構造線が関東地方まで延びているという解説、サンゴ礁の隆起から地殻隆起量や海面変動の歴史を知ることができるなど、ジオツアーでは、仲里学芸員の解説を聞きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを知ることができた。非常に有意義な講座であった。



石灰岩の解説を行う仲里学芸員



登頂の様子



嘉津宇岳頂上

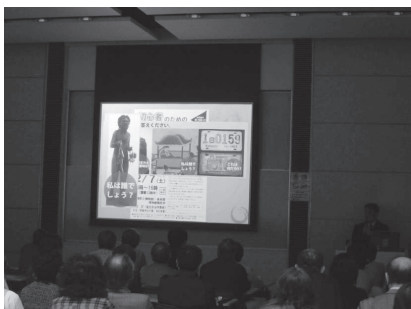
第11回 学芸員講座「初心者のための琉球・沖縄史」

日時 2015年2月7日(土) 14:00～16:00 参加者100名

講師 石垣忍 (歴史)

場所 博物館講座室

常設展示室の展示物を紹介しながら琉球・沖縄史を広く浅く学ぶの内容で講座が進められた。はじめに、「沖縄」と「琉球」の名称について説明がなされ、旧石器時代の解説では、白保やサキタリでの発掘内容も紹介され、参観者は興味深く聞き入っていた。グスク時代の解説では、9月に貨幣が発掘された首里城の発掘に関する内容を盛り込むなど、歴史のつながりを感じさせた。講座後半は、アメリカ統治下、新生沖縄県と解説が進められ、まるで常設展示室を見学した気分であった。初心者のための琉球・沖縄史ということで、レジュメも年表があるなどとても分かりやすく工夫がされており、石垣学芸員の解説も丁寧で聞いているうちに、益々沖縄の歴史に興味をわいてきた。社会人になり、沖縄について改めて勉強してみたいと思う人は以外にも多いのだと感じた講座であった。



会場いっぱいの参観者



丁寧に解説する石垣学芸員



解説に集中する参観者

第12回 学芸員講座「沖縄の葬墓制について考えてみよう！」

日時 2015年3月15日(土) 14:00～16:00 参加者100名

講師 大湾ゆかり (民俗)

場所 博物館講座室

沖縄の葬墓制について考えてみよう！と題して、大湾学芸員による講座が行われた。講座前半は、宗教や地域の風土等によって世界で様々な葬法があることなどが紹介された。沖縄の葬法は、先史時代には土葬と風葬がみられたが、近世になると風葬が主となり、一部の地域では、風葬が戦後まで続いていたことが解説された。また、風葬と墓の関係では、墓の役割など説明がされた。講座後半は、大湾学芸員が調査した墓の写真を通じて、祖先とのつながりを大切にする沖縄の葬送、お墓について地域毎に違いがあることなどが解説され、参観者は興味深く聞き入っていた。終活ということばを耳にする事があるが、現代のウチナーンチュの死生観は？沖縄の葬墓制アンケートの結果は、特別展にて紹介される。



会場の様子



沖縄の葬法について解説する大湾学芸員



(金城久枝)

港川人と 沖縄の旧石器時代遺跡

フィッシャー最上部からは縄文土器や海の貝 8,600 年前 (未校正)

画像：港川フィッシャー遺跡の出土状況模式図

横穴からイノシシの移築

第Ⅰ層イノシシ

第Ⅱ層イノシシ

第Ⅲ層イノシシとヒト (約 9,000 年前 (未校正))

第Ⅳ層イノシシとヒト (約 8,600 年前 (未校正))

港川人骨の発見された港川フィッシャー遺跡や、日本最古の人骨が発見された山下町第一洞穴遺跡をはじめ、沖縄県の複数の遺跡から旧石器時代の人骨が発見されています。これは、大変めずらしいことですが、その貴重な人骨の研究から、どんなことがわかっていくのでしょうか。大昔のことを知るのとは簡単ではなく、わからないことのほうが多いのではありますが、最近の人骨の研究や、サキタリ洞遺跡など新たな旧石器時代遺跡の調査を経て、少しだけわかってきた港川人やその時代のことについて、つづかれるままにご紹介します。

博物館学芸員講座

4/12 (土) 2014年

14時～16時

入場無料 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
藤田 祐樹 (人類担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

○キーワード：港川人、旧石器時代、サキタリ洞遺跡、白保平塚洞遺跡、山下町第一洞穴遺跡

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

「三線のチカラ展」雑感

観覧者の質疑に応える

博物館学芸員講座

5/3 (土) 2014年

14時～16時

入場無料 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
3階 講堂 *博物館講座室ではありませんのでご注意ください。

園原 謙 (美術工芸担当学芸員)
200名 (事前申込不要、当日先着)

○キーワード：三線打ティーフジャンコンテスト、開館の経緯、盛極開館、文化財、豚、工芸品、楽器、三線の音色、三味線会

本講座では、15年ぶりに開催した三線の展示会と関連催事の評価について検討します。「ウチナーンチュが三線を愛でる思想とは何か」「弧を描く棒の形の美、音の妙について」、「三線打ティーフジャンコンテストの意義について」考えてみたいと思います。

また、三線展に寄せられた多くの質疑について検討します。たとえば、「棒の心には、なぜ穴をあけるのか」、「心の絵巻の意味とは」「ティーフジャンコンテスト開催後の課題等」について、三線展を通して感じたことをお話しします。

※講座終了後 (16:00～17:00)、企画展「三線のチカラ 形の美と音の妙」展にて、展示解説会を開催します。

※展示解説会には、当日入場券が必要です。

本講座参加者には、当日、会場にて団体料金で入場券を販売します。

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

貢納布のはなし Part2

～貢納布のゆくえ～

琉球王国時代、布は税の代わりに徴収されていました。5年前、布が織られて納めるまでの一年について、学芸員講座「貢納布のはなし」(2009年)でお話しました。今回は、その徴収された貢納布がどうなったのか、行方をたどってみます。

貢納布の一部は薩摩縫紉で京阪、江戸へと渡りますが、琉球の織物は大和でどう評価されたのでしょうか？また、どのような影響を相互に受けたのでしょうか？国外(大和)からみえる貢納布を追いながら、琉球の織物を考えてみましょう。

○キーワード：貢納布、御用布、上布、絁、芭蕉布

博物館学芸員講座

6/7 (土) 2014年

14時～16時

入場無料 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
與那嶺 一子 (美術工芸担当学芸員)
80名 (事前申込不要、当日先着)

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

博物館特別展 『水中文化遺産 - 海に沈んだ歴史のカケラ -』

ネタバレ話

○キーワード：平成26年度博物館特別展、水中文化遺産、ネタバレ、準備、大型品の運搬

沖縄県立博物館・美術館では平成26年11月8日～平成27年1月18日まで、博物館特別展『水中文化遺産 - 海に沈んだ歴史のカケラ -』を開催します。現在、順調に運れつつ準備中ですが、ネタバレ覚悟で特別展の内容について発表します。

水中文化遺産とは何なのか、何を展示するのか、どのような苦労があるのか、特別展と水中文化遺産をより深く理解するため、ぜひお越し下さい。

博物館学芸員講座

7/12 (土) 2014年

14時～16時

入場無料 (開場13時半)

沖縄県立博物館・美術館
1階 博物館講座室
80名 (事前申込不要、当日先着)

片桐 千亜紀 (考古担当学芸員)

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜日が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

博物館には、いろいろなモノがたくさん展示されているけど、どんなモノがあるのかな？そこで、働いている学芸員と呼ばれる人達は、どんな仕事をしているのかな？

なかなか、知られていない博物館の展示物や学芸員の仕事についてほんの少し、紹介します。

そして、みんなは博物館の真実にならなない？？

何があるのかな・・・

前半は、博物館情報とバックヤードツアー。後半は、報告書（マメ新聞かポスター）を作成します。博物館って、意外に面白いよ！！

学芸員のお仕事？ & バックヤード探検!!!

○キーワード：学芸員、面白い、モノ、展示、バックヤード

博物館学芸員講座

8/2 2014年10時～12時 (開場 9:45) (土)

沖縄県立博物館・美術館 1階 博物館実習室 **参加無料**

金城 久枝 (教育普及担当学芸員) 定員：15名 (小学校3年生～中学校3年生)

申込期間：7/20 (日)～7/26 (土) 申込方法：事前申込 (TEL・来館)

※会場の都合上、申込者以外の参加はできません。お子様のみの参加とさせていただきます。但し、集合場所への送迎は保護者の責任のもと、行ってください。
※応募者多数の場合は、抽選となります。
※参加していただける方のみ7/30 (水) までにハガキでご連絡します。

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

○キーワード：沖縄、先史時代、貝、貝塚、貝器

沖縄の先史人と貝

海に囲まれた沖縄では、先史時代以来、人々は海や川で採れる貝を食糧としてだけでなく、アクセサリーや道具の材料としても利用してきました。これは、沖縄の島々の周囲に大規模なサンゴ礁が発達し、多種多様な貝類が分布していることも深く関係しています。貝で作られた矢じりや脚輪、ビーズなど、さまざまな道具が、先史時代の遺跡からは発掘されています。沖縄の先史人にとって、貝は最も身近な素材の一つとして、大いに活用されてきました。

講座では、沖縄の遺跡から発掘される貝を通して見ていく、古代の人々の暮らしについて、わかりやすく解説します。

講義終了後に展示解説会を行います。
時間：15:30～18:00 (予定)
会場：博物館常設展示室 / 当日入場券が必要
※講座参加者には、博物館講座室内で団体料金 (大人 330円) にて入場券を販売します。

博物館学芸員講座

2014年 **9/6** (土) 14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館 1階 博物館講座室 山崎 真治 (人類担当学芸員) 80名 (事前申込不要、当日先着)

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

博物館企画展「久米村ー琉球と中国の架け橋ー」関連催事

久米村 歴史散歩

～博物館企画展「久米村」をもっと楽しむ! 3つのポイント～

上：那覇及久米村図 (1沖縄志より)、下左から：久米聖堂 (複製)、久米村開村地の記念碑、上天宮宮門の石門、築城の様子 (『琉球図説』より)

久米村とは、現在の那覇市久米村付近に中国からの渡来人によって形成されたコミュニティです。ここに住んだ久米村人は、政治・経済・文化的な面から琉球と中国・アジア諸国を繋ぎ、琉球王国の外交や学問・文化の振興を支えました。

9月12日 (金) から10月19日 (日) まで開催する博物館企画展「久米村ー琉球と中国の架け橋ー」では、琉球王国時代を通じた久米村の役割と清明祭などの文化を琉球にもたらした久米村の全貌に迫ります。

当講座は企画展の関連として、「①久米村開村」、「②久米村人ゆかりの地 (日本各地)」、「③久米村に関わるエピソード」の3つのポイントを絞って、久米村の歴史をもっと知って楽しむためのとおき情報をご紹介します。

講座終了後に、企画展「久米村ー琉球と中国の架け橋ー」にて展示解説会を開催します。解説会には、入場券が必要です。講座参加のお客様には、団体割引で入場券 (一般400円) を販売いたしますのでご利用ください。

○キーワード：久米村、久米村開村、久米聖堂、清明祭、天宮堂、日本各地にある久米村人ゆかりの地、久米村に関わるエピソード

博物館学芸員講座

2014年 **10/4** (土) 14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館 3階 講堂 崎原 恭子 (歴史担当学芸員) 200名 (事前申込不要、当日先着)

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

博物館へようこそ!

学校の先生のための 博物館・生き物講座

博物館と学校の連携では、圧倒的に自然史系より民俗系歴史系が人気です。しかし! 県立博物館・美術館には、自然史資料も多く収蔵されているのです。そして、常設展示室にも、濃密なジオラマや展示資料がメジロ押しなのです。

今回は、自然史資料のうち、生物分野に限定して、ふれあい体験室や常設展示の見所と利用の仕方をレクチャーするとともに、バックヤードに移って生物資料の収蔵状況を見ていただきます。

また、今まで学芸員が学校に出向いてどんな出前授業をしたのか、今後、どんな出前授業が可能なのか、はたまた、子どもたちが博物館に来て生き物について学ぶなら、どんな方法が効果的なのか。さらに、博物館を飛び出したアウトリーチ (野外活動) では、どんなことができるのか・・・などなど、一緒に模索してみませんか?

○キーワード：先生、連携、生き物、バックヤード

今回の講座では、産学以外に博物館常設展示室へ入ります。講座そのものは無料ですが、展示室に入る際、入場料が必要となります。講座ご参加のお客様には、会場にて団体割引価格の入場券 (一般 330円) を販売いたしますのでご利用ください。
なお、年間パスポートをお持ちのお客様や70歳以上のお客様は無料です。

博物館学芸員講座

2014年 **11/8** (土) 14時～16時 (開場13時半) **入場無料**

沖縄県立博物館・美術館 博物館講座室 山崎 仁也 (生物担当学芸員) 80名 (事前申込不要、当日先着)

●開館時間：午前9時～午後6時 (金・土は午後8時まで) ●休館日：月曜日 (月曜が祝日に当たる場合は開館し、翌平日が休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催：沖縄県立博物館・美術館

平成26年度 学芸員講座 博物館特別展「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」関連

国頭村宜名真沖で沈没した 異国船の実態を探れ！



12/6 (土) 2014年
14時～16時 (開場13時半) 入場無料

80名 (事前申込不要、当日先着)
沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室

「国頭村のオランダ墓をめぐる地元の物語」
宮城弘樹 (名護市教育委員会学芸員)

「国頭村宜名真沖で沈んだ異国船の海底調査」
片桐千亜紀 (沖縄県立博物館・美術館主任学芸員)

「ペナレス号を追いかけて—文献資料の「発掘」—」
渡辺美季 (東京大学大学院准教授)

キーワード：水中文化遺産、オランダ墓、地元の物語、異国船、海底調査、文献資料

琉球列島では、水中文化遺産の分布状況(種類や数)を把握するための調査が継続的に行われ、多種多様な水中文化遺産が存在することが明らかとなりました。しかし、それらはまだ概要が把握されずに過ぎ、今後は、海域や遺跡を限定したさらに詳細な調査・研究を進め、水中に眠る知られざる歴史と文化を「発掘」する必要があります。そのような状況の中、国頭村宜名真沖で発見された異国船の座礁・沈没事件に関係する水中文化遺産は、多くの研究者や郷土史家によって、民俗学・考古学・歴史学などの各々から調査研究が進められ、その実態が明らかとなってきました。

水中文化遺産研究の醍醐味は、何と言っても特定の水中文化遺産を多角的かつ徹底的に追究することです。この講座では学芸員と長い間共同研究を実施してきた2名の研究者をお招きし、国頭村宜名真沖で発見された異国船の座礁・沈没事件に関して、①陸上に残された遺品とその物語、②海底調査、③文献調査の3つに分けて、その成果を発表します。


宮城弘樹 (名護市教育委員会学芸員) | 渡辺美季 (東京大学大学院准教授)

今帰仁村教育委員会を経て、2012年から現職。専門は考古学。研究テーマは、琉球列島の貝塚時代から古銅器時代の研究。著書に「中世の琉球王国」新沖縄歴史(沖縄編2010年)。

神奈川大学外国語学部准教授を経て、2014年より現職。専門は歴史学。研究テーマは近世琉球を中心とした東アジアの国際関係史。著書に「近世琉球と中日関係(吉川弘文館、2012年)」など。

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

今年もやります!
かつうだけ
嘉津宇岳 ジオツアー



嘉津宇岳(かつうだけ) 豆知識
嘉津宇岳は名護市の西方にある標高452mの古期石灰岩でできた山です。隣接する八重岳(483m)、安和岳(432m)とともに、カルスト地形を形成し、貴重な動植物が多く生息していることから、昭和47(1972)年に県指定の天然記念物(天然保護区域)になりました。

ジオツアーとは、地球科学(地理学や地質学)の専門家による解説を聞きながら、自然景観の仕組みや成り立ちを読み解くツアーです。嘉津宇岳に登り、本部半島の石灰岩とカルスト地形について学びます。

1月10日 (土) 2015年
10時～13時(現地集合・解散)
かつうだけ
名護市 嘉津宇岳

講師 仲里 健(地学担当学芸員)
定員: 15名(小学生5年生～大人)
申込期間: 12/9(火)～12/25日(木)
申込方法: 事前申込制(TEL、来館)
※応募者多数の場合は、抽選となります。
※参加していただける方のみ1/5(月)までに圖書で通知します。

参加条件
①山登りレベル中級
②小学校5年生以上の健康で体力に自信のある方
③軽登山靴をお持ちの方
④沖縄の地形の特徴を体感したい方
参加費: 500円(1人/保険代/当日集金します)

■日程【予定】
10:00～10:10 勝山公民館集合・受付(10分)
→10:10～10:25 事前説明(15分)
→10:25～10:30 登山口に乗換(5分)
→10:30～11:30 登山(1時間)
→11:30～12:00 登山・解説(30分)
→12:00～12:50 下山(50分)
→12:50～13:00 まとめ・解散(10分)

※現地集合、現地解散となります。
※安全管理のため、雨天中止とさせていただきます。(前日が雨の場合も中止)
※参加者には、後日詳細をお伝えします。

■服装・持ち物
①帽子②長袖③長ズボン④軽登山靴⑤両手があぐらか⑥軍手⑦飲み物(500ml以上がベスト)⑧タオル

7年生の参加者の声
「50年ぶりに嘉津宇岳に登りました。思ったよりきつかったです。」
「石の見た目がこれから変わると思います。」
「高校以来の本格的な地学の学習のチャンスでした。地元に関心が一番高まりました。」
「現地での地層を見ながら、地球規模のスケールの今の地層を感じられた。」

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

初心者のための 琉球・沖縄史

大学生や若い社会人のあなたへ
わかりやすく解説します!
一緒に学ぼうよ!
どんなでもご参加いただけます!

Q. 次の問題にお答えください。



私は誰でしょう?
鐘に刻まれた文字の意味は?
私は誰でしょう?
これは何だろう?

詳しくは、学芸員講座で解説します。

博物館学芸員講座
2/7 (土) 2015年
14時～16時 (開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
石垣 忍(歴史担当学芸員)
80名(事前申込不要、当日先着)

今回の学芸員講座では、これまで琉球・沖縄の歴史について興味はあったが、なかなか学ぶ機会がなかった方々(特に大学生や若い社会人)を対象に、当館が収蔵する資料を紹介しながら、旧石器時代から現代の沖縄にいたるまでの基本的な歴史についてポイントを絞ってお話しします。

この講座をきっかけに、一人でも多くの方に琉球・沖縄の歴史及び県立博物館・美術館への関心を深めてもらえればと思います。

もちろん、若い方々以外の皆様についても歓迎いたしますので、お気軽にご参加ください。

○キーワード
瀬川人、グスク、三山、山岳志、朝貢と冊封、万国津梁、尚賢、慶應、江戸立、蔡温、ペリー、琉球処分、脱藩、移民、沖縄戦、USCAR、復帰

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

沖縄の葬墓制 について 考えてみよう!

特別展に向けての取り組み

博物館学芸員講座
3/14 (土) 2015年
14時～16時 (開場13時半) 入場無料

沖縄県立博物館・美術館
博物館講座室
大湾 ゆかり(民俗担当学芸員)
80名(事前申込不要、当日先着)

本講座では、来年度9月から開催する特別展に向けての現在の取り組みと、参加者とともに沖縄の葬墓制について考える講座にしたいと思います。

これまでの調査で沖縄には様々な葬制・墓制の姿があることがわかりました。こうした事例を通じて、祖先とのつながりを大切にしている沖縄独特の葬墓制文化を考察してみます。また、参加者の皆さんにアンケート調査を行い、現代沖縄での死生観について共に考える場にもしたいと思います。

講座では、こんなことを考えます。
あなたにとって墓とは?
皆さんのご意見をお聞かせください。

葬墓制とは...
お墓や葬送儀礼に関すること。

○キーワード: 葬式、墓、埋葬、火葬、洗骨

●開館時間:午前9時～午後6時(金・土は午後8時まで) ●休館日:月曜日(月曜が祝日に当たる場合は閉館し、翌平日休館) ●〒900-0006那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 ●主催:沖縄県立博物館・美術館

VI 展示解説会

1 博物館展示解説会実施要項

(1) 趣旨

博物館の展示内容に関する沖縄の自然・歴史・文化等について、学芸員が広い視点から分かりやすく講義・展示解説し、楽しく有意義な学習を通して、県民の意識の向上を図ることを目的とする。

(2) 内容

当博物館の自然史・人類・考古・歴史・美術工芸・民俗の各分野の担当学芸員が行う講義・展示解説を通して、県民が楽しく、より深く沖縄について学ぶことができる。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、第2木曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館常設展示室

(4) 受講方法

定員なし（事前申込不要、13：55にふれあい体験室に集合）

(5) 日程

	日程	分野	講師名	参加者	ボランティア
1	4月10日(木)	人類	藤田祐樹	10	3
2	5月8日(木)	人類	山崎真治	17	7
3	6月12日(木)	生物	山崎仁也	13	3
4	7月10日(木)	美術工芸	與那嶺一子	30	7
5	8月14日(木)	美術工芸	園原謙	18	2
6	9月11日(木)	地学	仲里健	17	2
7	10月9日(木)	考古	片桐千亜紀	10	7
8	11月13日(木)	歴史	石垣忍	28	9
9	12月11日(木)	民俗	大湾ゆかり	27	13
10	1月8日(木)	考古	安里進	42	19
11	2月12日(木)	歴史	上地聡	21	9
12	3月12日(木)	歴史	崎原恭子	19	3
合計人数				252	84

2 実施状況

常設展の展示解説会は、展示資料を前に、学芸員がパネル文だけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、博物館ボランティアが全体の約30%を占め、その他年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。

常設展の展示解説会は、各学芸員が1回ずつ担当し、全12回252名（定員なし、平均参加人数21名）の参加を集めた。

企画展における展示解説会では、全7回226名（定員なし、平均参加人数32名）の参加者があった。久米崇聖会創立100周年記念「久米村（クニンダ）－琉球と中国の架け橋－」では全5回204名（定員なし、平均参加人数40名）が参加し、久米村の子孫をはじめ多くの参加者へ向けて久米村の歴史・文化に関して解説した。また、「イノシシとブタと私たち」では、全2回22名（定員なし、平均参加人数11名）が参加し、イノシシとブタの生態や遺物を読み解きながら沖縄に生きる人と関わりについて解説した。（大濱萌子）

学芸員による展示解説会 定員なし

平成26年度 博物館企画展・特別展付帯催事 展示解説会

	日程	時間	展覧会名	講師名	参加者	ボランティア
1	9月14日(日)	13:00～14:00	博物館企画展 久米崇聖会創立100周年記念「久米村(クニンダ) －琉球と中国の架け橋－」	崎原恭子	24	11
2	9月28日(日)	11:00～12:00			31	10
3	10月4日(土)	16:30～17:00			74	7
4	10月13日(月・祝)	11:00～12:00			30	2
5	10月18日(土)	16:30～17:30			45	1
6	2月14日(土)	11:00～12:00	博物館企画展「イノシシとブタと私たち」	藤田祐樹	5	2
7		14:00～15:00			17	2
合計					226	35

VII バックヤードツアー

1 バックヤードツアー実施要項

(1) 趣旨

博物館が持つ、調査・研究・保存の機能を担う収蔵庫や各部屋を学芸員が分かりやすく解説し、普段見る事のできない博物館の機能の見学を通して、文化財への県民の意識向上を図る事を目的とする。

(2) 内容

普段見る事のできない博物館内の各部屋を見学する。

(3) 実施日と場所

実施日：毎月1回、今年度は基本第1土曜日 午後2時～3時までの1時間

場 所：博物館バックヤード

(4) 受講方法・定員

受講方法：当日9時から総合案内にて受付。

定 員：12名（当日先着順）

(5) 実施状況

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務めた。安全性を考慮し、常に学芸員と文化の杜スタッフの2名体制で臨んだ。

学芸員研究室～研究資料室(書庫)～自然史実験室～トラックヤード～写真撮影室～冷凍室～工作室を基本コースとしたが、収蔵庫は専門分野を中心に案内することにより、資料に関する質問にも的確に対応することができた。また、建物の構造やIPM(Integrated Pest Management:総合的病害虫管理)の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらうための工夫が担当毎に見られた。参加者層は、県外からの旅行者を含む一般来館者が大多数を占め、夏休み期間中は、親子連れが目立った。全12回101名(定員12名、平均参加人数8名)の参加があった。

(大濱萌子)

(6) 日程

	日程	分野	講師名	定員	参加者
1	4月26日(土)	歴史	崎原恭子	12	12
2	5月17日(土)	美術工芸	與那嶺一子	12	12
3	6月28日(土)	歴史	石垣忍	12	11
4	7月26日(土)	民俗	大湾ゆかり	12	6
5	8月23日(土)	生物	山崎仁也	12	6
6	9月27日(土)	人類	藤田祐樹	12	4
7	10月25日(土)	考古	片桐千亜紀	12	9
8	11月22日(土)	人類	山崎真治	12	3
9	12月13日(土)	教育普及	金城久枝	12	6
10	1月24日(土)	地学	仲里健	12	10
11	2月28日(土)	歴史	上地聡	12	11
12	3月28日(土)	美術工芸	園原謙	12	11
合計人数				144	101

Ⅷ 夏休み！博物館学芸員教室

1 夏休み！博物館学芸員教室実施要項

(1) 主旨・目的

学芸員が、夏季休暇中の児童生徒を対象に、沖縄の自然、歴史、文化に関する自由研究や調査研究等について、可能な限り博物館の情報を提供し、郷土への興味・関心を高める。

(2) 内容

総合・部門展示、ふれあい体験室、情報センターなどの博物館の機能を紹介し、博物館を通じた、沖縄の自然、歴史、文化について子ども向けの教室を行う。

(3) 実施方法

対象：県内の小学生・中学生

実施日：平成26年7月29日（火）から8月1日（金）まで

時間：10:00～16:30 *1教室およそ90分程度

定員：各分野20名程度（当日先着順） *教室によって変更あり

参加料：無料

場所：実習室を中心に行う。

(4) 受講方法

①各分野の担当学芸員日程表をチラシ等で表示し、参加者を募る。

②事前申込制 ※応募者多数の場合抽選

③各担当学芸員の指示のもと、諸注意を守り受講する。

2 実施状況

日時	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)
10:00 ～11:30	貝器づくりに挑戦 山崎 真治 (人類担当) 材料費200円 参加者 10人	動物の歯と食べ物を 研究せよ 藤田 祐樹 (人類担当) 材料費300円 参加者 19人	神が宿る石「勾玉」を 削りだそう 片桐 千亜紀 (考古担当) 材料費500円 参加者 22人	オリジナルの家系図を つくろう 崎原 恭子 (歴史担当) 参加無料 参加者 8人
13:00 ～14:30	/	砂の中から宝を探せ 仲里 健 (地学担当) 参加無料 参加者 21人	/	民具手帳をつくろう 大湾 ゆかり (民俗担当) 材料費200円 参加者 12人 ※ 8/7(木) 5人
15:00 ～16:30	板絵を描いてみよう 国原 謙 (美術工芸担当) 材料費200円 参加者 20人	顕微鏡でのぞく、 不思議ワールド 山崎 仁也 (生物担当) 参加無料 参加者 20人	印じやない？ 石垣 忍 (歴史担当) 材料費1,000円 参加者 10人	糸をつくってみよう！ 與那嶺 一子 (美術工芸担当) 材料費500円 参加者 12人

*応募総数340人/参加者数159人(定員160人)

☆貝器づくりに挑戦

貝器づくりでは、真珠貝を砥石やサンドペーパーで削り、貝のアクセサリや釣り針、ヤジリなどの道具づくりを行いました。



☆板絵を描いてみよう

板絵を描いてみようでは、今年の干支「午年」を題材に、各自好きな色で午を描きました。色とりどりのオリジナル板絵ができました。



☆動物の歯と食べ物を研究せよ

動物の歯をじっくり観察することから、食べ物による歯の構造の違いに気づき、肉食動物？雑食動物？と参加者は興味を持ってスケッチに取り組んでいました。



☆砂の中から宝を探せ！

砂の中から宝を探せでは、星砂と呼ばれる砂が実は 有孔虫の遺骸で、海砂には他にも生物遺骸が含まれていることを実体顕微鏡で海砂を観察し発見することができました。



☆顕微鏡でのぞく、不思議ワールド

顕微鏡でのぞく、不思議ワールドでは、顕微鏡の種類と特徴、使い方を学びその後チリメンモンスター、ゾウリムシの観察を行いました。



☆神が宿る石「勾玉」を削りだそう！

勾玉作りでは、オリジナルの勾玉作成が行われ、研磨に手こずりながらも、権力の象徴として神が宿る石とされた勾玉の歴史やお守りとしての役割を知る機会となりました。



☆印じゃなーい？

印じゃなーいでは、普段気に留めることのない、書や絵、文書に押されている印の役割について考え、好きな文字で印作りが行われました。



☆オリジナルの家系図をつくろう！

オリジナルの家系図づくりでは、身近な家族の広がり調べて、先祖から子孫にいたる一族の系統をまとめました。



☆民具手帳をつくろう！

民具手帳づくりでは、オリジナル民具手帳を作成し、展示室で昔の道具を調べ、現在と昔の生活の違いをノートにまとめました。



☆糸を作ってみよう！

糸作りでは、材料となる植物の苧麻観察やカイコから糸がとれる工程等を体験し、ものを作り出す大変さ生物の大切さを実感したようでした。



☆☆☆ 楽しかったよ！学芸員教室！！ ☆☆☆



7/29 火

博物館 夏休み

7/31 木

1 貝器づくりに挑戦

真珠貝を加工して古代のアクセサリー、矢じりや釣り針などを作る

講師 山崎 真治 (人類担当) 10:00~11:30

対象 小1~中3 (小3以下、保護者同伴)

定員 10人 参加費 200円

※安全管理上、小さいお子様の同伴はご遠慮ください。

2 板絵を描いてみよう

2014夏/午年(うまとし)の絵柄(えがら)の板へ自由にぬり絵しよう

講師 園原 謙 (美術工芸担当) 15:00~16:30

対象 小1~中3 (小3以下、保護者同伴)

定員 20人 参加費 200円

7/30 水

3 動物の歯と食べ物研究せよ

頭骨レプリカの歯を見ながらスケッチ&歯の骨格レプリカを作る

講師 藤田 祐樹 (人類担当) 10:00~11:30

対象 小1~小6 (小3以下、保護者同伴)

定員 20人 参加費 300円

※安全管理上、小さいお子様の同伴はご遠慮ください。

4 砂の中から宝を探せ

砂をよく一見すると...小さな宝物?顕微鏡を使うと探してみよう

講師 仲里 健 (地学担当) 13:00~14:30

対象 小1~中3 (小学生は、保護者同伴)

定員 20人 参加費 無料

5 顕微鏡でのぞく、不思議ワールド

顕微鏡の使い方を学んで、小さな生き物の世界をのぞいてみよう!

講師 山崎 仁也 (生物担当) 15:00~16:30

対象 小4~中3

定員 20人 参加費 無料

※観察したいものがあれば、持参してね。

6 神が宿る石「勾玉」を削りだそう

願いよとどけ!滑石というやわらかい石を削り、想いを込めた勾玉ペンダントを作ろう

講師 片桐 千亜紀 (考古担当) 10:00~11:30

対象 小1~中3 (小3以下、保護者同伴)

定員 20人 参加費 500円

7 印じゃなあーい?

自分の好きな一文字を石に刻んみ、オリジナルの「印」を彫ろう

講師 石垣 忍 (歴史担当) 15:00~16:30

対象 小3~中3 (小学生は、保護者同伴)

定員 10人 参加費 1,000円 (印刃、印材を含む)

※安全管理上、小さいお子様の同伴はご遠慮ください。

8/1 金

8 オリジナルの家系図をつくろう

身近な家族の広がりを探って「家系図」を作り、自由研究のヒントを見つけよう

講師 崎原 恭子 (歴史担当) 10:00~11:30

対象 小4~中3の親子

定員 10組 参加費 無料

9 民具手帳をつくろう

ノートを手作りして民具シールをはり、実物を調査しよう

講師 大湾 ゆかり (民俗担当) 13:00~14:30

対象 小3~中3

定員 20人 参加費 200円

※博物館常設展の入場券が必要です。小中(県内)無料・(県外)150円
※安全管理上、小さいお子様の同伴はご遠慮ください。

10 糸をつくってみよう!

植物と蚕(かいこ)の真綿から糸作り!

一着の着物を作るのにどれだけの生物が必要なのかを調べよう

講師 與那嶺 一子 (美術工芸担当) 15:00~16:30

対象 小4~中3

定員 10人 参加費 500円

子ども芸教室 2014

場所 沖縄県立博物館・美術館 博物館実習室

面白くてためになる。答えを教えるものではありません。

子どもたちに疑問を抱くきっかけや、その疑問を解決する方法を伝授します。

申込方法 事前申込制。参加希望教室を第2希望まで選択し、

当チラシの応募票に必要事項をご記入の上、

FAX・郵送・来館(総合案内)にて、ご提出下さい。

※応募者多数の場合は、抽選にて、当選者のみ7/22(火)までにハガキで通知します。

※電話での申し込みはできません。

※郵送、来館の場合は、お手元にコピー等の控えをお持ち下さい。

※当チラシ(応募票)は、当館HPでダウンロードできます。

<http://www.museums.pref.okinawa.jp>

申込期間 平成26年7月9日(水)~7月15日(火)

申込郵送・ご来館先 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

沖縄県立博物館・美術館 指定管理者 文化の杜共同企業体

「博物館 夏休み学芸員教室2014」係 (わたへ)

申込FAX先 098-941-2392

応募票

住所

自宅
電話
携帯

参加希望教室 一つずつ記入して下さい。

第1希望 第2希望

※希望教室の抽選にもれた場合、定員に達していない教室を受講希望はいいえ

ふりがな

年齢

才

名前

名前

学年

保護者

本人

小・中

年生

※応募には保護者の承諾が必要です。 ※個人情報保護法に基づき、応募票に関わる個人情報の取り扱いについては十分留意します。

Ⅹ ふれあい体験室

1 ふれあい体験室の概要

(1) ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋です。この部屋は、常設展示として、総合展示、部門展示と補充しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せもっています。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなります。

(2) 体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができます。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとしします。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されています。来館者が自主的に触れることが出来る様にするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていきます。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示とします。

(3) ふれあい体験室・体験キットの対象者

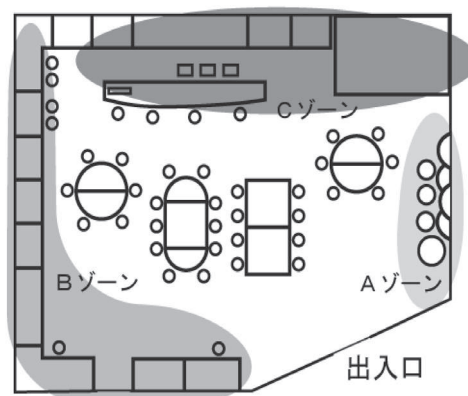
基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象としています。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指しています。

(4) 体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としています。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもあります。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けています。

体験キットグループ	キットの種類	来館者への使用制限
グループ A	【見る・触る】 ・直感的に（一見して）内容が分かる。 ・安全性、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできる。 *来館者によっては手助けが必要。
グループ B	【聞く・比べる・聞ける・押す】 ・簡単な操作で内容が分かる。 ・安全性がある程度確保されていて、耐久性が高い。	・来館者は自由に出し入れできるが、 *来館者によっては手助けが必要な場合もある。
グループ C	【組み立てる・作る・分類する】 ・作業を通して仕組みや内容が分かる。 ・細かい部品や安全面での指導、管理を要する。 ・破損、摩耗しやすい等、耐久性が低い。	・スタッフを介してキットを受け渡し、 介助を得ながら、もしくは目の届く範囲で利用する。 *来館者によっては手助けが必要ない場合もある。

見取り図（ゾーニング図）



2 体験キットの種類

大テーマ	中テーマ	小テーマ	番号	タイトル			
自然のしくみ・先人の知恵	生物界	きみはだあれ？ 自然のすがた	1	サインを見のがすな！	自然史		
			2	小さな生き物の大きな仕事			
			3	耳をすませば			
			4	この骨だれの？			
			5	サンゴと生きる			
			6	いろいろなタネ			
			7	いろいろな木と草			
			8	いろいろな石と砂			
			9	見える星座・見えない星座			
	地史	地下にねむる歴史のなぞ	10	化石 ～生きてあかし～	考古		
			11	港川人研究所			
			12	土層と遺物からわかること			
	人々のくらし		食の知恵	13	石で築く	民俗	
				食の習わし	14		ヌチグスイ
					15		イノー ～海の食料庫～
			生活のくふう	16	御三味 (ウサンミ)		
				17	いろいろな道具		
			沖縄のコトバ	18	鳥のコトバ		
				シマの心	19		いろいろな玩具
					20		いろいろな楽器
			色のひみつ・形のふしぎ	21	衣からわかること		
				22	焼物 ～かたちのわけ～		
				23	漆 ～飾るたのしみ～		
				24	印かんってなあに？		
				25	島のかたち		
			国のかたち	26	記録のくふう		歴史
				27	国々とのおつきあい		



3 スタッフの配置状況

ふれあい体験室は常駐の職員1名（文化の杜共同企業体）と博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアで運営している。

職員は、常勤スタッフ1名とアルバイトスタッフ4～5名で構成。室内の安全管理、体験キットの整理・修繕や、来館者が体験キットに寄せる好奇心を、共に探求する「ふれあいスタッフ」を配置している。ふれあい体験室の「ふれあい空間づくり」には、博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティアの支援が大きな力となっている。

4 利用者状況

今年度のふれあい体験室の来場者は、42,781人（1日平均142人）。県内外より展覧会に訪れる、個人・団体の来館者をはじめ、幼児から小学生の家族連れや友達同士で訪れるリピーターも定着している。リピーターの中には、お母さん・兄弟・姉妹と共に、幼少から訪れている常連さんもある。常設の体験キット27件は、人々の交流の中で子ども達の成長に合わせて活用され、ふれあい体験室は小さな子どもから楽しめる博物館の「学びの場」となっている。夏休み期間中は、博物館ミニ企画展「昆虫ワールド」（7/23～8/24）との相乗効果もあり、ふれあい体験室は1年間で一番の賑わいとなった。9月には、琉球王国時代の交易の様子をスゴロクで学ぶ、体験キット「No.27 国々とのおつきあい～万国津梁ゲーム～」に新たなシリーズ「古琉球編」が登場し、人気を集めている。

毎週土曜日に開催している「ふれあい体験室ワークショップ」【5-(1)】は、平成22年度から10種類のプログラムを実施してきた。体験キットの学びを深める機会として、子どもから大人まで幅広い世代が参加し、新たなプログラムを楽しみにする参加者も多い。ワークショップの充実は、飽きさせない環境づくりや、来館を促すきっかけへと繋がっている。

5 ふれあい体験室の取組み

(1) ふれあい体験室ワークショップ

今年度のふれあい体験室ワークショップは、体験キットの充実・発展を目的に、各分野担当学芸員や専門の指導者と協力して4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を低くすることや、短時間で取り組める内容を選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博上カード」を配布し、カードを集める楽しさを取り入れながら、学びを深めてもらった。（主催：文化の杜共同企業体）

場所：ふれあい体験室前エントランスホール

講師：ふれあい体験室スタッフ1名

（文化の杜共同企業体：渡部貴子、平良尚人、三枝大悟、比摩定智子、渡久山海理）

対象：小さなお子さん～大人（小3以下、保護者同伴）

参加者数：1,238人／一日平均24人

① ふれたい博上の「てづくりおもちゃ」

内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、マーニー（クロツグ）やアダンの葉でつくった昔のてづくりおもちゃを、カラフルな画用紙やソフトテープで作製した。

日 時：4月～6月の毎週土曜日（6/29休館）

1回目 10:00 「馬グワ」

2回目 10:30 「カエル」

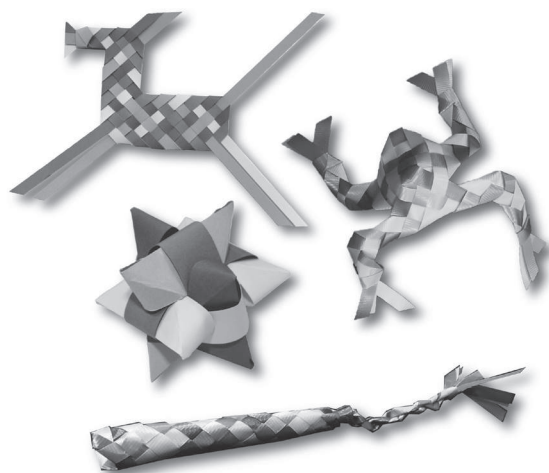
3回目 11:00 「星コロ」

4回目 11:30 「ハブグワ」

参加費：100円

参加者数：234人

（開催日数13日／一日平均18人／各日定員40人）



② ふれたい博士の「かんたん化石のレプリカづくり」

内 容：体験キットNo.10「化石～生きたあかし」から、アンモナイト・三葉虫・恐竜の爪・サメの歯の化石レプリカをお湯で軟らかくなる樹脂粘土(おゆまるくん)で作製した。

日 時：7月～9月の毎週土曜日(7/5 休館)

1回目 10:00 / 2回目 10:30 /

3回目 11:00 / 4回目 11:30

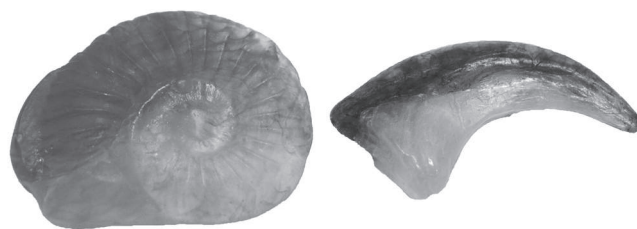
参加費：150円

参加者数：541人

(開催日数 12日 / 一日平均 45人 /

8/16以降、各日定員を40人→60人へ増員)

指導協力：仲里健(地学担当)、藤田祐樹(人類担当)



③ ふれたい博士の「糸から布を織ってみよう」

内 容：体験キットNo.21「衣からわかること」から、麻糸と毛糸で大きさ約10センチ四方の平織りの布を作製した。

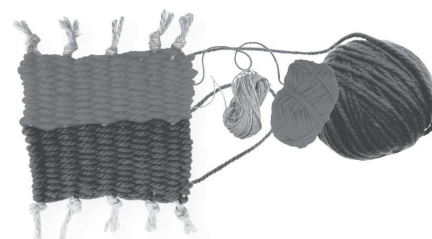
日 時：10月～12月の毎週土曜日

1回目 10:00 / 2回目 10:45 / 3回目 11:30

参加費：100円

参加者数：157人(開催日数 13日 / 一日平均 12人 / 各日定員 30人)

指導協力：與那嶺一子(当館美術工芸担当学芸員) / 宮良みゆき(久米島博物館学芸員) / 宮城奈々(琉球の織物研究会代表)



④ ふれたい博士の「凧づくり～カーブヤーに挑戦！」

内 容：体験キットNo.19「いろいろな玩具」から、十字の骨組にカラフルなビニールを張り、大きさ28cm角の沖縄の伝統凧「カーブヤー」を作製した。

日 時：1月～3月の毎週土曜日

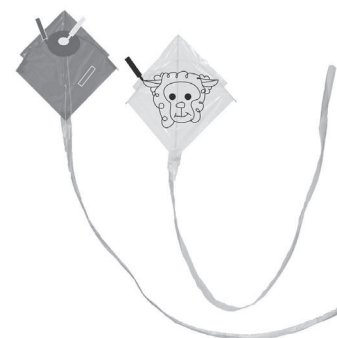
1回目 10:00 / 2回目 10:30 / 3回目 11:00 / 4回目 11:30

参加費：150円

参加者数：303人(開催日数 13日 / 一日平均 23人 / 各日定員 40人)

指導協力：大湾ゆかり(民俗担当) /

上運天研成氏(おもちゃの会ピノキオ会長)



(2) ふれあい体験室ワークショップ特別編

毎週土日に定期開催しているふれあい体験室ワークショップが、臨時的に開催の申し入れがあった団体へ向け、ワークショップを行った。通常の開催に参加したことのない人々へも、広く郷土玩具の普及を図り、関心を高められる機会となった。(主催：文化の杜共同企業体)

内 容：アダン業細工の「ハブグラー」をカラフルなソフトテープで作製した。

日 時：5月21日(水) 13:30～15:30

場 所：当館ふれあい体験室前エントランスホール

講 師：渡部貴子(文化の杜共同企業体)

対 象：琉球大学留学生クラス沖縄事情の学生

参加費：100円

参加者数：46人



ふれあい体験室 ワークショップ

毎週 土曜日 2014年4・5・6月は

ふれたい博士の「てづくりおもちゃ」

体験キット 19 いろいろな玩具 から、マーニー(クロググ)やアダンの葉でつくった音のてづくりおもちゃも、カラフルな画用紙やソフトテープで作ります。ものづくりの知恵や工夫が込められた、おもちゃづくりに挑戦してみよう!

馬グラー ①10:00~ レベル:★★★

カエル ②10:30~ レベル:★★★

星ココ ③11:00~ レベル:★★★

ハブグラー ④11:30~ レベル:★★★

日にち: 4/5・12・19・26
5/3・10・17・24・31
6/7・14・21・28

時間: 1回目 10:00 馬グラー
2回目 10:30 カエル
3回目 11:00 星ココ
4回目 11:30 ハブグラー

場所: 沖縄県立博物館・美術館
1階ふれあい体験室前

受付: 当日先着 40人 (各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5さい~大人
*小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 100円

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1
TEL.098-941-8200
沖縄県立博物館・美術館ホームページ <http://www.museums.pref.okinawa.jp>
●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌平日が休館)
●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体 わたべ

ふれあい体験室 ワークショップ

毎週 土曜日 2014年7・8・9月

体験キット 10

ふれたい博士の「かんたん化石のレプリカ作り」

お湯でやらかくなる樹脂粘土で化石のレプリカを作ります。レプリカとは、実物を型取った複製品です。貴重な実物資料は、博物館で保管されて後世の人々へ受け継がれます。レプリカは、実物資料の代用品として研究や展示に役立てられることが多いです。みんなも、簡単なレプリカ作りを体験して博物館の化石レプリカを研究材料にしませんか? バッジやペンダントのアクセサリーパーツも付けれます。今年の夏は化石のレプリカでおしゃれにキメよう!

恐竜の爪 (ヴェロキラプトル)
三葉虫
アンモナイト
サメの歯

日にち: 7/12・19・26
8/2・9・16・23・30
9/6・13・20・27

時間: ①10:00/②10:30
③11:00/④11:30

受付: 当日先着 40人 (各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5さい~大人
*小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回150円

1回1つ、大きさ: 約5センチ×約3センチ

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体 わたべ
●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)、館内消毒期間(6/30/7/7/8/4) ●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)

ふれあい体験室 ワークショップ

毎週 土曜日 2014年10・11・12月

体験キット 21 衣からわかること

ふれたい博士の糸から布を織ってみよう

「織り」ってなあに? たてとよこの糸を組み合わせ、「平織り」に挑戦しながら、織りのしくみを知ります。お家ででもできる「てづくり織り機」を使って、麻糸とお好きな色の毛糸で大きさ約10センチ四方の布を織ります。できあがった布は、壁掛けにしたり、コースターとしても使えるよ。

ルーペで拡大すると...
よこ糸 たて糸

ひろおり編

日にち: 10/4・11・18・25
11/1・8・15・22・29
12/6・13・20・27

時間: ①10:00/②10:45/③11:30
*所要時間45分

受付: 当日先着 30人 (各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 5さい~大人
*小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回100円

1階エントランスホール

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200 <http://www.museums.pref.okinawa.jp>
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体 わたべ
●休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日) ●開館時間 9:00~18:00(金・土は20:00まで)

ふれあい体験室 ワークショップ

毎週 土曜日 2015年1・2・3月

体験キット 19 いろいろな玩具

ふれたい博士の凧づくりカーブヤーに挑戦!

「カーブヤー」は、幼児から遊べる沖縄の伝統麻です。「カーブヤー」とは、ウチナーグチで「クオモリ」のこと。飛ぶ姿が似ているため、そう呼ばれている。さあ、どんなふうに空を舞うのでしょうか? 十字の骨組にカラフルなビニールを張り、絵付けて大空にあげよう!
(大きさ: 28cm角)

日にち: 1/3・10・17・24・31
2/7・14・21・28
3/7・14・21・28

時間: 1回目 10:00
2回目 10:30
3回目 11:00
4回目 11:30

場所: 沖縄県立博物館・美術館
1階エントランスホール

受付: 当日先着 40人 (各回10人)
*9:00よりふれあい体験室にて受付

対象: 小さなお子さん~大人
*小3以下、大人といっしょに参加

参加費: 各回 150円

〒900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 TEL.098-941-8200
●休館日 月曜日(祝日の場合は翌平日)、12/29~12/31
●開館時間 9:00~18:00(金・土・日・20:00まで)、1/1~3 18:00まで
●主催・問合せ 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体 わたべ
●ホームページ <http://www.museums.pref.okinawa.jp>

(渡部貴子)

X ボランティア養成事業

1 沖縄県立博物館・美術館 博物館ボランティア活動実施要項

平成 20 年 2 月 13 日

館長決済

(趣旨)

第 1 条 沖縄県立博物館・美術館は、博物館が行う教育普及活動または研究資料の収集・整理・充実を図るため、その活動の補助員としてボランティア（以下「博物館ボランティア」という。）を置くことができる。

(博物館ボランティアの活動)

第 2 条 博物館ボランティアは、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 展示解説、文化講座、体験学習教室、ふれあい体験室、相談室における対応等の教育普及活動全般にわたる補助的活動。
- (2) 調査研究等を推進するために必要な資料の収集に関し、専門知識を生かした補助的な活動。

(登録等)

第 3 条 博物館ボランティアの登録は、博物館ボランティア講座の修了者、沖縄博物館友の会の会員、博物館ボランティア活動を希望する者で、登録票(第 1 号様式)により申請のあった者の中から、沖縄県立博物館・美術館館長(以下「館長」という。)が審査のうえ適当と認められる者について、登録簿(第 2 様式)へ登載を行う。

- 2 館長は登録を受けた博物館ボランティアに対し、博物館ボランティア登録証(第 3 号様式)を交付する。
- 3 登録期間は、登録した日の属する年度の末日までとする。但し、当該博物館ボランティアが希望する場合は審査のうえ登録を更新することができる。
- 4 館長は博物館ボランティア登録者に博物館の名誉を傷つける等の行為があった場合は、登録を取消することができる。

(研修)

第 4 条 館長は博物館ボランティアの活動が効果的にすすめられるよう、随時研修会を開催する。

(ボランティア室の設置)

第 5 条 館長は博物館ボランティア活動の連絡及び相互交流の場として、ボランティア室を設置する。

(庶務等)

第 6 条 博物館ボランティアの登録は、博物館教育普及担当において処理する。

- 2 博物館ボランティア活動の連絡調整は、博物館教育普及担当と沖縄博物館友の会において処理する。

(雑則)

第 7 条 この要項に定めるもののほか博物館ボランティア活動の実施に必要な事項は、館長が別に定める。

付則

この要項は、平成 5 年 7 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 12 年 8 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 20 年 2 月 13 日から実施する。

博物館ボランティア〈第6期〉募集要項

沖縄県立博物館・美術館では、地域の方々へ自己啓発の場を提供するとともに、博物館活動の活性化、来館者へのサービス向上、多様化するニーズへの対応を目指し第6期ボランティアを募集します。

◆ 活動内容・募集人数

A 博物館ボランティア〈主に平日活動〉 50名

- ① 展示解説ガイド（主に学校団体対応）
「博物館常設展示室」において、展示資料の案内、質問対応などを行う。
- ② 体験学習サポート
「ふれあい体験室」「博物館実習室」を中心とした、体験学習サポートなどを行う。
- ③ 資料整理活動
新聞スクラップ整理／各種刊行物発送作業サポートなどを行う。

B ふれあい体験室専属ボランティア〈土・日・祝祭日活動〉 10名

「ふれあい体験室」でのサポート

◆ 応募資格・条件など

- ・18歳以上（高校生を除く）で、心身ともに健康な方
- ・博物館活動に興味・関心のある方
- ・各種研修すべてを受講できる方
- ・登録後、月に2日以上、当館においてボランティア活動ができる方

◆ 受講料

無料

◆ 登録と活動

- ・養成講座及び専門講座修了者 → 博物館ボランティアへ登録（10月）
- ・養成講座及び専門講座を修了した者で、総合展示部門解説ガイド養成講座実習①～実習⑤を修了した者 → 総合展示部門解説ガイドへ登録（12月）
- ・ふれあい専属ボランティア養成講座修了者 → ふれあい体験室専属ボランティアへ登録（7月）
- ・所定の研修を修了した方を、ボランティアとして登録（博物館費用でボランティア保険加入）し、翌年の登録を希望する場合、活動状況などを基に1年度毎の更新となります。
- ・10月の登録証交付式で配布される【ボランティア証】を着用し、活動を開始していただきます。

◆ 応募期間及び方法

平成26年4月8日(火)～4月29日(火)

申込用紙に必要事項を記入の上、FAX、郵送、来館のいずれかで4月29日(火)必着

問合せ先 TEL(098)941-8200 FAX(098)941-2392

沖縄県立博物館・美術館（文化の柱 担当：亘保、大濱）

受付：9:00～18:00（月曜日を除く）

◆ ボランティア登録までの流れ

- ・募集期間 平成 26 年 4 月
- ・開講式 平成 26 年 5 月 14 日(水)・5 月 17 日(土)
- ・養成講座 平成 26 年 5 月～7 月
- ・専門講座 平成 26 年 9 月～10 月 *日程等調整中
- ・総合展示部門解説ガイド養成 実習①～実習⑤ 平成 26 年 11 月～12 月 *日程等調整中
- ・登録証交付式 平成 26 年 10 月中旬 *日程等調整中

◆ 養成講座の日時・場所

- ・平成 26 年 5 月 14 日(水)～
- ・A 博物館ボランティア：毎週水曜日、金曜日 14:00～16:00 ※開講式 5 月 14 日(水)
- ・B ふれあい体験室専属ボランティア：土曜日 10:00～12:00 ※開講式 5 月 17 日(土)
- ・沖縄県立博物館・美術館：講座室など

◆ 博物館ボランティア養成講座〈日程表〉

A 博物館 ボラン ティア	回数	内 容	日 時		形態	担当学芸員
			前半14:00～ 後半15:00～			
	1	開講式／博物館活動について	5月14日(水)	(美講室)	講 座	上地班長
	2	博物館ボランティアについて／1PMについて	5月21日(水)	(美講室)		金城・仲里
	3	自然史／人類	5月30日(金)	(博講室)		山崎(仁)・仲里 山崎(真)・藤田
	4	考古／歴史	6月4日(水)	(美講室)		片桐 崎原・石垣
	5	民俗／美術工芸	6月13日(金)	(美講室)		大湾 園原・與那嶺
	6・7	ボランティア実習 ふれあい体験室や展示室での来館者を想定した実地研修を行う	6月18日(水) 7月11日(金)	(博講室)	実 習	金城・比嘉 (渡部)

B ふれ あい 専 属 ボ ラ ン テ ィ ア	回数	内 容	日 時		形態	担当学芸員
			10:00～12:00			
	1	開講式／博物館活動について ／博物館ボランティアについて ／1PMについて	5月17日(土)	(実習室)	講 座	金城・比嘉 (渡部)
	2	ボランティア実習① ふれあい体験室について 体験キットについて 常設展示室との関連について	6月7日(土)	(ボランティア室)	実 習	金城・比嘉 (渡部)
	3	ボランティア実習② ふれあい体験室での来館者を 想定した実地研修／意見・感想 交換／開講式・登録証交付式	7月12日(土)	(実習室)	実 習	金城・比嘉 (渡部)

平成26年度 第6期 博物館ボランティア養成講座 開講式及び説明会

1 主旨	ボランティア募集に応募した参加者に、博物館のボランティア活動の主旨や今後の日程などを含めた確認事項等を説明し、周知徹底を図る。		
2 場所	沖縄県立博物館・美術館 講座室		
3 日時	平成26年5月14日(水) 14:00～14:45		
4 開講式次第	司会:比嘉 香織		
(1) 館長あいさつ	県立博物館・美術館	館長	安里 進 (5)
(2) 職員紹介	県立博物館・美術館	博物館班 上地 聡 (10)	文化の杜共同企業体 代表 平良知二
(3) おわりの言葉	文化の杜共同企業体	代表	平良知二 (5)
5 説明会			
(1) 日程確認等	教育普及担当	金城 久枝	(10)
(2) 講座中の諸注意	"		(10)
(3) 質 疑	"		(5)

1 ボランティア登録までの流れ

- (1) 募 集 平成26年4月8日(火)～4月29日(火)まで
- (2) 説明会(開講式) 本日
- (3) 養成講座 平成26年5月～7月
- (4) 養成講座修了証交付(仮登録) 平成26年7月11日(金)
- (5) 正式登録(専門講座受講者) *専門講座終了後、申請書提出→ 正式登録

2 養成講座日程表

5月14日(水) (美術館講座室)	開講式 博物館活動について	14:00～14:45 15:00～15:50	金城 上地班長
5月21日(水) (美術館講座室)	IPMIについて 博物館ボランティア活動について	14:00～14:50 15:00～15:50	仲里 金城
5月30日(金) (博物館講座室)	考古 人類	14:00～14:50 15:00～15:50	片桐 藤田・山崎(真)
6月4日(水) (美術館講座室)	生物・地学 歴史	14:00～14:50 15:00～15:50	山崎(仁)・仲里 崎原・石垣
6月13日(金) (美術館講座室)	民俗 美術工芸	14:00～14:50 15:00～15:50	大湾 園原・與那嶺
6月18日(水)	ボランティア実習(ふれあい体験室/展示室)	14:00～14:50 15:00～15:50	金城・比嘉 (渡部)
7月11日(金)	ボランティア実習(ふれあい体験室/展示室) 養成講座修了証交付式(仮登録)	14:00～14:50 15:00～15:50	金城・比嘉・(渡部) 金城

- ※ 博物館への出入りの際は、名札を提示してください。
- ※ 台風時の講座については、バスの運行があれば実施します。
- ※ 飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)
- ※ 未受講の講座がある場合、登録が不可となりますのでご注意ください。

博物館ボランティア養成講座を修了する皆様へ

5月14日から約10時間の各種講座、並びにふれあい体験室等での実習の受講お疲れさまでした。本日をもってボランティア養成講座は修了となります。

これまでの講座により、沖縄県立博物館・美術館の概要ならびにボランティアの役割等ごいただいたでしょうか。

さて、今後皆様がボランティア員として活躍していただくためには、専門講座(9～10月)講じていただくこととなります。

○ 専門講座の受講を希望しない方

◆ 現在着用のボランティア受講証を返却下さい。

○ 専門講座の受講を希望する方

- 1) ボランティア受講証に、継続可能を示すスタンプを押印します。
- 2) 専門講座(9～10月)までの期間中、ボランティア受講証提示で常設展示室の観覧を無料とします。
- 3) 7/17(木)に予定しているバックヤードツアーへ参加できます。
- 4) 専門講座の案内を確認します。
- 5) 専門講座終了後、ボランティア員への正式登録の申請を受付ます。
- 6) ボランティア勉強会への参加ができます。*但し、外部への研修はできません。
- 7) ふれあい体験室でのボランティア活動体験をおこなって下さい。 *ボランティア室での申込を!

□ 博物館バックヤードツアー

★来館時はカードの装着をお願いします!!

～普段は見ることのできない博物館の裏側を案内します～

受付名簿 [7月17日(木) 1回目13:30～14:30、2回目14:45～15:45 定員各15名]

13:30～14:30	14:45～15:45
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	

★別紙用紙へ記入下さい!!

□ 9～10月開講の「平成26年度ボランティア専門講座」について

1 目的

- (1) 本講座は、博物館の登録ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点にしなが、ふれあい体験室の体験キットや『博物館学習ノート』の意図を理解し、ボランティア活動を円滑に行えるようにする。
- (2) 来館者へのサービス向上やニーズに対応するため、一般来館者(修学旅行生含む)向けのボランティア展示解説ガイドを実施できるようにする。

2 内容(予定)

- ① 講座は、博物館展示室、ふれあい体験室で実施する。
- ② 学芸員は展示室とふれあい体験室で(現地)解説を行う。
 - ◎ 展示室:『博物館学習ノート』、『ガイドマニュアル』を活用した解説を行う。
 - ◎ ふれあい体験室:体験キットの解説を行う。
- ③ 受講生は35分単位で場所を移動する。

※『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。

※『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。

※ 台風時、暴風警報が発令された場合は中止とします。

※ 飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)

※ 専門講座の補講は、設定できません。

※ 専門講座中の欠席(養成講座と同様、事前連絡が必須。無届や理由が不適切な場合は登録不可)

平成26年度博物館ボランティア養成講座修了者に対する
本登録前の条件確認 チェックシート

5月14日から約14時間にわたるボランティア養成講座受講、お疲れ様でした。講座で
① 博物館について ② 博物館ボランティアの活動について ③ 博物館における各分野
の役目と位置づけについて 概要をとらえる（考える）ことができたでしょうか。

◇自主活動について

これから9月の専門講座開始までの期間は、自主活動とします。
専門講座開始までの期間、以下の4点を活用し“博物館学習”に努めてください。

- ① “現在の名札”を着用することで、常設展示室の入場を無料とします。
- ② *別表に示す期日に、バックヤードツアーを開催します。
- ③ ふれあい体験室に入り、“活動体験(実践)”をおこなってください。
- ④ 博物館学習ノートを活用して下さい。

◆本登録の条件について（館が求めるボランティアへのご理解）



専門講座受講後、本登録をおこない、館でのボランティア活動を開始して頂きますが、相互（館と登録者）の共通理解のもと、登録後の活動が円滑におこなわれるために、以下のことから（ボランティア本登録の条件）をご確認いただきたいと思います。

チェック（確認）していただく文章は、「博物館ボランティアのてびき -2014年度版-」に示した内容を、チェックシート用書き換えたものです。

本趣旨をご理解の上、確認をお願いします。

本チェックシートの提出は、バックヤードツアー時に提出下さい！

博物館教育普及 金城久枝

ボランティア本登録の条件確認用 チェックシート

→ 館が求めるボランティアへのご理解と確認のために ←

氏名

* 博物館ボランティアのてびき=以下 てびき

* 博物館ボランティア活動=以下 ボランティア活動

*不明な点は“てびき”を参照してください

- てびきを示す、“目的”を理解したボランティア活動をめざします
- てびきを示す、“活動の方針”を考えたボランティア活動をめざします
- てびきを示す、“活動の種類と内容”に取り組みます。

当てはまる 当てはまらない

- 1 曜日班に属し、定例の会議に参加します
- 2 ボランティア内の各種勉強会等に参加し、自己研鑽につとめます
- 3 月に2日以上活動をめざします
- 4 1回で3時間程度の活動をめざします
- 5 館の定める遵守事項を守るようつとめます

— 意見や要望 —

平成26年度 博物館ボランティア専門講座、総合展示部門解説ガイド養成講座実施計画

1 目的

- (1) 本講座は、博物館の第6期ボランティアが、総合展示室、部門展示室の資料を出発点しながら、ふれあい体験室の体験キットや「博物館学習ノート(ワークシート)」の作成意図を理解し、学校団体対応におけるボランティア活動を円滑に行えるようにする。
- (2) 来館者へのサービス向上やニーズに対応するため、一般来館者(修学旅行生含む)向けのボランティア展示解説ガイドを実施できるようにする。

2 対象 沖縄県立博物館・美術館 博物館第6期ボランティア研修生

3 期日・時間

平成26年9月19日(金)～10月17日(金)
14:00～16:00(2時間)

4 場所 博物館常設展示室、ふれあい体験室、実習室

5 内容

展示室、ふれあい体験室、実習室等の3ヶ所でそれぞれの学芸員が解説する。
受講生は35分単位で、まとまって移動する。

- **展示室**：ボランティアが学校団体の支援に入った時を想定し展示室の見どころを紹介する。
*「博物館学習ノート(ワークシート)」「ガイドマニュアル」を活用
- **ふれあい体験室**：体験キットの解説を行う。*体験キットと展示室との関連

6 日程表

回数	期日	分野・内容 <各35分>		
		A[展示室]	B[ふれあい体験室]	C[実習室]
◎タイムスケジュール		14:00～14:35(35分)	14:35～15:10(35分)	10分 15:20～15:55(35分)
1	9月19日(金)	考古－片桐	考古－片桐	トイ レ休 教育普及(学校団体受入①) 教育普及(学校団体受入②) 教育普及(民具体験C) 教育普及(民具体験B)*文化の杜 教育普及(スタッフ業務)*文化の杜 *車両登録についての説明等
2	9月24日(水)	歴史－石垣/崎原	歴史－石垣/崎原	
3	9月26日(金)	美工－與那嶺/園原	美工－與那嶺/園原	
4	10月1日(水)	生物－山崎(仁)	生物－山崎(仁)	
5	10月10日(金)	地学/化石－仲里	地学/化石－仲里	
6	10月15日(水)	人類－藤田/山崎(真)	人類－藤田/山崎(真)	
7	10月17日(金)	民俗－大湾	民俗－大湾	
				登録証交付式～引き続き ボランティア全体会 (新旧顔合せ) 15:20～16:30

7 総合展示部門 解説ガイド養成講座

日程表 開催時間14:00～16:00

1	10月24日(金)	開講式、ガイド心得、実習①
2	11月5日(水)	実習②
3	11月19日(水)	実習③
4	12月3日(水)	実習④
5	12月17日(水)	実習⑤ 閉講式、ガイド証交付

☆研修生への連絡事項

- ※『博物館学習ノート』は、事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。
- ※『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。
- ※台風時、暴風警報が発令された場合は中止とします。
- ※飲食物の持ち込みは、ご遠慮ください。(ガムを含む)
- ※専門講座の補講は、設定しません。一欠席者はレポートを提出します。

平成26年度 博物館ボランティア専門講座 〈欠席時の提出レポート〉

■ボランティア氏名

受取り日: 月 日()

■欠席日時と内容 ()月()日(金曜) / 分野内容()

★第 回目用

■レポートテーマ - 場面想定をした課題 -

A	<p>あなたは展示室で、小学校高学年に向けて展示資料の紹介をおこなうことになりました。欠席日に説明のあった()部門展示室の()について、どのように展示資料の紹介をしますか。</p>
B	<p>欠席日に説明のあった()分野の“体験キット”はNo. _____ ~ No. _____ です。その中から一つ選び、展示室とのつながり(関連)を書いてください。</p> <p>・キット名【 _____ 】</p> <p>・関連する展示室(場所や資料名)【 _____ 】</p> <p>・つながり(関連性)について</p>

★本レポートの提出は、用紙受取後1週間以内に、ふれあい体験室までお願いします。配布日: 月 日()

**「平成26年度博物館ボランティア専門講座閉講式」
並びに「第6期ボランティア登録証交付式」**

1 主旨

ボランティア専門講座を修了した者に登録証を交付し、博物館ボランティア活動の主旨や活動の在り方などの周知徹底を図り、ボランティア活動の開始を確認する。

2 場所 沖縄県立博物館・美術館 講座室

3 日時 平成26年10月17日(金) 15:20～15:35

4 閉講式次第 進行:比嘉 香織

(1) 登録証交付 県立博物館・美術館 館長 安里 進 (7)

(2) 館長あいさつ 県立博物館・美術館 館長 安里 進 (4)

(3) おわりの言葉 文化の杜共同企業体 統括 赤嶺 昌樹 (4)

～引き続き～

(秋季)ボランティア員全体会

15:40～16:30

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員
進行 比嘉 香織

目的 ① 曜日班に、新規ボランティアを迎える。

② ボランティアの正式活動ができるように、仕事内容を確認する。

1 全体確認 金城 (2分)

* 曜日別に座席の移動 * (1分)

2 曜日班別ミーティング 一世話係を中心に進行する (20分)
(自己紹介、活動計画などの確認)

3 報告(班ごとに話し合われた事がらを発表する)*火水木金土日一世話係り (18分 3分×6班)

4 分野別勉強会より(入会案内)*歴史考古、自然史人類、民俗、美工 一世話係り (7分)

5 事務連絡 *名簿修正確認、新聞(資料整理)、友の会入会案内 (2分)

〈平成 26 年度〉 沖縄県立博物館・美術館 **博物館ボランティア登録申請書〈1 年更新〉**

①～⑭までもれなく記入して下さい。

登録申請日 2014 年 月 日

	ふりがな			*写 真 現在登録中の画像を 変更したい方は、 申し出て下さい。
①	氏 名			
②	会 員 番 号			
	職業*(現役者のみ)			
④	生 年 月 日	19()年/昭和()年()月()日		
	ふりがな			
⑤	住 所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		メ ー ル	

⇒当てはまる□に を入れて下さい。

⑦健康状態 *複数可		⑧来館手段 *複数回答可		⑨館までの所要時間
<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある <input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他 ()		<input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 他 ()		およそ () 分
年	月	⑩ 職 歴		
⑪ どんな免許や資格がありますか				

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

⑫活動曜日 と 所属曜日	活動可能な曜日 *活動は、所属曜日班にしばらくられません。複数回答可。 □火曜 □水曜 □木曜 □金曜 □土曜 □日曜
	希望する所属曜日班＝()曜日班＝(情報や連絡を共有します) *必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。
⑬活動可能な時間帯	()時ごろ～()時ごろ 理由があれば()

⑭ 活動してみたい内容 (当てはまる□1～10に☑を入れて下さい。複数回答可)

- ・活動の募集は ボランティア室に掲示する“チラシ”で呼びかけます
- ・「7」は ボランティア室内の 掲示板へ 自身で名前「マグネット版氏名」を表示します

***自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する!**

□1 [学校団体]展示解説ガイド (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)
①離島等の小規模校対応 ②先生の要望に応じた解説

□2 [一般来館者対象]展示解説ガイド

★小学校3年社会科民具体験学習 (8月～3月)

□3 民具解説 B

□4 民具体験サポート C

□5 民具体験学習での展示解説 D

□6 誘導ボランティア (小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)

□7 ふれあい体験室の支援 (4月～3月)

□8 体験学習教室の支援 (博物館・美術館行事案内パンフレット参照)

□9 資料整理活動 (4月～3月) *新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美等

□ *10 他—提案する活動があれば()

□ 曜日班(正・副)世話係 □ 勉強会(正・副)世話係 *会で協議して下さい

★要望や意見がありましたらご記入下さい。



↓裏面も記入 ○提出先＝博物館教育普及へ ○提出前に各自で控えをお取り下さい

〈平成 26 年度〉 沖縄県立博物館・美術館 博物館ふれあい体験室専属ボランティア登録申請書〈1 年更新〉

①～⑭までもれなく記入して下さい。

登録申請日 2014 年 月 日

	ふりがな			*写 真 現在登録中の画像を 変更したい方は、 申し出て下さい。
①	氏 名			
②	会 員 番 号			
	職業*(現役者のみ)			
④	生 年 月 日	19()年/平・昭()年()月()日		
	ふりがな			
⑤	住 所	〒		
⑥	連絡先 自宅		携 帯	
	*職場(現役者のみ)		メ ー ル	

⇒当てはまる□に を入れて下さい。

⑦健康状態 *複数可		⑧来館手段 *複数回答可		⑨館までの所要時間
<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 体調にムラがある <input type="checkbox"/> 通院している <input type="checkbox"/> 他 ()		<input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 自家用車 <input type="checkbox"/> タクシー <input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> モノレール <input type="checkbox"/> 他 ()		およそ () 分
年	月	⑩ 職 歴		
⑪ どんな免許や資格がありますか				

↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

⑫活動曜日 と 所属曜日	<p>※網掛け部分は、記入不要。</p> <p>活動可能な曜日 <u>※活動は、所属曜日班にしばらくられません。複数回答可。</u></p> <p><input type="checkbox"/>火曜 <input type="checkbox"/>水曜 <input type="checkbox"/>木曜 <input type="checkbox"/>金曜 <input type="checkbox"/>土曜 <input type="checkbox"/>日曜 <input type="checkbox"/>祝日</p>
	<p>希望する所属曜日班＝（ ）曜日班＝(情報や連絡を共有します)</p> <p>※必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の曜日班会議に出席ください。</p> <p>※希望者は、土・日いずれかの班へ加入も可能。</p>
⑬活動可能な時間帯	<p>() 時ごろ～() 時ごろ</p> <p>理由があれば()</p>

⇒当てはまる□に を入れて下さい。

⑭ 活動してみたい内容	※複数回答可
<p>※自分の能力を活かし(できる・やってみたい)、希望する内容(分野)で活動する!</p>	
<input type="checkbox"/> 民具体験サポート C	(小3 社会科 8月～3月)
<input type="checkbox"/> 誘導ボランティア	(小・中・高・特別支援諸学校 4月～3月)
<input type="checkbox"/> 展示解説ガイド	(小・中・高・特別支援諸学校の各教科の学習に対応 4月～3月)
<p>例) 先生の要望に応じた解説、離島等の小規模校対応、ジブンボックスの配置など</p>	
<input type="checkbox"/> 資料整理活動	(4月～3月) *新聞スクラップ, 発送手伝い, ボランティア室の整美など
<input type="checkbox"/> ふれあい体験室の支援	(4月～3月)
<input type="checkbox"/> 体験学習教室の支援	(年数回)
<input type="checkbox"/> 一般来館者向け—展示解説ガイド	
<input type="checkbox"/> 曜日班世話係	* 曜日班会議の中で協議して下さい
<input type="checkbox"/> 曜日班(副)世話係	* " (連絡等, 世話係りを補佐します)
<input type="checkbox"/> 他——提案する活動があれば	()
<p>★要望や意見がありましたらご記入下さい。</p>	



↓裏面も記入

○提出先＝博物館教育普及へ

○提出前に各自で控えをお取り下さい

☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈考古・歴史〉



担当学芸員による常設展示室の解説（考古）



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（考古）



担当学芸員による常設展示室の解説（歴史 近世・古琉球）

☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈歴史・美術工芸〉



担当学芸員による常設展示室の解説（歴史 近現代）



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（歴史）



担当学芸員によるの常設展示室の解説（美術工芸）

☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈美術工芸・生物〉



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（美術工芸）



担当学芸員によるの常設展示室の解説（生物）



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（生物）

☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈地学〉



担当学芸員によるの常設展示室の解説（地学）

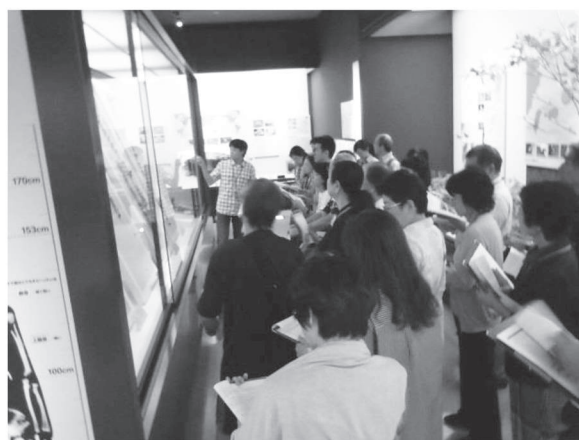


担当学芸員によるの屋外展示物の解説（地学）



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（地学）

☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈人類・民俗〉



担当学芸員によるの常設展示室の解説（人類）



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（人類）



担当学芸員によるの常設展示室の解説（民俗）

☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈民俗・教育普及〉



担当学芸員によるの常設展示室の解説（民俗）



担当学芸員によるふれあい体験室の解説（民俗）



担当学芸員による講座（教育普及）



担当学芸員による講座（教育普及）



☆第6期 博物ボランティア専門講座の様子〈実地体験・交付式・全体会〉



民具解説



着衣体験



登録証交付式



ボランティア登録後の全体会



ボランティア登録後の全体会



平成26年度博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座実施要項

1 目的

来館者へのサービス向上や多様化するニーズに対応するため、一般来館者（修学旅行生含む）向けの総合展示部門解説ガイドボランティア養成を行う。

2 方針

(1) 展示解説ガイド実施に向けて

- ① 博物館ボランティアの分野別勉強会協力のもと、ボランティアによる総合展示部門解説ガイドを実施する。
- ② 指定管理者（文化の杜）教育普及担当がコーディネートの役割を担う。
- ③ 解説場所や内容については、「展示解説マニュアル」を基本とする。

(2) 展示解説ガイドボランティア養成について

- ① 博物館教育普及担当は、平成26年度総合展示部門解説ガイドボランティア養成の企画・立案を担う。
- ② 分野別担当学芸員は、解説ガイドの項目及び内容等について監修をおこなう。

3 組織体制

(1) 学校団体対象（県内）《実施中》・・・ 現行通りの体制で実施。

情報センター受付 → 学習プログラム（下見必修）
*県教育普及コーディネート
離島小規模校
*文化の杜一友の会連携

(2) 一般来館者（修学旅行生）対象

☆総合展示部門
情報センター受付 → *文化の杜教育普及コーディネート⇄友の会連携

4 内容

A 30分コース⇒ 総合展示室のみを30分でまわる

- (1) 総合展示室5か所ほどの展示項目について、来館者を解説案内する。
- (2) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

B シンブンボックス⇒ 総合展示室への配置（時間設定を行う）

- (1) 総合展示室の5カ所に配置。一か所5分程度を目安に来館者に解説する。
- (2) 「展示解説マニュアル」に基づき解説をおこなう。

5 配置方法

- (1) 来館者の希望により、[A]・[B]を選択できるようにする。
- (2) 展示解説ボランティアは2人1組でガイドを実施する。
- (3) 文化の杜教育普及がコーディネートする。

6 受 入

- (1) 事前予約制（開催の2週間前までに申し込み）
- (2) 火・水・木・金の9:30～16:00
- (3) 10名以上の団体から受付
- (4) ガイド1（2人1組）＝1グループ（10名以上）・・・一般来館者、小規模の修学旅行生
- (5) ジンボンボックス待機（ボランティア7～14名の配置）・・・100名以上の団体

7 研 修

- (1) 総合展示部門解説ガイド養成講座内容・・・別紙参照
 - ①募集期間
平成26年8月15日(金) ～ 9月2日(火)
 - ②申込み方
申込用紙に記入し、ボランティア室設置の箱に投函する
※ボランティア室に箱を設置（申込用紙を1週間おきに回収する）

「第2回 博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座」 日程表

回	開催日・場所	時間	内容	担当者
1	9月19日(金) (常設展示室)	14:00~14:35	考古分野の展示解説について	片桐
2	9月24日(水) (常設展示室)	14:00~14:35	歴史分野の展示解説について	崎原・石垣
3	9月26日(金) (常設展示室)	14:00~14:35	美術工芸分野の展示解説について	園原・與那嶺
4	10月1日(水) (常設展示室)	14:00~14:35	生物分野の展示解説について	山崎仁也
5	10月10日(金) (常設展示室)	14:00~14:35	地学分野の展示解説について	仲里
6	10月15日(水) (常設展示室)	14:00~14:35	人類分野の展示解説について	藤田・山崎真治
7	10月17日(金) (常設展示室)	14:00~14:35	民俗分野の展示解説について	大湾

※学芸員による総合展示室での展示解説（7分野）及び担当分野について、重点を置いた解説を実施。
ボランティアが学校団体の支援に入った時、及び一般来館者（修学旅行生含む）への解説ガイドを想定し展示室の見どころを紹介。

☆講座修了要件として、第6期ボランティア養成の専門講座第1回～第7回を受講すること。
☆原則、講座の補講は設けない。

日程表2

回	開催日・場所	時間	内容	担当者
1	10月24日(金) 講座室	14:00～14:10 14:10～14:25 14:25～14:55 移動 15:05～15:55	開講式 ガイド心得 総合展示室について 実習① 先輩ボランティアに学ぶ	金城、比嘉 金城 土地班長 金城、比嘉
2	11月5日(水) 常設展示室	14:00～14:50 15:00～15:50	実習② (Aグループ) *受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論	金城、比嘉
3	11月19日(水) 常設展示室	14:00～14:50 15:00～15:50	実習③ (Bグループ) *受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論	金城、比嘉
4	12月3日(水) 常設展示室	14:00～14:50	実習④ (Aグループ) *受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論	金城、比嘉
5	12月17日(水) 常設展示室 講座室	14:00～14:50 15:00～16:00	実習⑤ (Bグループ) *受講生同士によるガイド練習 ・講評と寸論 閉講式、ガイド証交付式	金城、比嘉 学芸員、班長

☆講座修了要件

- 1 第6期ボランティア養成の専門講座第1回～第7回を受講すること。(H程表1参照)
- 2 全12回中10回以上の出席。(実習②～⑤は、②・④、③・⑤の組み合わせで計2回)
- 3 実習②～⑤では、各自2回のガイド実習(実践研修)を行う。*1人=2～3カ所(約10分～15分)
- 4 原則、講座の補講は設けない。

☆受講生への連絡事項

- 『博物館学習ノート』を事前学習すると当日の講座が理解しやすいと思います。
- 『博物館学習ノート』は、博物館ホームページや情報センターで見ることができます。

☆第2回 博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座の様子



開講式の様子



開講式の様子（解説ガイドについて）



実習① 先輩ボランティアに学ぶ



実習① 先輩ボランティアに学ぶ



☆第2回 博物館 総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座の様子



実習① 先輩ボランティアに学ぶ



実習②～⑤ 受講生同士によるガイド演習（グループでの寸評）



実習②～⑤ 受講生同士によるガイド演習（グループでの寸評）

平成26年度博物館ボランティア 登録証交付式

1 趣旨

- ・博物館ボランティアの継続にあたり、運営面で更改された事項を確認する。
- ・博物館登録証を交付し、今後の活動の予定等を連絡し活動を促す。

2 日時

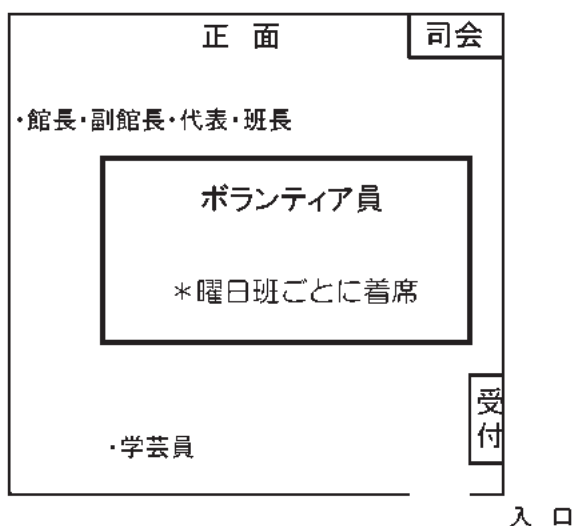
平成26年4月25日(金) 14時00分～14時30分

3 場所

博物館 講座室

4 参加者

博物館館長、副館長、文化の杜代表
博物館班長、博物館各学芸員
(継続)ボランティア員



5 式順

司会 比嘉 香織

- | | |
|---------------------|------------|
| (1) 登録証 交付 | 嵩原 安伸 副館長 |
| (2) 副館長あいさつ | 嵩原 安伸 副館長 |
| (3) 学芸員(博物館職員)紹介 | 上地 聡 博物館班長 |
| (4) 文化の杜共同企業体代表あいさつ | 平良 知二 代表 |
| (5) 文化の杜職員紹介 | 平良 知二 代表 |

登録証交付式終了後 ボランティア員全体会

14時30分～17時

参加対象者：教育普及担当、ボランティア員
進行：比嘉 香織

- 1 IPM(Integrated Pest Management)について14:30～15:00 (30分) 仲里 健(博物館主任学芸員)
- 2 本年度のボランティア活動について 15:10～15:40 (30分) 金城 久枝(博物館教育普及担当)
○博物館ボランティアのてびき』読み合わせ
- 3 質疑応答 (10分)
- 4 曜日班別グループ ミーティング(25分) 15:50～
(自己紹介、世話係選任、年間活動計画案など)
- 5 各曜日班発表(18分)
- 6 勉強会からの報告(10分)
- 7 事務連絡(10分)

平成26年度（2014年度版）
博物館ボランティアのてびき

ボランティア活動テーマ

来館者がよろこぶ博物館に！



沖縄県立博物館・美術館
博物館ボランティア

1 目的

沖縄県立博物館は、県民の自己啓発や学習の場の提供、また、博物館支援活動を目的として、「ボランティア」を導入します。この活動は、多様化する来館者のニーズに対して、よりきめ細かく適切なサービスへの寄与を目的としています。

2 活動の方針

- (1) 生涯学習の視点から、ボランティアがいつでも参加できる環境作りをすすめます。
- (2) ボランティアの自己啓発を促し、活動を通して無理なく楽しく学べる場にします。
- (3) 来館者を発見へと向わせるような発問の研究を行います。
- (4) ボランティアの自立的な活動を導き、意欲的に参加できる方向をめざします。

3 ボランティアの活動内容

(1) 活動の種類

①博物館ボランティア

- ・ 展示解説ガイド
- ・ 体験学習サポート
- ・ 資料整理活動
- ・ その他
- ・ 総合展示部門解説ガイドボランティア

②「ふれあい体験室」専属ボランティア

ふれあい体験室支援 → 土・日・祝日における活動

(2) 活動の内容

○展示解説ガイド

「常設展示室」における展示解説、質問対応など（学校団体（主に学習プログラム対応））

○総合展示部門解説ガイドボランティア

「総合展示部門」における展示解説（学校団体/一般来館者）

○体験学習サポート

「学校団体対応」「ふれあい体験室支援」「体験学習教室支援」

○資料整理活動

「新聞スクラップ整理」

○その他

「ボランティア間の連絡」「各種刊行物の発送業務」「文化の杜共同企業体主催催事支援」

「ふれあい体験室 I PM清掃」※原則：毎月第4月曜日 13：20～

(3) 活動の種類、場所、人員の配置数等

	活動の種類	場所	内容 と ボランティア配置数	指定管理者担当
①	常設展示対応	常設展示室	サポート=数名	1人
②	学校団体対応	常設展示室 ふれあい体験室 民家・実習室	展示解説ガイド 体験学習サポート=数名	1～2人
③	体験学習教室	民家・実習室	サポート=数名	1～2人+外部講師
④	(県)特別・企画展	特別・企画展示室	サポート=数名	なし

(4) 運営体制

〔ボランティアの構成〕

- ① ボランティアは、博物館ボランティアと「ふれあい体験室」専属ボランティアから成ります。
- ② 博物館ボランティアは、博物館養成講座(P.4の9(1)参照)履修のボランティアとします。

〔活動日・曜日班〕

- ① 博物館ボランティアは自身の希望する曜日に、希望する種類の活動をします。
※月曜日が祝日で開館する場合、「ふれあい体験室」専属ボランティアを中心に活動を行います。
- ② 博物館ボランティアは、曜日班に所属し、月1回の定例会で、活動情報を共有します。
- ③ 曜日班の中に、正副世話係をおきます。曜日班の世話係は、活動の連絡を行います。

〔分野別勉強会〕

- ① 博物館ボランティアは、各分野別勉強会に参加することができます。
- ② 各分野別勉強会に正副の世話係をおきます。分野別勉強会の世話係は活動の連絡を行います。

〔連絡会〕

- ① 博物館担当者、分野及び曜日の世話係、文化の杜、友の会によるボランティア連絡会を月1回開催します。※原則第3火曜日 15：00～

(5) 経費

- ① 博物館は、ボランティアスタッフの活動に際する事故などに備え、ボランティア保険に加入します。
※保険は毎年3月に更新、保険期間は1年とします。
- ② 博物館は、ボランティア活動に必要な名札を購入し、貸与します。
※破損・紛失した場合は、博物館及び文化の杜担当者までお申し出下さい。

(6) 活動日、時間、回数

- ① 活動は原則的に博物館の開館日とします。
- ② 活動時間は、1回で3時間程度とします。※場合によっては考慮します。
- ③ 活動回数は、月に2回以上とします。

(7) 遵守事項

- ① 博物館の諸規則に従って下さい。
- ② 博物館の展示方針に従って説明等を行って下さい。
- ③ 博物館内での政治活動、宗教活動は行わないで下さい。
- ④ 博物館の名誉を傷つける等の行為は行わないで下さい。

(8) 活動中の事故

- ① ボランティア活動中の傷害事故、偶然な事故によりボランティアがケガをした場合は、ボランティア保険の対象となります。
※館が認めるボランティア主催の館外勉強会等も含まれます。
- ② ボランティアの故意による事故、ボランティア活動外の事故については、原則としてボランティア自身がその責を負うこととなります。

4 ボランティア活動の各組織

(1) 博物館教育普及

ボランティア担当	総括	副担当
	◎ 金城	比嘉

(2) ボランティア担当の役割

- ① ボランティア登録に係る諸業務。
- ② ボランティア研修に係る企画、調整。
- ③ ボランティアの活動に関する企画、調整。

(3) 曜日班

曜日班は、ボランティア間の連絡や（連絡網を作成する）、館におけるボランティア活動の諸情報を収集する場であり、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 博物館ボランティアは、必ずいずれかの曜日班に属し、毎月の定例の曜日班会議に出席します。
- ② ボランティアの活動を活性化させるために、曜日班に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、曜日班内で選任されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は、ボランティア連絡会での情報を、曜日班会議の中で班員に伝えます。
※曜日班定例会は、ボランティア情報の共有と情報交換の場です。
- ⑥ 定例の曜日班会議は、世話係の進行でボランティア室で開催します。
- ⑦ 曜日班は月曜を除く、6つの班で編成します。

班	定例会	時間帯	班	定例会	時間帯
火曜日班	第 火曜	00:00~00:00	金曜日班	第 金曜	00:00~00:00
水曜日班	第 1 水曜	00:00~00:00	土曜日班	第 土曜	00:00~00:00
木曜日班	第 木曜	00:00~00:00	日曜日班	第 日曜	00:00~00:00

※「ふれあい体験室」専属ボランティアは、連絡網のみ作成。但し、希望者は土/日いずれかの班へ加入も可能。

(4) 分野別勉強会

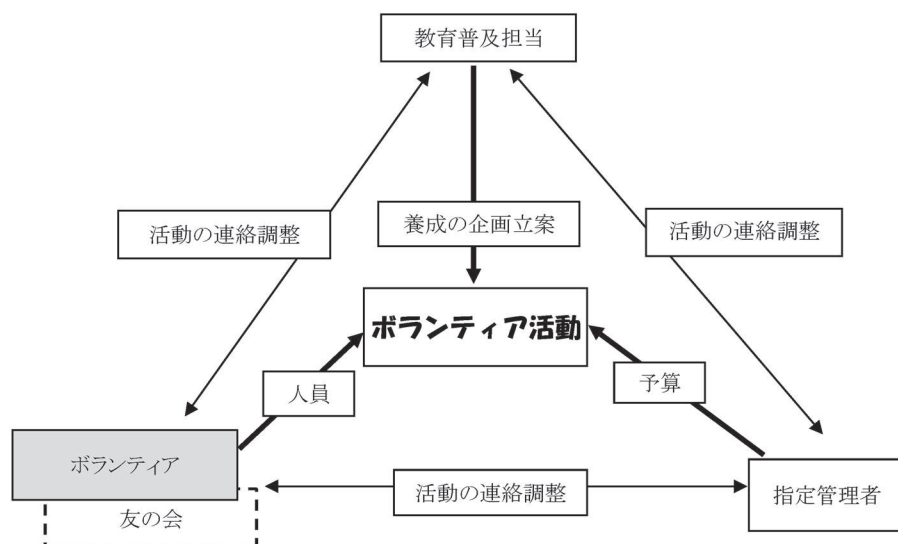
分野別勉強会は、ボランティアが自己研鑽として学習する場の提供と、継続したボランティア養成の補完的役割を担い、世話係を中心に自立的で協力的な運営をめざします。

- ① 専属ボランティアを含むすべてのボランティア員は、分野別勉強会へ自由に参加でき、複数の勉強会への参加も可能です。
※活動は自立的で、協力的であること。勉強会参加を希望する者は、ボランティア室に掲示する参加者名簿に記名をおこない、勉強会への出席に責任をもつこと。
- ② ボランティアの活動を活性化させるため分野別勉強会に正副の世話係を置きます。（以下世話係）
- ③ 世話係は、勉強会内の選任で選出されます。
- ④ 世話係は、毎月1回のボランティア連絡会に出席します。※原則第3火曜
- ⑤ 世話係は各分野の学芸員と連携を取り、毎回の研修内容の調整や企画をおこないます。
※分野別勉強会は、ボランティアの自己研鑽の場であり、ボランティア養成の補完的役割を担います。
- ⑥ 分野別勉強会の世話係は、ボランティア室において、全ボランティアに研修計画を告知します。

分野	定例会	時間帯	分野	定例会	時間帯
人類学・自然史	第 土曜	00:00～00:00	美術工芸	第 土曜	00:00～00:00
歴史・考古	第 土曜	00:00～00:00	民俗	第 土曜	00:00～00:00

※開催日時は、諸事情で変更になることがあります

5 ボランティア組織図



※ボランティア活動は、自身の希望する活動の場であり、ボランティアの自立的な取り組みを目指します。

6 登 録

ボランティア登録は下記によりおこないます。

(1) 仮登録

「養成講座」終了後、応募者については資格要件及び適性を確認し、ボランティア名簿に仮登録します。

(2) 本登録

☆博物館ボランティア

「養成講座」受講者のうち、当館が定めるボランティア「専門講座」を修了した者で、館長の認定した者を本登録者とします。

☆「ふれあい体験室」専属ボランティア

「ふれあい体験室」専属ボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

☆総合展示部門解説ガイドボランティア

総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座修了後、館長の認定した者を本登録とします。

(3) 登録の更新

登録の活動期間は1年とします。但し、P.2の(6)(7)に示す活動の条件を満たし、継続を希望する者は、更新することができます。

(4) 申請時の提出

次年度、博物館ボランティア活動の継続を希望する者は、指定の申請書に必要事項を記入し、教育普及担当学芸員との面談後、活動の評価通知を確認し、申請の手続きを行います。

(5) 活動の評価通知

館の定めた各種研修会並びに全体会等へ不参加の者、P.2の(6)(7)に示す活動の条件を満たしていない者は、館指定の更新研修受講後に登録更新を行うものとします。

(6) 登録証

① 登録者には登録証を交付します。活動時は常に身に付けてください。

② ボランティアの継続が出来なくなった際には、登録証は返却するものとします。

(7) 登録の抹消

登録期間中であっても博物館ボランティアの資格要件に欠格を生じた場合、また、博物館ボランティアとしてふさわしくない行動があった場合は、登録を抹消することがあります。

7 活動の評価

ボランティア活動の評価は、活動の目標に照らし、博物館側及びボランティアがその機能をどの程度に果たしているかを客観的基準により判断し、それに基づいてボランティア活動改善計画の作成に資することを目的とします。

※評価様式は別に作成する。

- | | |
|---------|---|
| 活動の評価基準 | <ul style="list-style-type: none">① 国際的交流に対応し、県民の自己啓発や学習の場を提供できたか。② 人にやさしく、親しまれる施設を目指し、県民参画の橋渡しとして活動できたか。③ 多様化するニーズに対応し、きめ細かく適切なサービスに寄与できたか。④ 自主的に活動し、生涯学習の実践の場としての役割を担えたか。⑤ 月に2回以上（1回3時間程度）の活動ができたか。 |
|---------|---|

※P.5の(4)に示す、出席簿の記録に基づき、達成状況を判断します。

8 表彰及び昇格規定

(1) ボランティア精神が旺盛で、その活動が顕著な者を表彰することができる。 *表彰基準は検討中

(2) ボランティア活動の充実とともない、上級ボランティアを認定することができる。 *認定方法は検討中

9 その他

(1) 研修プログラム

☆博物館ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間で5日間（講義）＋1日2時間で2日間（実習） 合計約14時間
例：(副)館長講話、沖縄の歴史・文化の講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など
- ② 専門講座…1日2時間で7日間（講義と実習） 合計約14時間
例：博物館学習ノート紹介、ふれあい体験室(体験キットの解説)、発問の研究など
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習
例：企画展の解説、スキルアップ研修、体験学習教室の事前勉強会など

☆「ふれあい体験室」専属ボランティア

- ① 養成講座…1日2時間（講義）＋2日4時間（実習） 合計約6時間
- ② 更新研修…レポート提出（例：ボランティア活動の復習等）
- ③ 臨時研修…スキルアップ研修等

☆総合展示部門解説ガイドボランティア

- ① 養成講座…1日3時間で3日間（講義） 合計約9時間
例：(副)館長講話、ガイド心得、沖縄の歴史・文化等の講座、沖縄の自然等についての講座、実地研修など
- ② 実践研修…1日2時間で2日間（演習） 合計約4時間
例：総合展示部門での実践形式演習
- ③ 更新研修…1日2時間で2日間 合計4時間
- ④ 臨時研修…必要に応じて随時実習

(2) ボランティア活動時の服装等について

- ① ボランティアとして正式に登録された者には、ボランティア身分証明書として、ボランティア登録証を交付します。
- ② ボランティア活動を行う場合は、安全性と機能性を考え、博物館ボランティアにふさわしい服装とします。
- ③ ボランティア登録証を常に身につけるものとします。

※博物館ボランティアは、緑色のストラップ / 平成26年度の登録証の色は水色です。

(3) ボランティア室の使用について

- ① ボランティア室については、教育普及担当の許可を得て使用できます。
- ② ボランティア室は、原則としてボランティア活動のために以下のような活動で使用します。
 - ア P.1の3(1)～(4)に示す活動に関する使用
 - イ 日程、連絡等のボランティア活動の掲示
 - ウ ボランティア活動のための器具類の保管及び使用
 - エ 来館者を発見へと向わせるような発問の研究
 - オ ボランティア活動のための休憩
- ③ ボランティア室には勝手に私物をもちこまないで下さい。
※個人の持ち物は、自己の責任で管理して下さい。
- ④ ボランティア室の使用時間は原則として、館の開館日の開館時間から閉館時までとします。
- ⑤ ボランティア室は原則として使用した者が片づけ（整備・清掃）をするものとします。

(4) ボランティア出席簿の記入について

- ① 活動終了後ボランティアは、ボランティア室にある**出席簿**に、活動の記録をおこないます。
- ② 分野別勉強会への参加は“ボランティア活動の評価基準”にそぐわないため出席簿には記入できません。
※各勉強会のボランティアの参加状況は、各勉強会の世話係が記録（名簿管理や出席状況等）をおこない、12月にまとめて、教育普及担当へ提出します。（様式→勉強会参加者名簿）
- ③ 「その他」の欄は、P.1の3(2)その他など、館が臨時召集した内容等を記録します。
- ④ 「会議参加」の欄は、館が主催する会議への参加を記録します（全体会、曜日班定例会、ボランティア連絡会など）。
- ⑤ P.2の(6)②に示す1回の活動時間の目安は3時間とします。
- ⑥ 1日で6時間以上の活動をおこなった場合。
例：午前＝学校対応3時間、午後＝ふれあい体験室支援3時間）、出席簿の記入は、2カ所の記入を認めます。
※但し、短時間で2カ所の活動を実施してのカウントは認めない（例：1.5時間×2カ所）
- ⑦ 都合により館でのボランティア活動が不可能になる場合、博物館教育普及担当へ活動休止の理由の電話連絡を入るとともに、出席簿にも活動休止のメモを記入します。
(例：7/5～8/31まで活動休止します。)

(5) 欠席時の連絡について

活動当日、都合で来館が不可能になった場合、登録証の裏面に示す番号へ連絡を入れて下さい。

- ①博物館教育普及（金城、比嘉） TEL 098-851-5401（内線253）
- ②文化の杜教育普及（大濱、渡部） TEL 098-941-8200
（内線151（大濱） 155（渡部） 220（ふれあい））
- ③友の会事務所（高江洲、福嶺） TEL 098-868-2722（内線113）
※曜日はならびに勉強会の問い合わせは、各世話係りへおこないます。

(6) 台風時の対応

台風時の活動は、館の開館状況に準じます。

- ①午前7時現在、暴風警報（以下「警報」）が発令されているときは、午前中閉館とします。
- ②正午時現在、警報が発令されている場合は午後も休館とします。
- ③開館中に警報が発令された場合は、直ちに休館とします。
※安全面が確認された時のみ、来館をお願いします。

発行日：2014年 3月25日 発行：沖繩博物館友の会 電話：098-968-2722

～ 教育普及 ～

★平成26年度ポラテア登録

平成26年度ポラテア登録申請数は、博物館ポラテア登録者56名、ふれあい体験室専属ポラテア7名の合計63名となりました。17名の方が様々な理由によりポラテア活動を卒業されることとなりました。これまで、博物館活動へご尽力いただき感謝申し上げます。平成26年度継続登録されたポラテアの皆様、新年度もよろしくお願ひいたします。

★平成26年度春季ポラテア全体会・ポラテア登録証交付式のお知らせ

下記の日程で春季ポラテア全体会およびポラテア登録証交付式を行います。ポラテア員全員参加ですのでお知らせ致します。

春季ポラテア全体会・ポラテア登録証交付式
日時：4月25日(金)14時～16時 場所：博物館講義室(1F)
対象：博物館ポラテア・ふれあい体験室専属ポラテア
※当日、H25年度ポラテア登録証を受付までご返却下さい。

～その他のお知らせ～
ふれあい体験室
清掃ポラテア募集
4/28(月)13:20～

☆お世話になりました！(久田千春)

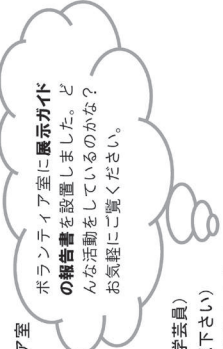
平成24年度に博物館班 教育普及 嘱託員として採用されて以降、ポラテアの皆様には大変お世話になりました。博物館、そして教育普及という業務は初めて携わるもので、最初の一年間は戸惑いばかりでした。ポラテアの皆様にもご迷惑をおかけしたと思ひます。皆様からのあたたかい声掛けがあったからこそ業務に励むことができたと思ひます。2年間ほんとうにありがとうございました。

～ 文化の杜 ～

昨年7月に配布終了となった「ふれたいシート」
でも、来館すること定着し、ふれあい体験室の常連さんになりました。「あそぶ会」は、4年生になるとクラス替えの為、解散してしまいましたが、また新しい仲間を連れて訪れることを期待しています。
これから、「ふれたいシート」を活用して、来館者が「また来たい」と思える場所を目指していきたくたいです。博物館の親しみやすい空間づくりには、ポラテアの皆さんの力が大きいように思ひます。ご協力をよろしくお願ひします。(渡部)

◆～◆～ 4月の勉強会 ◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・4/5(土)10:00～12:00 ポラテア室
1.平成26年度、世話係り紹介
- ※ 展示ガイドの進め方について 3.その他
歴史勉強会・・・4/12(土)10:00～ ポラテア室
1.定例会、役員紹介・年間計画・その他
2.美工勉強会・・・4/26(土)15:00～17:00
企画展『三線のチカラ展』展示解説会(講師：園原謙 学芸員)
- ※ 自然勉強会・・・未定(ポラテア室の掲示板をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、ポラテア室の掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。



発行日：2014年 4月25日 発行：沖繩博物館友の会 電話：098-968-2722

～ 教育普及 ～

●平成26年度 博物館班メンバー紹介

副館長	高原 安伸	人類	藤田 祐樹	民俗	大湾 ゆかり
班長	上地 聡	人類	山崎 真治	考古	片桐 千重紀
歴史	崎原 恭子	地学	仲里 健	学芸補助	早瀬 千明
美術工芸	興那嶺 一子	生物	山崎 仁也		
美術工芸	園原 謙				
教育普及	金城 久枝				
普及補助	比嘉 香織				

●教育普及班 着任のあいさつ【比嘉香織】

博物館ポラテアの皆様はじめまして！
今年度から久田千春さんの後任として教育普及業務に携わることになりました。今年度と申しますが、まだ不慣れな業務に引継資料をバサバサと引き出しは悪戦苦闘しておりますが、教育普及班の一員としてトキメキ溢れる充実した毎日を送らせていただいております。業務が身に付くまでは何かと皆様にご迷惑をおかけする事もあるかと思ひますが、いち早く業務をこなせるよう一生懸命努めてまいりますので、ピンバシと厳しく愛のご指導の程宜しくお願ひ致します！！



～ 文化の杜 ～

「展示ガイド始動」
昨年、予てから要望のあった「常設展示ガイドポラテア」が結成し、現在25人のポラテアさんが登録しています。登録から約1ヶ月後には美観の場を迎え、4月までに3団体へのガイドを熱しました。利用者はいずれも県外の修学旅行生や大学生で、「沖縄の歴史や文化の流れに触れたい。」という理由からガイドを希望されました。ポラテアの皆さんもその思いに添えるべく、緊張しながらも落ち着いた口調で丁寧に対応し、時には会話を交えて交流を深めていました。

その結果、利用者からは「説明が簡潔でわかりやすかった。気持ちよくもっていた。」「今まで知らなかった琉球を知ることができた。」「また博物館に来たい。」など、うれしいお声を沢山いただきました。

当日の様子については、ポラテア室に「展示ガイドポラテアのつぶさき集」ファイルに綴じていますので、お気軽にご覧ください。そして、今年度も「総合展示ガイドポラテア」を募集します。興味のあるポラテアの皆さんも是非、ご参加ください。(文化の杜 大瀨萌子)

◆～◆～ 5月の勉強会 ◆～◆

- ※ 民俗勉強会・・・5月はお休みです。
- ※ 歴史勉強会・・・5/10(土)10:00～12:00 3階学芸員による歴史展示解説 他(掲示板をご確認下さい)
- ※ 美工勉強会・・・未定(ポラテア室の掲示板をご確認下さい)
- ◆ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆ 内容が変更する場合がありますので、事前に掲示板での確認をお願いします。

☆～自然班メンバー募集～☆
※今回は一緒に企画＆運営してくれる方を募集します。
※第1回班会
日時：5月9日(金)10:00～
場所：ポラテア室
(自然班：波平恵子)

博物館ボランティア通信 第80号 (H26年6月)

発行日：2014年 5月25日 発行：沖繩博物館友の会 電：098-868-2722

～ 教育普及 ～

- 平成26年度第6期博物館ボランティア養成講座スタート！！
平成24年度の第5期生に引き続き、今年度は第6期生のボランティア募集を行いましたところ、**A** 博物館ボランティア(主に平日活動)に24名、**B** ふれあい体験室専属ボランティア(土・日・祝祭日活動)に5名の申込みがありました。
- 養成講座の開講式は**A**は5月14日(水)、**B**は5月17日(土)にそれぞれ行いました。皆さん緊張の面持ちで参加されていました。先輩ボランティアの皆さんどうぞ温かい目で見守ってあげてくださいね♪



A 開講式の様子



B 開講式の様子

- ボランティア募集予定 ※募集用紙をボランティア室へ掲示します！！

募集日時	募集内容	募集人数
6月19日(木) 14:00～16:00	阿波連小学校民具体験(1クラス児童1名)	8名程度
6月30日(月) 13:20～	ボランティア室・ふれあい体験室養生(燻蒸前作業)	6名程度

～ 文化の社 ～

【第6期博物館ボランティア 養成講座スタート！！】
5月14日(水)から「A.博物館ボランティア」、5月17日(土)から「B.ふれあい体験室専属ボランティア」それぞれ養成講座が始まりました。受講生の皆さんは緊張した面持ちでしたが、担当学芸員の講座をしっかり聴き、熱心にメモをとっていました。今回の応募者は20代から70代まで幅広い年齢層ですが、「ボランティア活動を通して、博物館を知りたい、盛り上げたい」という1つの共通した思いを持ち、講座に臨んでいます。そんな6期生の皆さんが楽しくスムーズに受講できるようにサポートしたいと思います。皆さんは、ボランティアを応募したときのことを覚えていますか？そのエピソードもぜひ聞かせてください。(巨保)

❖❖❖ 6月の勉強会 (詳細は掲示板をご確認下さい) ❖❖❖

- ※民俗勉強会・・・6/7(土) 9:30～12:00 館外「糸満海人工房資料館」へ
- ※歴史勉強会・・・6/14(土) 9:25～12:00 3階研修室
- 1. ガイド練習 2. 定例会 3. ピデオ鑑賞
- ※美工勉強会・・・未定
- ※自然班メンバー募集中！！
- ※参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ※内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

博物館ボランティア通信 第81号 (H26年7月)

発行日：2014年 6月25日 発行：沖繩博物館友の会 電：098-868-2722

～ 教育普及 ～

- 平成26年度 第6期博物館ボランティア養成講座 予定です。
また、ふれあい体験室専属ボランティア**B**について、7月12日(土)に開講式と登録証交付を行いました。さっそく期待のルーキーとして現場で活躍していただきます♪
- 博物館ボランティア**A**は7月11日(金)に養成講座を受講希望の方は、9月19日(金)開講までの約2か月間、自主学習の期間としてふれあい体験室支援参加などで知識や経験を深めていただく指導致します(〆)！！

- ボランティア参加ご協力をお願いします！！
◇博物館体験教室『カエルの解剖と骨格標本づくり』

募集日時	募集内容	募集人数
7月20日(日) 9:00～17:00	参加者の安全管理、準備・片付け補助	5名程度

～ 文化の社 ～

4年目の開催となる「博物館夏休み学芸員教室 授する」といった趣旨があります。今回は、山崎2014.【7/29(火)～8/1(金)】は、今年度、過去最多10人の学芸員による教室を開催します。1年間の行事の中でも、子どもたちが学芸員と直接接する機会が少ないです。学芸員教室は、夏休み期間中の小・中学生へ向けて、博物館学芸員の研究や調査の様子を体験してもらい、「答えを教えるのではなく、疑問を抱ききりかきや解決する方法を伝

❖❖❖ 7月の勉強会 (詳細は掲示板をご確認下さい) ❖❖❖

- ※民俗勉強会・・・未定
- ※歴史勉強会・・・7/12(土) 9:25～12:00 3階研修室
- 1. ガイド練習 2. 勉強会
- ※美工勉強会・・・未定
- ※自然勉強会・・・活動予定、掲示板をご確認下さい。
- ※参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ※内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 教育普及 ～



<A>：修了証(仮登録)交付の様子>

●《第6期ボランティア養成講座修了》
5月14日(水)から開講した第6期ボランティア養成講座が修了しました。24名の応募中20名の方が全日程を修了され、副館長より修了証(仮登録)が交付されました。9月からの専門講座へむけ、7月～8月は自主活動の期間となります。ふれあい体験室支援等参加する予定です。先輩ボランティアの方々サポートよろしくお願ひします。



：登録証交付の様子>

●《ふれあい体験室専属ボランティア養成講座修了&本登録》
5月17日(日)から開講したふれあい体験室専属ボランティア養成講座が修了しました。6名の応募者全員の方が7/12(土)に無事修了式を迎え、安里館長より登録証が交付されました。これから早速期待のルーキーとして主に土日・祝祭日の活動となりますので、見かけた際は先輩ボランティアの皆さんの温かいご指導よろしくお願ひします。

●ボランティア参加ご協力お願い ※募集用紙をボランティア室へ掲示しています!!

募集日時	募集内容	募集人数
7/29(火)～8/1(金) 10:00～16:30	◆夏休み！博物館学芸員教室(10教室開講予定) →各教室の活動・製作補助 等	各教室 掲示内容参照
7/23(水)～8/24(日) 9:00～12:00	◆夏休み企画!!昆虫ワールド →昆虫ワールドで遊ぶ子どもたちの安全管理	1日1名 (3時間)

～ 文化の社 ～

年に2回やってくる消毒休館。普段賑わっている博物館もお休みということもあり、私たちも心置きなく休暇を過ごせる貴重な時間ですが、皆さんは、いかがお過ごしでしたか？
私は、「時間を忘れて1週間を過ごそう！」と決意し、本部へトリッキングに出かけたり、海でカレーを食べたり、近所のパワースポットを訪ねたり…身近な場所であつくりと過ごしました。時間も忘れ非日常を過ごしていたつもりが、訪れる場所に発見する植物や動物、石神や地名など…普段、博物館で過ごしているせいかわ、考えること感じる事が沢山ありました。これって職業病！？と感じる一方で、更に調べたい！知りたい！と好奇心が自然と湧いてくるのがわかりました。たまたまは、時間を忘れ心も体もリフレッシュすることは大事ですね。さて、いよいよ夏休みが始まります！気を引き締めて仕事の合間をぬいながら自己研鑽したいと思ひます！(大瀧)

◆～◆～ 8月の勉強会(詳細は掲示版をご確認下さい) ～◆～◆

- ※民俗勉強会・・・8/1(金) 10:00～定例会・・・13:00～学芸員教室(民具手帳作り)
- ※歴史勉強会・・・未定
- ※美工作勉強会・・・未定
- ※自然勉強会・・・活動予定、掲示版をご確認下さい。
- ◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 教育普及 ～

●民具体験学習が始まります！
夏休み期間に入り、連日多くの学校から民具体験学習の申込みが入ってきております。主な申込み学年は小学3年生で、8月19日現在25校から申込みがあります。各校の履覧日一覧表をボランティア室に掲示する予定です。今年も皆様のご協力よろしくお願ひいたします。

●平成26年度 博物館総合展示部専門解説ガイドボランティア養成講座 申込み募集！
博物館では、一般来館者向けの総合展示部専門解説ガイドボランティアを募集します。解説ガイドボランティア養成講座へ申込みご希望の方は、ボランティア室入口横のテーブルに準備してある申込み用紙をお受け取りください。

- ★募集期間：8月15日(金)～9月2日(火)まで
- ★申込み方法：申込み用紙に記入し、ボランティア室設置の箱に投函する

●ボランティア参加ご協力お願い ※募集用紙をボランティア室へ掲示しています!!
◇久米村展「チュンジン-体験コーナー」指導・紹介員

募集日時	募集時間	対象者	募集人数
9月14日・21日・28日 10月5日・12日・19日 <日曜日限定の6日間>	午前：10:00～12:00 午後：15:00～17:00 <1日2回開設>	対象者 チュンジン-研修会を受講し、自主練会に参加している方	1回あたり 2～4名

◆～◆～ 9の勉強会(詳細は掲示版をご確認下さい) ～◆～◆

- ※民俗勉強会・・・9/4(木) 9:25～12:00
館外研修(久米村巡り) 9:25:ボランティア室集合
- ※歴史勉強会・・・9/13(土) 9:25～12:00 3階
1.ガイド練習 9:25～
2.定例会 位階制度(追加資料) ・仲村先生の講話
- ※美工作勉強会・・・9/27(土) 10:00～12:00
買納布について ・間得大君の装身具について

- ※自然勉強会・・・活動予定、掲示版をご確認下さい。
- ◆参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。
- ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～裏面もあります～

発行日：2014年 8月25日 発行：沖繩博物館友の会 ☎：098-868-2722

～ 文化の社 ～

夏休み期間中は、毎日多くの来館者がみえ、14時から18時までの間、ボランティアさんの連日、対応して下さったボランティアの皆さんの展示室で待機し、来館者へ史料の解説をしまし本当にありがとうございます！今回は、夏休み期間の様子を少しお話しします。

まず、エントランスで行われていたミニ企画展「昆虫ワールド」では、標本の他、ハチの巣のバルーンやアリの真のトンネルといった体験できるものもあり、子ども達に大人気でした。そのため安全管理が重要視され、ボランティアさん同士で危険箇所の確認や、子ども達への対応方法を共有し、朝早くから対応して頂きました。

この夏、ボランティアさんの活躍で、来館者は博物館で楽しく過ごせて頂いたのではないのでしょうか。体調に気を付けて頂きながら、引き続きご協力をお願い致します。(巨保)



発行日：2014年 9月25日 発行：沖繩博物館友の会 ☎：098-868-2722

～ 教育普及 ～

● 平成26年度 秋季ボランティア全体会のお知らせ

第6期ボランティア登録証交付式終了後、新旧顔合わせを兼ねて、秋季ボランティア全体会を行います。全ボランティア参加となりますので、よろしくお願致します。

日時	平成26年 10月17日(金) 15:20～16:30
場所	博物館講座室
対象	博物館ボランティア、ふれあい体験室専属ボランティア
● 10月の学校団体見学：4校	※募集用紙はボランティア室に随時掲示します!!
菜穂小学校 3年生	10月8日(水) 9:30～12:00
米須小学校 3年生	10月9日(木) 9:30～12:00
宜野湾小学校 5年生	10月10日(金) 9:30～11:30 ※展示解説サポーター
座安小学校 3年生	10月21日(火) 9:30～11:45

● ボランティア参加ご協力お願いします!!

■ 久米村展「チュンジー体験コーナー」指導・紹介員

募集日時	募集時間	対象者	募集人数
9月28日、10月5日・12日・19日	午前：10:00～12:00 午後：15:00～17:00	チュンジー研修会を受講し、自主練習に参加している方	2～4名
※日曜日限定開設			

～ 文化の社 ～

ふれあい体験室体験キットNo.27「国々のおつきあい」は、琉球王国時代の交易に基づいた双六代遊びながら歴史を学べる体験キットです。人気加えて、「古琉球編」も登場し、二つの時代を比べみなさんに大切にされ親しまれてきたり、シートを二つの印刷面の色が薄くなつていたり、シートを取納する際の折れ目がやぶれてしまふなど劣化が進んでいきました。この双六を通して、多くの方が歴史に興味を持つきっかけとなつてほしいのに、文字が読めなくては遊べなくなつてしまふとのことで、この度、新たに製作することが決まり、耐久性を考慮した仕様に変更した

ものが、先日ふれあい体験室に届いて、さっそく強い始めています。これまでは、近世琉球王国時代の交易に基づいた「近世琉球編」のみでしたが、加えて、「古琉球編」も登場し、二つの時代を比べ楽しむことができるようになりました。古琉球編は、東南アジアの国々も順路に含まれ、「芭蕉布をインド更紗と交換する。」などの指令もあります。また、朝鮮陶工や僧侶も登場し、古琉球時代の歴史についてますます興味が増えています。ボランティアの皆さん、ぜひ一度、来館者の対戦相手となつてゲームの内容をお確かめ下さい。

◆～◆ 10月の勉強会(詳細は掲示板をご確認ください) ～◆◆

- ※民俗勉強会・・・10月4日(土) 10:00～12:00 (内容：掲示板をご確認ください)
- ※歴史勉強会・・・10月11日(土) 9:25～12:00 (内容：掲示板をご確認ください)
- ※美工勉強会・・・10月25日(土) 10:00～12:00 (内容：真納布について)
- ※自然勉強会・・・活動予定、掲示板をご確認ください。
- ◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
- ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。

～ 教育普及 ～

●第6期博物館ボランティア登録交付式・秋季全体会

10月17日(金)に行われた登録証交付式にて、16名の方が第6期博物館ボランティアとして登録いたしました。交付式終了後、先輩ボランティアとの顔合わせを兼ねた秋季全体会では、最初ドキドキ緊張の面持ちだった6期生も自己紹介を終える頃にはニコニコ笑顔で、とても和氣あいあいな雰囲気になった全体会となりました。

5月の養成講座から登録まで頑張られた第6期生の皆さん!! 優しくて頼りがいのある先輩ボランティアの皆さんと共に今後も積極的な活動よろしくお願いたします!!

<写真：和やかな全体会の様子>



H26登録人数	第1～5期生	第6期生	計
博物館ボランティア	56	16	72
ふれあい専属	5	6	11
計	61	22	83名

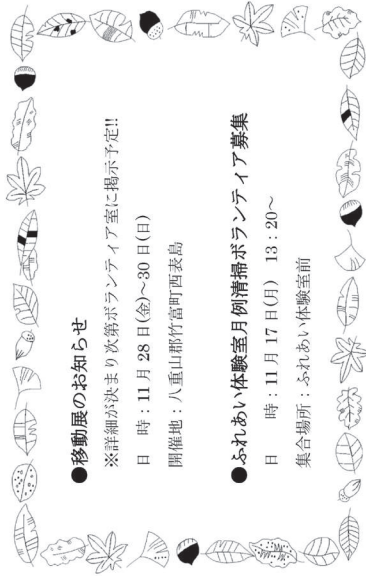
●第2回博物館総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座始まります

10月24日(金)より第2回博物館総合展示部門解説ガイドボランティア養成講座開講します。10名の受講希望者の皆さん、解説ガイドボランティアの登録に向けて頑張ってください!!
!アイト♪

●11月・12月の学校団体見学会(民具体験) ※募集用紙はボランティア室に随時掲示します!!

①玉城小学校	3年生	11月5日(水)	9:30～12:00
②天妃小学校	3年生	11月11日(火)	9:30～11:30
③真壁小学校	3年生	12月2日(火)	9:30～12:00
④石壁小学校A	3年生	12月3日(水)	9:30～11:35
⑤石壁小学校B	3年生	12月4日(木)	9:30～11:35
⑥那覇小学校	3年生	12月11日(木)	9:30～11:30
⑦光洋小学校	3年生	12月16日(火)	9:30～12:00

裏面もあります。



●移動展のお知らせ

※詳細が決まり次第ボランティア室に掲示予定!!

日時：11月28日(金)～30日(日)
開催地：八重山郡竹富町西表島

●ふれあい体験室月例清掃ボランティア募集

日時：11月17日(月) 13:20～
集合場所：ふれあい体験室前

～ 文化の社 ～

先達で、ボランティア養成・専門講座が修了し、博物館ボランティア6期生が誕生しました! 新規のボランティアさんは、いよいよ本格的な活動が始まりますね。

講座では、「もしも、こんな場合は…」と、場面設定もありましたが、現場では深山の場面があり、時には驚き、時には笑い、時には悩むこともあるかもしれません。

活動の中で困ったことや疑問に思うことがあ

❖～❖ 11月の勉強会(詳細は掲示板をご確認下さい) ～❖❖

※民俗勉強会・・・11月1日(土) 10:00～12:00 (内容：掲示板をご確認下さい)

※歴史勉強会・・・11月8日(土) 9:25～12:00 3階 (内容：掲示板をご確認下さい)

●ガイド練習(2名)

●学習発表(2名)

※木工勉強会・・・活動予定、掲示板をご確認下さい。

※自然勉強会・・・11月14日(金) 10:00～12:00 (内容：本部カルストについて)

❖参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

❖内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 教育普及 ～

● 第2回博物館総合展示部門解説ガイドポラテンテア養成講座実施中！！

只今、12月17日(水)の登録証交付に向け、13名のポラテンテアさんが養成講座に取り組んでいます。現在活動中の解説ガイドボランティアのみならず、新メンバーへのアドバイス等よろしくお願ひいたします。

● 12月の学校団体見学(民具体験) ※募集用紙はポラテンテア室に掲示中!!

前走の忙しい中ですが、ご協力お願いします。

①真壁小学校 (3年生、4年生)	12月2日(火)	9:30～12:00
②石嶺小学校A (3年生)	12月3日(水)	9:30～11:35
③石嶺小学校B (")	12月4日(木)	9:30～11:35
④那覇小学校 (")	12月11日(木)	9:30～11:30
⑤光洋小学校 (")	12月16日(火)	9:30～12:00

● ふれあい体験室月例清掃ボランティア募集

日時：12月22日(月) 13:20～
集合場所：ふれあい体験室前

● ふれあい体験室専属ボランティア ミーティングのお知らせ

対象：ふれあい体験室専属ボランティア！！

日時：12月20日(土) 10:00～12:00
集合場所：ポラテンテア室

～ 文化の社 ～

博物館では、久米村長が終わり、11/8(土)から、博物館特別展「水文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～」が開催されています。皆さんは、もうご覧になりましたか？大きな礎には圧倒され、てんてきで、特別展は関連催事も盛り沢山です。現在、私は12/20(土)開催の文化講座「海の文化遺産～水考古学の魅力～」の調整を行っている

この講座は、北海道・神奈川県・長崎県・滋賀県から、様々な海城で調査・研究を行っている講師をお呼びし、日本を代表する水文化遺産をご紹介します。チラシ作成や飛行機の手配等の確認を4人の講師と同時進行で行うので、てんてきやわんやしていますが、その分、魅力的な講座になるかと思っております。どうぞお楽しみに！！(巨保)

❖ ～❖～ 12月の勉強会(詳細は掲示板をご確認ください) ～❖～❖

※民俗勉強会・・・12月6日(土) 10:00～12:00 (内容：掲示板をご確認下さい)

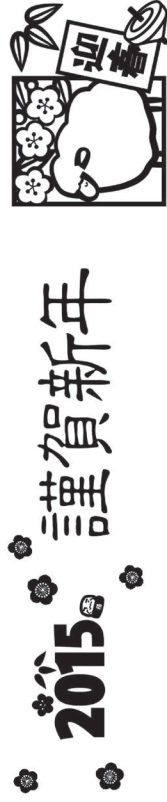
※歴史勉強会・・・12月13日(土) 10:00～12:00 3階 (内容：掲示板をご確認ください)

※美工勉強会・・・館外学習「首里織見学」(日時、内容：掲示板をご確認ください)

※自然勉強会・・・12月12日(金) 10:00～12:00 (内容：植物染料まか)

❖ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。

❖ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認ください。



新年のごあいさつ

沖縄県立博物館・美術館副館長 嵩原 安伸

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。ポラテンテアの皆さまには、日頃の活動に加えて常設展示解説ガイドを始めると、博物館活動に積極的に取り組んでいただき、深く感謝申し上げます。

当館は8回目のお正月を迎えますが、2017年の開館10周年に向けて、さらに魅力を高めるための様々な取り組みを始めたいです。具体的には、中長期計画の策定や「万国津梁の鐘」展示リニューアルに向けた調査を実施しています。また、みなさまの協力もいただきながら、ふれあい体験キットの充実や来館者サービス向上のための案内表示の改善、そして、メインアトレイス出入口の歩行者用通路の整備が進行中です。

今後とも、魅力的な展覧会の開催や教育普及事業、常設展示の改善などを進めますので、引き続きご協力ご支援をお願いいたします。

2015 来年がみなさまにとって、幸多い健康で素晴らしい一年でありますように！

皆で歩んでいく年に

文化の杜共同企業体 代表 上原 徹

博物館ポラテンテアの皆さん、新年あけましておめでとうございます。昨年一年間、文化の杜共同企業体の事業に快くご協力いただき、スタッフ一同、深く感謝しております。

私が文化の杜の代表に就任して半年、初めての正月を迎えます。この期間、展示室の内外で皆さんと接する機会が少なからずありました。参観する子供たちのガイド、一般のお客様への解説、民具体験サポートなど、皆さんの多岐にわたる活動を目の当たりにしてききました。参観者との接点、ふれあいの第一線に立つ皆さんが博物館を支える大きな一助になっていることを随所に感じてきました。

今年もまた多彩な展示会が相次いで開催されます。昨年以上に皆さんの力をお借りすることになります。沖縄県立博物館・美術館が沖縄の文化の発信地として、より県民に親しまれる場となるよう、これからも手を携えて歩んでいきましよう。

今年が皆様にとって良き年になりますことを。



～ 教育普及 ～
新年あけまして おめでとうございます。
謹賀新年

ボランティアの皆様には、学習プログラム（民具体験学習支援）をはじめ、合展示部門解説ガイド、小規模校対応等、博物館来館者への各種支援をいただき大変ありがとうございました。昨年は、6 期生も加わりたくさんの方々にボランティアのご協力いただきました。今年も、引き続き来館者への支援充実に向け、ご協力よろしくお願ひ致します。

ボランティア登録の更新＝《継続希望受付の開始》

さて平成 26 年度も残り 3 カ月となりました。
1 月のボランティア連絡会で「平成 26 年度博物館ボランティア登録申請書」を配布します。
提出期限をご確認のうえ、申請書の提出をお願いします。
※ 1～2 月は、学習プログラム（民具体験学習）実施校が多数あります。
ボランティアの皆様のご協力よろしくお願ひします！！
(博物館教育普及)

昨年は 4 月の着任後、ボランティア全体会の司会に始まり、ボランティア養成講座や専門講座、民具体験に移動展と緊張が途切れることなく、カッチコンチンな状態のまま、なんとか無事！？新年を迎える事ができました。
大型台風の如く過ぎ去った日々を振り返るのは、とても勇気がいりますが・・・しっかりと昨年を見つめ直し、今年はボランティアの皆さんがより活き活きと楽しく、活動しやすい環境、体制作りを行えるよう努めてまいります。
今年も皆さんの温かくも厳しい愛のあるご指導よろしくお願ひ致します。
(比嘉香織)

～ 文化の杜 ～

明けましておめでとうございます。
昨年、ふれあい体験室の運営にご協力いただきありがとうございました。また、私たち、文化の杜ふれあいスタッフを、様々な場面でフォローして下さったことを感謝いたします。
本年もボランティアの皆さんの背中をみて、学ばせていただき、向上に努めていきたいと思っております。12 月より新しいスタッフが加わりましたので紹介します。大学 2 年の新門輪夏（しんじょうすずか）さんです。活動の際に、ご挨拶させていただきます。
2015 年、より良い、ふれあい体験室づくりへのご支援をどうぞよろしくお願ひします。
(渡部貴子)

合展示部門の解説ガイドをはじめとすると、様々な活動において皆さんと一緒に工夫を凝らしながら実施しました。その思いが通じたのか、他催事でリピーターのお客様より嬉しいお声を頂く場面があり、改めて皆さんと一緒に同じ思いでお客様へ対応していることへの喜びを感じました。

2015 年もまた、ボランティアさんと一緒に博物館を舞台に活動できる環境に感謝し、一丸となって博物館を盛り上げていきたい！と強く思っています。

本年も温かいご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。
(大瀧萌子)

新年のごあいさつの前に、11 月 28 日～30 日 第 7 回移動展 in 西表島のご報告をいたします。
今回は、離島の離島ということもあり、天候の影響や来場者数なども心配されましたが、西表島近隣の離島からも多くのお客様が駆けつけて下さり、3 日間で 1,038 人にご来場いただきました。

キャラバン隊の皆様には、様々な場面でご協力いただき、盛大な雰囲気の中、移動展を終えることができました。心より感謝申し上げます。さて、新年のボランティア通信では、恒例の今年の目標を宣言しなくてはなりません。
昨年は、「お客様へまた来たいと思っていただけけるような仕掛けづくり」という目標の元、総



❖ ～ ～ 1 月の勉強会（詳細は掲示板をご確認下さい） ～ ～ ❖

- ※民俗勉強会 ・ 1 月の勉強会はお休みします。
- ※歴史勉強会 ・ 1 月 10 日（土）9：25～11：30 3 階（内容：掲示板をご確認下さい）
- ※美工勉強会 ・ 未定（内容：掲示板をご確認ください）
- ※自然勉強会 ・ 未定（内容：掲示板をご確認ください）
- ❖ 参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願い致します。
- ❖ 内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 教育普及 ～

●平成27年度 博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア登録申請について
 平成27年度博物館ボランティアおよび博物館ふれあい専属ボランティアの登録申請書の受付を下記の日程で行います。
 ボランティア活動継続を希望される方は、提出期日をご確認の上、登録申請書を提出されるようお願いいたします。提出時に、皆様のご希望の活動のふり返りを含めた面談（5分程度）を行う予定です。

◆H27 博物館ボランティア 【配布方法】各曜日班世話係より配布 (ボランティア連絡会にて配布済)	◆H27 ふれあい体験室専属ボランティア 【配布方法】ふれあい体験室にて 文化の杜(渡部)より配布
【提出期間】2月10日(火)～3月3日(火)	【提出日】2月21(土) 10:00～12:00 2月28(土) 10:00～12:00
【提出場所】3F博物館学芸員室(金城) ※受付開始までに平日在室日時をボランティア室へ 掲示しますのでご確認ください。	※平日提出希望の方は受付開始までに平日在室日時 をボランティア室へ掲示しますのでご確認ください。
	【提出場所】3F博物館学芸員室(金城)

●1・2月の学校団体見学会(民具体験)

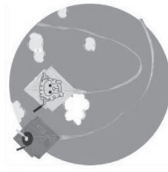
- ①1月28日(水) 9:30-11:30 北谷小(3ヶ所:132名)
- ②1月29日(木) 9:30-11:35 城東小(4ヶ所:133名)
- ③1月30日(金) 9:30-11:35 上間小(3ヶ所:87名)
- ④2月3日(火) 9:30-11:35 真嘉比小(2ヶ所:66名)
- ⑤2月4日(水) 9:30-12:00 上田小学校A(3ヶ所:105名)
- ⑥2月5日(木) 9:30-12:00 上田小学校B(2ヶ所:70名)
- ⑦2月6日(金) 9:30-11:35 具志頭小学校(2ヶ所:62名)
- ⑧2月10日(火) 9:30-12:00 城岳小学校(2ヶ所:62名)
- ⑨2月12日(木) 9:30-11:35 潮平小学校(2ヶ所:62名)
- ⑩2月13日(金) 9:30-11:35 若狭小学校(2ヶ所:62名)
- ⑪2月17日(火) 9:30-11:45 さつき小学校(2ヶ所:62名)
- ⑫2月18日(水) 9:30-11:30 開南小学校(2ヶ所:62名)
- ⑬2月26日(木) 9:30-11:35 金城小学校(2ヶ所:62名)
- ⑭2月27日(金) 9:30-11:35 大道小学校(2ヶ所:62名)

※今年度の小学校民具体験は2月27日の大道小で最後となりますが、1～2月に集中して学校団体対応が多い為、まだ参加されたことのない方はぜひとも！この機会に民具体験ボランティアにチャレンジしてみてください！募集用紙はボランティア室に随時掲示します。ご協力よろしくお願いたします。

～ 文化の杜 ～

現在開催中のふれあい体験室ワークショップは「ふれあい博士の風づくり〜カーブヤヤーに挑戦〜」(毎週土曜日、～3/28まで)です。ふれあい体験室で展示中の風を含め、様々な沖繩の風を紹介したあと、製作してもらおうのは「カーブヤヤー」という、幼児から遊べる沖繩の伝統風です。「カーブヤヤー」とは、ウチナーグチで「コウモリ」のこと。飛ぶ姿が似ているため、そう呼ばれています。当日のワークショップでは、和紙の代わりに28cm角のビニールへ、竹ヒゴを十字に張り、6mの尻尾と風を揚げる糸をつけます。その後は、各自、絵付けをし、新都心公園で風揚げ。私は、10時から30分毎に4回、最後の回を12時に終え、みんな上手に

(渡部)



◆～◆ 2月の勉強会(詳細は掲示板をご確認下さい) ～◆◆

- ※民俗勉強会・・2月7日(土) 10:00～12:00 (内容: 掲示板をご確認下さい)
- ※歴史勉強会・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認下さい)
- ※美工勉強会・・未定(日時・内容: 掲示板をご確認下さい)
- ※自然勉強会・・2月13日(金) 10:00～12:00 (内容: 岩石の分類と特徴(概要))

◆参加希望者は、掲示板に名前の記入をお願いします。
 ◆内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

～ 教育普及 ～

●平成27年度 博物館ボランティア・ふれあい体験室専属ボランティア登録申請受付について

平成27年度博物館ボランティアおよび博物館ふれあい専属ボランティアの登録申請書提出の締切日は3月3日(火)です！！

4月から改めてボランティア保険への加入する為に継続者の名簿を作成します。提出まだの方は、ボランティア室に掲示している在室予定表をご確認後、お早めに提出をお願いいたします。3階学芸員研究室にてお待ちしております。

●博物館ボランティア更新研修のお知らせ

来年度ボランティア登録するにあたって、2日間の更新研修を下記の日程で予定しております。更新研修対象の方は申請書提出の際にご案内いたします。

日 時：3月6日(金)と11日(水)の2日間 10：00～12：00 場 所：実習室

～ 文化の社 ～

先月、東京で文化庁主催の「エデュケーター研修」例えば、民具体験やガイド、ふれあい体験室で様々なニーズのお客様と対応する際、一方的に知識や経験を伝えるのではなく、発問や対話を工夫してお客様がじっくり思考する時間を設けることで、納得したときの喜びは感動に繋がります。

それは、お客様のみならず私たちにとっても大切なこと。お客様との何気ない会話の中で自然に「ゆらぎ」が発生することで、より深い理解へつながります。そして、更にボランティア仲間や職員へ...というようにゆらぎの連鎖が進むと、お互いにもっと深い理解へと発展します。一緒にゆらぎながら、博物館での活動を盛り上げていけたら最高だと思います☆最後に講師の印象に残っている言葉を記します。

「おもしろくて、もっと知りたくなかった！」とい

う、終わりのない楽しさ」
これを、博物館に集まる多くの方が味わえるよう、私自身も精進したいと思います。

次回は、「テイクホームメッセージ」についてお話します。(文化の社 大瀧萌子)

❖～❖ 3月の勉強会(詳細は掲示版をご確認下さい) ～❖❖

※民俗勉強会・・・3月7日(土)10：00～12：00(内容：掲示版をご確認下さい)

※歴史・美工・自然勉強会・・・未定(日時・内容：掲示版をご確認下さい)

❖参加希望者は、掲示版に名前の記入をお願いします。

❖内容が変更する場合がありますので、事前にご確認下さい。

XI その他

1 移動展

名称：第7回 沖縄県立博物館・美術館 移動展 in 西表島

会期：平成26年11月28日（金）～30日（日）

開催時間：午前9時～午後5時（金曜日は10時から）

開催地：竹富町西表島

対象：一般

観覧料：無料

主催：沖縄県立博物館・美術館、文化の杜共同企業体、竹富町、
竹富町教育委員会

特別協力：琉球海運

協力：沖縄県立博物館友の会、沖縄県立美術館支援会 happ、竹富町観光協会、竹富町商工会、
有限会社安栄観光、八重山観光フェリー株式会社、八重山日報、八重山毎日、マスコミ各社、
西表島エコツーリズム協会



趣旨

沖縄県立博物館・美術館は過去から長い年月をかけて収集した多数の資料を収蔵している。移動展は、ふだん沖縄県立博物館・美術館に足を運ぶことが難しい離島の方々にも、県民の財産である当館の博物館資料や美術品を移動展の展示として見てもらうことによって、沖縄県の自然、歴史、文化の広域普及を図り、美術作品を鑑賞する機会を提供することを目的としている。

会場：沖縄県八重山郡竹富町字上原 10-579（中野わいわいホール＋会議室）

展示内容

- ① 「世界の化石と輝く石」 恐竜の骨格標本、岩石
 - ② 「沖縄の自然、歴史、文化」 沖縄の自然、歴史、文化に関する総合展示
 - ③ 教育普及展示 教育普及キットを利用した体験学習
- 【会議室】
- ④ 「教育普及コーナー」 博物館・美術館に関連したぬり絵など
- 【正面玄関付近】
- ⑤ 生物展示 蜂の巣バルーン

来場者数

総入館者数 1,038 人

内訳

○28日（金）/206人（70歳以上3人、一般107人、高大0人、小中59人、未就学児37人）

○29日（土）/436人（70歳以上6人、一般177人、高大5人、小中152人、未就学児96人）

○30日（日）/396人（70歳以上6人、一般222人、高大4人、小中98人、未就学児66人）

①博物館講座参加者数：29人

実施日：11月28日（金）19:00～20:30 中野わいわいホール

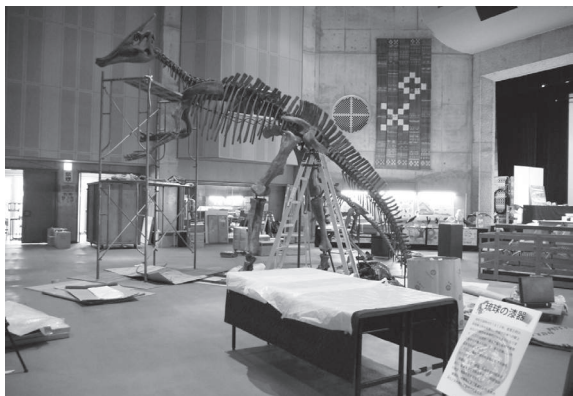
「小島嶼の生物多様性」講師：山崎仁也（生物担当学芸員）

「西表島の起源～古生代からの物語」講師：仲里健（地学担当学芸員）

入館者2,355名（竹富町総人口4,202名：平成26年11月末）の竹富町西表島で、30年ぶりに移動展を開催した。会場には、西表島のみならず近隣の離島より多くの来場者が集い大盛況であった。また、恒例の学芸員による展示解説会や生物・地学担当学芸員による島の魅力を伝える講座も実施し、来場者に西表島でしか見ること・感じることをできない、地域的な特徴を伝えることができた。

（大濱萌子）

移動展開催準備・当日の様子



展示作業風景



開会式テープカット



学芸員による解説



骨ぬり絵



紙芝居ちむどんどん



骨スーツ



ワークシートを解いている様子



講演会の様子

2 沖縄県立博物館・美術館のフリーパス

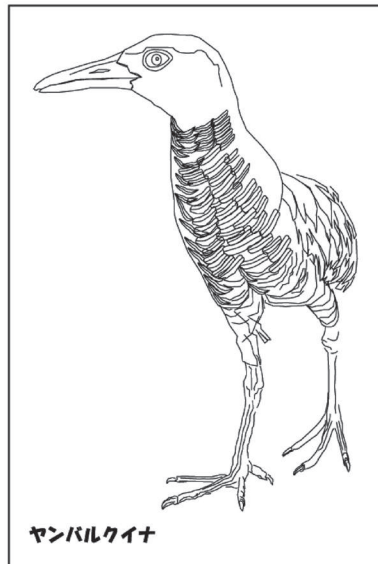
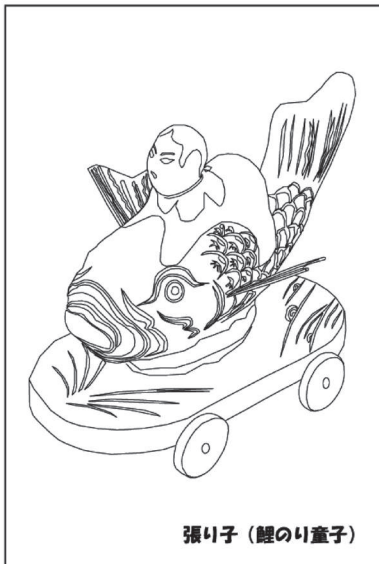
沖縄県立博物館・美術館では、県内の小・中学生が博物館・美術館を知る機会とし、また、同館を身近に感じてもらい、何度も足を運んで欲しいとする目的で「沖縄県立博物館・美術館フリーパス」の印刷・作成を小・中学校に依頼している。

表紙は沖縄の自然、歴史、文化に関する図案を基本とするが、自らデザインした図柄でもよい。裏面にはマス目があり、来館の際にスタンプが押印できる形になっていて、学校で印刷した上で、裏面に校長印を押印し、来館時に総合案内に提出する。

利用の対象は、県内の小・中学生で、学校の授業の一環、または個人での来館の際に持参して利用する。スタンプの押印数については、遠隔地や離島などの学校の生徒にはスタンプの数を調整するなどとして、配慮を行っている。

平成22年度から、ゴールした児童生徒には、情報センターにおいて名前入りの「フリーパス終了証」と記念品（オリジナルクリアファイルと消しゴム）をプレゼントしている。今年度の対象者は0名。

(大瀧萌子)

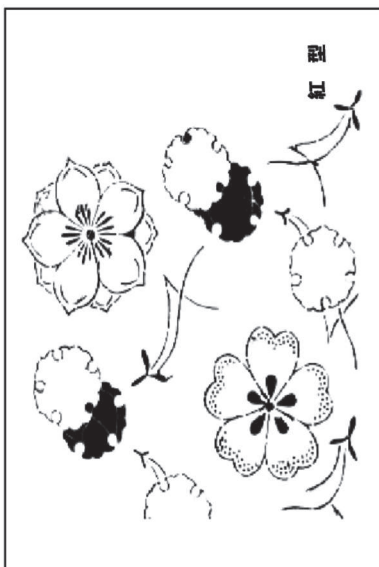


沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年 4年 5年 6年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!				
				10
				ラウンド 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!



沖縄県立博物館・美術館フリーパス

1年 2年 3年

氏名 _____ 学校名 _____ 校長印 _____

スタート!				
				10
				ラウンド 半分だよ!
				20
もう少し!				30 ゴール!

3 職場体験

毎年、文化の杜が窓口となり、職場体験およびインターンシップ、ジョブシャドーイング等を受け入れている。平成26年度は、6校11人を受け入れた。もぎりやミュージアムショップでの接客業務をはじめ、情報センターでの資料整理、総務ではチケット・ポスター等の整理、ふれあい体験室ではワークショップの下準備をした。

また、機会に恵まれ、広報活動でラジオ出演をした生徒もいた。

体験内容：もぎり(入場券の確認)、ふれあい体験室(ワークショップの準備)、ミュージアムショップ(接客、商品の管理)、情報センター(新聞の切り抜き作業・その他資料整理)、総務(チケット・ポスター等の整理)、その他

受入校：6校11人(中学校3校、高等学校3校)

- ① 那覇市立寄宮中学校(2人)6月25日～27日(3日)
- ② 沖縄県立西原高等学校(2人)7月15日～17日(3日)
- ③ 那覇市立安岡中学校(2人)8月27日～29日(3日)
- ④ 沖縄県立那覇工業高等学校(2人)9月24日～26日(3日)
- ⑤ 沖縄県立開邦高等学校(2人)10月1日～3日(3日)
- ⑥ グッジョブおきなわ推進事業局実施(ケイオーパートナーズ：沖縄県委託事業)「ジョブシャドウイング」
興南中学校(1人)12月12日(午前のみ)



(文化の杜 島袋百恵)

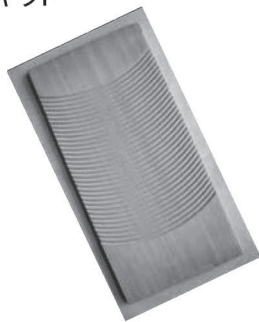
4 けんぱくキット貸出

博物館の教育普及関係資料等を貸出しています。貸出可能な資料は、黒糖づくり、豆腐づくり、民具等です。事前（一ヶ月前）に申請等の手続きが必要となり、貸出期間は一週間となります。無料で貸出しておりますので積極的に活用してください。資料の詳細についてはお問い合わせください。

平成26年度 けんぱくキット貸出一覧

	利用者名	利用目的	貸出期間	資料名
1	太平特別支援学校	沖縄県立博物館・美術館の出前授業に向けて(鑑賞授業)	2014年8月29日～9月5日	むかしむん
2	当山小学校	社会科授業のための体験活動	2014年1月20日～1月28日	むかしむん
3	前川小学校	古い道具と今の道具の違いとくらしの変化から、よりよいくらしを願う人々の努力と工夫を知る。	2015年1月30日～2月6日	むかしむん
4	那覇市立仲井真小学校	社会科授業にて昔の洗濯を体験するため	2015年2月18日～2月24日	洗濯ゴシゴシ
5	那覇市立松川小学校	社会科授業にて昔の洗濯を体験するため	2015年2月26日～3月4日	むかしむん
6	琉球大学 教育学部付属小学校	社会科授業にて黒糖づくりを行うため	2015年3月10日～3月19日	シンメーナービ
7	沖縄県広報交流課	着物の試着をとおして、米国人に沖縄をアピールする。	2015年3月13日～3月31日	1. 紅型のスティナ 2. 絹赤地格子子供着 3. 絹桃色地絁着物 (大人用)

洗濯キット



シンメーナービ



むかしむん



紅型スティナ



5 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービスの向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」に絞り、ボランティアがわかりやすく簡潔に解説することを目指している。

まず、民俗部門展示室においては、民俗勉強会のボランティア有志メンバーが中心となり、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子どもたちを対象に解説ガイドを実施している。来館当日は、文化の杜スタッフが引率教員と担当ボランティアとを引き合わせるが、＜教員との打ち合わせ～オリエンテーション～展示ガイド～まとめ＞までボランティアが先導して行っている。今年度は、5月～12月の間に合計12校196人を受け入れた。

そして、総合展示部門解説ガイドは、昨年の1ヶ月間の試行期間を経て4月より本格的に開始した。平成26年2月～平成27年2月までに12団体908人に向けてガイドを行った。それに加え、1ヶ月に対応する団体数が少ない状況からボランティアと協議し、週2～3回午後待機型のガイドも実施した。7月～3月までに2,020人（1日平均20人）の来場者へ解説ガイドを行い、館内スタッフからも来場者からも継続を希望する声もあり好評である。そして、今年度は規定の養成講座を修了した25人のボランティアに加え、13人が新たに加わり次年度の活動も更なる発展が望まれる。

広報については、県内外の旅行会社へ向けた説明会の他、ホームページ掲載を行っている。また、団体受付窓口の情報センターから直接案内することもあり、年間を通じて実績を残すことが出来た。そして、少しずつではあるがリピーターによる依頼も増えている。

今後の課題としては、様々なニーズの対応が増えていることを受け、来場者の対象に合わせた言葉の選び方、発問の仕方に関する研究・実践があげられる。自立したボランティアを育成する上でモデルとなるケースであることから、今後も学芸員や教育普及スタッフのサポートが求められている。

（大濱萌子）

(1) 民俗ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：15分～30分

③対象：県内の離島をはじめとする20人以下の小学校・中学校・高等学校

④受付方法：

a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。

（FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません）

b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡差し上げます。

※見学をする2週間前までの予約が必要です。（先着順）

※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【15分】「海とのかかわりを学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜ウミのワザ、沖縄の住まいと衣食、年中行事と魔よけ＞

Bコース【15分】「昔の道具を学びたい子どもたちへ（田畑仕事を中心に）」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室＜アギのワザ、暮らしに生きる自然素材、沖縄の住まいと衣食＞

アギとは…ウミに対して、陸地を意味する方言、限られた土地を上手に利用して田畑をこしらえました。さまざまな仕事で使う道具にも人々の知恵と工夫をみることができます。

Cコース【30分】「民俗分野全体を学びたい子どもたちへ」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展示室（村落をとりまく世界→御嶽と神人→訪ね来る神々→人の一生→ウミのワザ→アギのワザ→暮らしに生きる自然素材→沖縄の住まいと衣食→年中行事と魔よけ→祭り→行事の現在→変わりゆく風景）

※メニューを基準に、内容の組み換えは可能です。

※現時点で、民俗分野以外の解説はできませんが、他の分野の展示物の見どころをお話しすることは可能です。（ただし、解説ではなく、展示物名を紹介する程度です。ご了承ください）

(2) 総合展示部門解説ガイド実施内容

①実施日：開館日の9:00～16:00 ②所用時間：30分～60分

③対象：県内外の一般・修学旅行団体

④受付方法：

- a 「沖縄県立博物館・美術館 博物館団体受付申込書」に必要事項を記入の上、FAXで送信。
(FAXを送信しただけで、予約は完了ではありません)
- b その後、受け入れの有無、内容の確認をするため、担当者からご連絡申し上げます。
※見学をする2週間前までの予約が必要です。(先着順)
※ただし、館運営の都合やボランティアの都合等により、ご希望に添えない場合もあります。

⑤参加費：無料

⑥内容：3種類のメニューから選んでください。

Aコース【30分】「総合展示部門：10～100人以内」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→博物館常設展総合展示部門<琉球王国の成立、旧首里城正殿鐘、進貢船、琉球王国の衰亡、米軍車両とナンバープレート>

Bコース【30分】「ジンプンボックス*：100人以上」

エントランスで挨拶→ボランティアの紹介と見学マナーの案内→自由見学(総合展示部門5ヶ所、民俗部門2ヶ所にジンプンボックスを配置し、各箇所に置いて来場者へのガイドと質問対応をおこなう)

*ジンプンボックス：沖縄の方言でジンプンとは「知恵」を意味し、「知恵を与える箱」として設置する。今回のガイドでは、このボックスの前でボランティアが来場者に向けた解説を行う。

■民俗班有志による県内小規模校ガイド

利用団体	日付	団体名	対象	人数	ボランティア人数	備考
1 修学旅行	5月14日(水)	宮古島市立狩俣小学校	小6	10	4	
2 授業	5月27日(火)	E.C キリン小学校	小4・小5	26	2	
3 修学旅行	5月30日(金)	宮古島市立砂川小学校	小6	20	2	
4 修学旅行	6月6日(金)	学校法人カトリック学園 海星小学校	小6	9	3	
5 修学旅行	6月13日(金)	久米島町立比屋定小学校	小5・小6	12	2	
6 授業	6月19日(木)	沖縄県立西崎特別支援学校	中2	30	3	
7 修学旅行	10月22日(水)	沖縄三育小学校	小5	11	2	
8 修学旅行	11月5日(水)	久米島町立仲里小学校	小6	24	2	
9 修学旅行	11月7日(金)	久米島町立久米島小学校	小5・小6	24	2	
10 修学旅行	11月20日(金)	久米島町立美崎小学校	小5・小6	24	2	
11 修学旅行	12月12日(金)	恩納村立喜瀬武原中学校	中1	6	2	
合計			—	196	26	—

■総合展示部門解説ガイド

1 研修	4月18日(金)	東洋きもの専門学校	学生	18	8	Aコース
2 研修	5月20日(火)	沖縄県立球陽高等学校	高2	169	12	ジンプンボックス
3 研修	6月12日(木)	米国高校生①	高校生	125	15	Aコース
4 授業	6月27日(金)	沖縄県立沖縄高等学校特別支援 中部農林分教室	高1～高3	28	7	Aコース*2点
5 研修	7月15日(火)	那覇西高校	高1	40	11	Aコース
6 研修	7月17日(木)	米国高校生②	高校生	75	11	Aコース
7 研修	7月18日(金)	米国高校生③	高校生	50	14	Aコース
8 社会見学	10月17日(金)	沖縄県立沖縄ろう学校	中1～中3	12	6	Aコース
9 修学旅行	10月29日(水)	津久井浜高等学校	高2	120	9	ジンプンボックス
10 一般	11月14日(金)	沖縄県収用委員会	一般	74	11	Aコース
11 修学旅行	2月10日(火)	近江兄弟社中学校	高2	167	12	Aコース(2クラス×2回)
12 一般	2月24日(火)	NHK高松文化センター	一般	30	14	Aコース
合計			—	908	130	—



6 特別展・企画展関連事業

(1) 久米崇聖会創立 100 周年記念「久米村（クニンダ）－琉球と中国の架け橋－」

教育普及では、展覧会関連催事として、文化講座 2 回（参照：Ⅳ 博物館文化講座）、学芸員講座 1 回（参照：Ⅴ 学芸員講座）、展示解説会 4 回（参照：Ⅵ 展示解説会）を実施した。

関連催事には、上記以外にも様々な催し物があり大盛況であった。しかし、大盛況であっただけに定員を上回り、やむを得ず参加できなかった来場者をはじめとする多くの方が、当日の配布資料を求める問合せがあった。更には、台風の影響により中止となった催事もあった。

そこで、教育普及では展覧会関連催事の配布資料を 1 冊にまとめた資料集を作成した。これは、関係者へ配布すると同時に、来場者が気軽に閲覧できるよう、情報センターに設置した。



(2) 「水中文化遺産－海に沈んだ歴史のカケラ－」

関連催事として、文化講座 2 回（参照：Ⅳ 博物館文化講座）、学芸員講座 2 回（参照：Ⅴ 学芸員講座）、体験教室 1 回（参照：Ⅲ 体験学習教室）を実施した。



(3) 「イノシシとブタと私たち」

関連催事として、文化講座 1 回（参照：博物館文化講座）、展示解説会 2 回（参照：Ⅵ 展示解説会）を実施した。

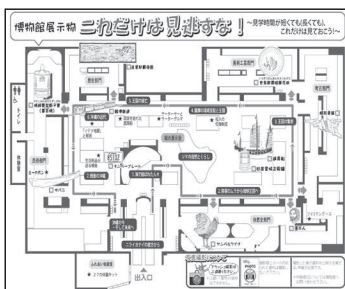


(大瀨萌子)

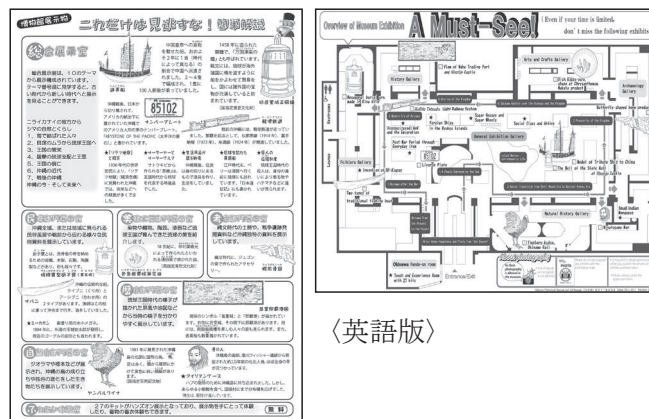
7 常設展に関する取り組み

(1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

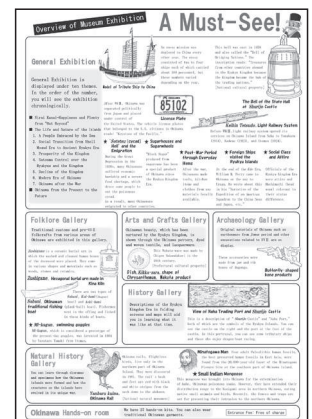
博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、日本語版7,000枚、英語版800枚を配布した。また、撮影許可範囲の変更に伴い、撮影に関する案内と順路を追加し、日本語版15,000枚、英語版1,000枚を増刷した。



〈日本語版〉



〈英語版〉



(渡部貴子)

8 共催事業

(1) OIST沖縄科学技術大学院大学×沖縄県立博物館・美術館

サイエンス・トリップin那覇2015「サンゴのキモチ」

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会ならびに環境省、沖縄県環境生活部自然保護課が呼びかける「おきなわサンゴ礁ウィーク2015」に呼応して、沖縄科学技術大学院大学(OIST)と当館が共催し、3月5日「サンゴの口」を前に「サンゴのキモチ」になって考える科学トーク&科学体験プログラムを開催した。

午前中の小4～中学生向けプログラムでは、サンゴと人間の似ている「模様」を探り、私たちの細胞とサンゴのキクメイシの仲間に共通点があることを発見した。「互いが近い生物である。」という、ロバート・シンクレア准教授(OIST数理生物学ユニット)の話に、参加者は驚いた様子で耳を傾けた。後半はエントランスホールに出て、山崎仁也学芸員(当館生物担当)による、○×クイズや体を動かすネイチャーゲームを通し、サンゴと助け合って共存する、共生生物と天敵との関わりを学んだ。午後の大人向けプログラムでは、新里宙也博士(OISTマリンゲノミクスユニット)が携わる、世界で初めてゲノム解析に成功した、サンゴ研究の最前線について科学トークをし、その後、会場を当館3階の「ミュージアムカフェ茶花」に移して、サイエンス・カフェを開いた。コーヒーや紅茶を飲みながら、和やかな雰囲気の中、参加者からは、第一線で活躍する科学者へ向けて、質問が活発に挙げられた。サンゴが私たちの身近な存在として、感じられる機会となった。

実施日：3月1日(日)

受付：当日先着順

参加費：無料

① 小4～中3向けプログラム

「私たちにもサンゴにもある“模様”を学ぼう」／「サンゴの卵になってみよう！」

講 師：ロバート・シンクレア准教授(OIST数理生物学ユニット)
山崎仁也(当館生物担当学芸員)

時 間：10:00～12:00

場 所：博物館講座室／1階エントランスホール

参加者数：22人(定員80人)



② 高校生～大人向けプログラム

「サンゴ研究最前線」／「幾何学：サンゴや海綿生物は、人類より先に知っていた！」

講 師：新里宙也博士(OISTマリンゲノミクスユニット)
ロバート・シンクレア准教授(OIST数理生物学ユニット)

時 間：13:00～14:00

場 所：博物館講座室

参加者数：49人(定員80人)

「サイエンス・カフェ」

講 師：ロバート・シンクレア准教授(OIST数理生物学ユニット)
新里宙也博士(OISTマリンゲノミクスユニット)
山崎仁也(当館生物担当学芸員)

時 間：14:10～15:00

場 所：ミュージアムカフェ茶花

参加者数：27人(定員30人)



(渡部貴子)

9 新聞・雑誌等掲載一覧

博物館で開催した催事に関する新聞や雑誌における掲載は下記の通りである。

○講座・展示解説会

週刊かふう	6月13日 金曜日	19面	博物館文化講座「明らかになる沖縄の大地震・大津波～これまでとこれから～」
琉球新報	6月16日 月曜日	社会面	博物館文化講座 「戦後69年目に考える沖縄戦-沖縄先住民記録・日本軍史料から何がわかるか-」

○企画展関連

沖縄タイムス	12月11日 木曜日	文化面(魚眼レンズ)	「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ」関連催事 博物館学芸員講座「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」
沖縄タイムス	12月17日 水曜日	文化面	「水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ」関連催事 博物館学芸員講座「国頭村宜名真沖で沈没した異国船の実態を探れ！」

○夏休み！博物館学芸員教室

琉球新報	7月15日 火曜日	14面	夏休み！博物館学芸員教室・ふれあい体験室ワークショップ
------	-----------	-----	-----------------------------

○移動展

沖縄タイムス	12月5日 金曜日	地域面	移動展in西表島
--------	-----------	-----	----------

○おきなわサンゴ礁ウィーク2015

沖縄タイムス	3月2日 月曜日	社会面	OIST×沖縄県立博物館・美術館サイエンス・トリップin那覇2015「サンゴのキモチ」
--------	----------	-----	---

10 印刷物一覧

	タイトル	規格	デザイン	印刷	部数
1	文化講座（12回）	A4 (片面カラー・片面モノクロ)	文化の杜共同企業体	イロドリ/ 館内手刷り	各500
2	学芸員講座（全12回）	A4 (片面カラー)	文化の杜共同企業体	イロドリ/ 館内手刷り	各500
3	夏休み！博物館学芸員教室 (美術館「夏休み！子どもフェスタ2014」との共同制作)	A4 (両面カラー)	グラフィックデザイナー オオツルサヤカ	イロドリ/ 館内手刷り	27,000
4	常設展解説シート「これだけは見逃すな」 (日本語版)	A4 (両面カラー)	教育普及班 (沖縄県・文化の杜共同企業体)	イロドリ/ 館内手刷り	15,000 (増刷分)
5	常設展解説シート「これだけは見逃すな」 (英語版)	A4 (両面カラー)	教育普及班 (沖縄県・文化の杜共同企業体)	イロドリ/ 館内手刷り	1,000 (増刷分)
6	ふれあい体験室ワークシート 「港川人研究所 港川人VS現代人」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	2,000
7	ふれあい体験室ワークシート 「土倉と遺物からわかること 黒曜石で切ってみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
8	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器①チューリップを弾いてみよう」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
9	ふれあい体験室ワークシート 「いろいろな楽器②工工四で弾いてみよう」	A4 (片面モノクロ)	—	館内手刷り	1,000
10	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち①古地図パズルのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
11	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち②古地図絵本のおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
12	ふれあい体験室ワークシート 「島のかたち③古地図かるたのおまけ」	A4 (両面モノクロ)	—	館内手刷り	500
13	教育普及報告書	A4冊子	教育普及班 (沖縄県・文化の杜共同企業体)	有限会社金城印刷	1,000

平成26年度

博物館教育普及活動

2015(平成27)年3月

発行	沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 那覇市おもろまち3丁目1番1号 Tel (098) 941-8200 (代表) Fax (098) 941-2392
編集	沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及 沖縄県立博物館・美術館指定管理者 文化の杜共同企業体
印刷	有限会社 金城印刷 〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町5-9-16 Tel (098) 995-0001 Fax (098) 994-9886